明治十年役薩軍資料

（表紙）

明治十年二月八日
四ノ九番小隊
日記　給養　伊地知正介

（五冊ノ内第一号）

休　鹿兒島　伊集院
八里　市木（來）　向田
拾里　阿久根　野田
四里半　出水　腰兵糧
四里半　水俣　湯之浦
佐敷　田之浦

五里　日奈久　八代
六里　小川　宇都（土）
五里　川尻
二里　熊本
休　鹿兒島　重富
五里　加治木泊　溝邊休
五里　横川泊　（湯）陽之尾休
六里　大口泊　肥後之内久木野休
六里　佐敷泊　田之浦休
五里　日奈久泊　八代（休脱カ）

六里
小川泊　宇都（休脱カ）
五里
川尻泊
二里
熊本
一　眼燈　八ツ
一　提灯　弐張
一　弾薬箱　十五〇
一　細引　四口〇
竹
一　長持　四竿〇
但人足雇夫ノ賦
一　桐油　四枚
一　夫卒　三拾人
右一小隊分

伊東直二
藤井鐵之助
有馬藤九郎

一分隊押伍

伊東直二
。岩切正九郎　九人
。永谷岩之丞　九人
。鮫島彌十郎　九人
。津留正雄　九人
。松崎鷺二　八人

二番分隊

手負。枝次彦左衞門　七人
。山田權十郎
。鎌田雄之進　九人
。村山彦七　九人
。肥後平八　八人
。栗川　少　九人

二月廿四日彦七ヱ代

三番分隊

藤井鐵之助
長井喜之進　九人

戦死。本村吉左衞門

二月廿四日代リ

曾山甚右衞門　九人
。河野半次郎　九人
。谷山陽之助　九人
久保　郁　九人

四番分隊

。有馬藤九郎
。馬場謙助　拾人
。川上　尚一　拾人
。堀　圓（マトル）　拾人
。山田幸吉　拾人
。竹下精二　七人

一三官三名
一兵士百八拾壱名
一押伍弐拾名
一給養四名
一喇叭壱名
一夫卒三十名
総計二百三十九名

明治九年二月（ママ）

十五日　二番大隊出立
十六日　四番大隊
十七日　大砲隊

二月十三日　津畑（港番兵）ハンヘイ用
一　蠟燭五拾丁

右小荷駄方ヨリ受取、

給養方

下町　坂元太兵衛　三十
吉野　今村太郎　三十

三月十二日於城村（山鹿市）ニ手負

上町　野崎嘉右衛門　三十一
上柳町　田邊嘉次郎　二十八

三月十二日於城村ニ手負　三番分隊ヱ除ク

山田　谷山四郎
薄手　後迫　中村清吉　二十二

一番分隊夫卒

吉野　金丸袈裟助　二十三
吉野　吉留庄吉　二十四
吉野　吉留市左衛門　三十五
唐湊　川内藤吉　二十二

三月十二日於城村手負

塩屋村　前田金四郎　二十二
松原神社下通　小藤四郎助　二十

二番分隊夫卒

水俣ヨリ返シ　濱川喜之助　二十四
小野　徳田助次郎　三十三
下新町通　藤崎藤太郎　二十五
上柳町　東條吉太郎　二十三
下出水町　町田正之助　二十一
諏訪馬場　西田次郎助　二十四

三番分隊夫卒

下会社小路給養方　肱岡新太郎　二十三
高麗町　肥後熊吉　二十三
戸櫨　末野市之助　二十六
谷山　中島佐吉　二十九
日置　北原與四郎　二十二

四番分隊夫卒

新昌院　富山喜次郎　二十一
日置　笠込庄吉　二十二
下納屋下　枝元熊太郎
下出水町　東郷孝之進　二十三

孝之進事、五月二日奇兵本営ヨリ兵士申付相成候事、

日置　春成袈裟助　二十六
田上村　丸田袈裟次郎　二十四

二月十四日

回章

一ミニヘル弾薬莚包弐ツ
大小荷駄方ェ預ケ置候也、
一スナイトル弾薬三百六十五箱ツ、
一ミニヘル右同六拾壱箱ツ、
一七連右同壱箱ツ、
右之通旧御住居屋(矢)蔵外四蔵ヨリ相渡候事、
一二月十五日大雪、深サ壱尺三寸位ニて陣営ェ相勤、出立ニ付諸都合いたし、弾薬入付方之事、
一二月十六日晴天、午前六時宿許ヨリ致出立、重富ェ午前八時頃着、直様致宿割、夫より加治木田中市左衛門所ェ致一泊候、
同し
一弾薬弐箱
但莚包ナリ、
大小荷駄方植田ヨリ受取、
一二月十七日晴天、午前七時加治木ヨリ出立ニて溝邊休ニて午前九時着、夫ヨリ横川ェ一時頃着、深瀬宗次郎所ェ一泊、

一二月十八日雪、午前七時ヨリ右宗次郎所より出立、昼休、馬越（マゴエ）士族川崎六右衛門昼休、同所ヨリ十一時比立、大口町（菱刈町）田口休太郎所エ一泊、

一同十九日大雪、午前七時右同所ヨリ出立、小川神坂越方難儀雪壱尺余、夫ヨリ下リ肥後之内石坂（水俣市）ト相となへ、なんきなる坂ニて水俣村崎良載所エ一泊、

一同廿日午前七時出立、ツナキタロコシ（津奈木太郎越）、ウタ坂コシ（歌坂、芦北町）佐敷エ十二時着休み、夫ヨリ佐敷太郎越、田之浦エ三時比藤元善藏所着一泊、

一同二十一日晴、午前七時右同所ヨリ出立、日奈久昼休、夫ヨリ八代上道通小川エ午後三時過着、同役新納伊兵衛事宿割ニて差越候処、右同所ニて出合、小川エ一泊、

一同廿二日晴、午前一時小川出立、宇土行通候処、六時頃熊本エ砲声盛ニ相聞こへ、夫ヨリ吾隊進ミ切リ早足（速）ニて川尻エ午前七時比着、直様熊本鎮台エ我隊モ出陣、直ニ賄仕出ニ付取付出来候処、熊本之様兵粮送リ方ニ同役藤田彦兵衛同道ニて差越、伊東直二ヨリ承知候処、直様植木エ出陣いたし候段、西郷先生ヨリ直二承知ニて拙者ニハ川尻之様差越、大小荷駄高城十次エ右次第相通シ、弾薬送リ方之都合いたし候得共、何分ニも夫卒至手当候処壱名も不参候に付、無致方急々ニハ思ひ通リ都合無之、夜明、

一廿三日晴、午前六時比川尻ヨリ荷物送リ方として夫卒拾八人かつかせ、植木之様差越候処、中道大久保（大窪）ト申処エ我隊引揚相成、戦争之成行承知候処、植木向坂ニて我隊一戦有之、戦死我隊種子嶋郷士族畦地宅也・押伍谷山郷本村吉左衛門、手負枝次彦左衛門・諸縣郡高城大浦武七・出水郷山口道治、夫卒薄手中村佐吉、

一金百円大小荷駄方ヨリ拙者受取、

一同廿四日

一金弐拾七円預リ、

一同廿四日大久保エ滞在、午後一時同所出立ニて植木大小荷駄方エ弾薬受取ニ掛合候得共、未た不差越候ニ付相待居候得共、間ニ会（合）不申処ヨリ同廿五日六時比、同役新納伊兵衛エ大久保迄悤々山鹿之様、弾薬受取差越候様問合、夫ヨリ針打四箱夫卒エ為持、新町之様九番小隊并外各隊差越候ニ付、於新町折付、夫ヨリ山鹿へ三時比着、一泊、

一二月廿六日晴、八時比山鹿邊田村エ鎮台相見得候処、則ヨリ戦争ニ及ヒ各隊繰出相成、午前十一時頃勝利相

成、鎮台戦死七拾人位有之、味方戦死七名・手負二十名計、十二時頃各隊引揚相成在宿候事、

一同廿七日

一金五拾円大小荷駄ヨリ伊東直二受取、

尚拾円ツヽ、給養預リ、

外ニ拾円拙者預リ、

一午後一時比ニ熊本之人我九番小隊番兵所エ駈付、同国(県府)ワイフト云所エ熊本県庁官員之内より同所町之民家エ預け置候品々数多有之候旨届出候ニ付、直様給養花田彦兵衛・拙者并押伍山田幸吉・川上尚一、兵隊拾八名・夫卒弐名召列出張取調候処、無相違其品都テ取揚候ニ付左之通、

一銃器ミニヘル拾五挺

一ケツトウ包四ツ

一刀ハ長持壱ツ

但罫紙并蠟燭諸張面入

一刀三本

一馬壱曳但鞍置

一金弐拾七円四拾九銭弐厘

二月廿八日　晴

同所へ在陣候処大牟田佐太郎・堀添喜右衛門事、於熊本ニ手負致候段鎌田左市郎ヨリ承リ、

三月一日　晴

同所へ在陣、我隊番兵ニて午前六時交代、

三月二日　晴

同所へ在陣候処、飫肥兵隊五百名位午後四時比当山鹿エ着候事、

三月三日　曇天

山鹿ヨリ午前十時出陣ニて肥後ノ内平山(山鹿市)ト云所エ午前十二時鎮台兵相見得、則四ノ四先方五ノ十戦争ニ及我隊(戸長)セツコ相戦、於平山ニ各隊引揚相成、夫ヨリ板楠(三加和町)ト云所エ陣宿一泊、給養富山英介・栗川少・伊地知正介隊付ニて、山鹿陣宿エ新納伊兵衛・花田彦兵衛・我隊両日ニ才領を相残居候、我隊三日夕ヨリ四日昼迄三度分旅籠相払候事、

三月四日　雨

板楠ヨリ午前七時南之關エ出陣候処、途道岩村ト云所ニ鎮台兵相見得、則我隊ハ勿論各隊進撃ニ相成候処、四ノ九番小隊押伍曾山甚右衛門戦死、栗之(野)郷手塚盛宜戦死、高岡郷室田源内戦死、津留正雄手負、午後二時比引揚相成、山鹿エ六時比着、一泊、

三月五日　雪
同所ニ在陣、我隊皆(解)隊相成候処、第四大隊九番中隊と相成、
三月六日　晴
同所ニ在陣、手負津留正雄儀川尻大病院へ入る、我隊番兵ニて午前七時交代、明七日午前七時交代ニて帰陣候事、
三月七日　晴
我隊番兵ニて候処、午前七時交代ニて帰陣、今日昼飯より一小隊賄仕出方ニ付、花田彦兵衛・拙者相掛仕出致候事、
三月八日
我隊番兵ニて午前六時交代ニて昼夜番兵之事、拙者儀賄方ェ相詰居候事、
三月九日
我隊午前七時交代ニて帰宿之事、拙者儀右同断、
三月十日　あられ
午後四時頃ヨリ我隊番兵ニて午前六時交代ニて昼夜、拙者儀夕飯才領トシテ番兵先ェ差越、午後五時頃帰宿候事、
三月十一日　小雪半天
午前六時番兵先ェ兵粮差送リ相成、給養栗川少差越、同九時帰宿之事、
三月十二日　晴　宿許ェ状書差出、
午前一時比番兵先ヨリ斥候池田兼樹駈付我隊相問聞、東西ノ方ニ砲声相聞得候ニ付、弾薬差送候様報知ニ付直様差送リ候処、斥候池田爲兼ヨリ仝午前五時比ヨリ各隊固場本道ヨリ右手ノ方ェ敵来候ニ付、則我隊ニモ砲発、戦相初リ候旨報知ニ付、左小隊有馬藤九郎隊ニモ番兵先ェ午前六時繰出、給養新納伊兵衛・花田彦兵衛差越、賄仕出并弾薬送リ方拙者并富山英介相残リ、戦死・手負等数多有之候、手負之儀ハ午前一時ヨリ同宿ヨリ川尻迄惣て差送リ候様、病院ヨリ承知、則送リ方之都合致シ差送リ相成候、戦死之儀ハ山鹿圓頓寺ェ葬相成候、我隊戦死手負左ノ通リ姓名、
拙者儀午後二時ヨリ番兵先へ弾薬送リ方トシテ差越、番兵先へ一泊、
肥後国於城村ニて戦死
下天神馬場　朝稲義制
右同
岩川　松田甚之丞
戦死
岩川　田中覺右衛門

右仝　小野泰藏

手負

〃四名

右小隊長（薄手）　藤井鐵之介
左小隊長（深手）　有馬藤九郎
押伍（深手）　山田幸吉
押伍　村山彦七

兵士手負

兵士手負

（右同）飛松孝右衛門
（右同）木下和右衛門
（右同）河野新一
吉川金次郎

（右同）海江田城助
（右同）池添重佑
（右同）有田良夫
小川吉之丞

夫卒手負

前田金四郎
（上柳町）野崎嘉右衛門

（谷山郷山田）谷山四郎

三月十三日　晴

未明ニハ敵相向筈、相待居候得共得（ママ）不相向候ニ付、午前六時番兵先ヨリ帰宿候、

新納伊兵衛台場付有之候て番兵先へ相残リ候て、終日在宿候事、

三月十四日　晴

午前八時比宿許エ書状差出候事、

三月十五日　戦

第四ノ三・第四ノ八・第四ノ四・第四ノ九当直ニて候処、午前五時比本道ノ方エ敵相見得候旨左小隊番兵先より報知有之、追テ各固場エ懸リ来候趣報知相成候ニ付、

右小隊午前六時陣営繰出固メ場エ出軍相成、同六時三十分比給養伊地知正介附添兵粮差送リ相成、勿論花田彦兵衛儀ハ左小隊エ相付、昨日ヨリ番先へ出張、拙者差越相伺ひ、午前五時比ヨリ戦争相成、則弾薬無覚束所より、態々山鹿本営エ弾薬請取方トシテ夫卒差遣候得共、待付所ヨリ拙者山鹿駅本営迄駈付致請取方人夫拾弐名召列戦場エ送リ届、則骨（胴乱）とふランエ入付差送候処ニ駈付候処、玉雨之コトク有之処ヲ駈抜ケ、其節兵粮ハ勿論弾薬クバリ方宜敷都合ニて候処、三官ハ勿論隊中ヨリ承リ候事、

但拙者エ針打玉参リ運ツヨク身ニハ不参候、

戦死手負左之通

一四斗樽壱樽　戦死押伍

一素めんざコ入カマケ　馬場兼介

壱ツ九番小隊ヨリ　右同押伍

分捕　　川上尚一

一針打銃十挺分捕

右同押伍　　鎌田雄之進

兵士　　兵士

久保田林左衛門　　瀬戸口幸次郎

桐野矢八郎　　峯崎半左衛門

久保田長英　　岩元宗之助

川田十左衛門

手負押伍

久留十郎

永井袈裟八

山崎藤兵衛

永崎榮藏

長谷川泰藏

吉瀬種治

戦死　　村山次兵衛

大津林兵衛

押伍

深手　　竹下精二

薄手　　末原慶二

深手　　藤崎直之丞

右山鹿於城原(山鹿市)ニ戦死手負

一本日ヨリ本営ヱ給養一名宛十一中隊ヨリ繰廻ヲ以相詰之布告相成、十五日富山英介相詰候事、

三月十六日　晴

一午前八時比城原番兵先ヨリ帰宿候ニ付、終日在宿、

三月十七日　晴

今日も終日右同所へ在宿、

一四月六日国許ヱ書状壱通差出置候事、

旧二月二十三日当日

四月七日

一午前七時ヨリ於隈府(菊池市)ニ敵兵相見得候処、同所ヨリ北之方ヱ岡ヨリ大砲相掛則焚出、亘ト云所ヱ被替レ焚出居候処、九日東之方ヱ敵相迫リ、夫ヨリ北宮ト云所ヱ又々相直シ焚出居候処同所引揚相成、十日七時比ヨリ大雨、於中途高江ト云所ニて敵兵相見ヱ、散兵番ヨリ斥候ヱ小銃相掛ケ、我隊右小隊先等(頭)ニテ戦争ニ相成、左小隊ヲヱンニ相ツヽキ戦相成、トテモ弾薬無之所ヨリ引揚相成、同所弐厘(里)位モ田邊町ヱ午後四時比着相成、

十一日　曇天

一今日諸所台場ツキ方ニテ新納・花田夫卒召列差越、我一人残リ居候処五代金次郎外一名熊本ヨリ同本営エ報知として被差越候処、弟七之助左右承リ元気之段承リ安心いたし候、

一藤田四郎兵衛・相良源次郎両名戦死之段五代氏ヨリ承リ気之毒ニ相考候、

四月十二日

鳥栖(西合志町)ノ様出陣候段、鳥栖宮ヨリ報知有之、竹迫(合志町)ヨリ午後三時出立ニテ、鳥栖午前ヨリ小銃砲発オヒタヽシク相聞エ、同五時比鳥栖エ着、同所本営エ届相成、先陣宿エ扣居候様伊藤直二ヨリ承リ、陣宿エ扣居候処四月十二日午前六時最早味方相ヤブレ候模様ニ付、直ニ応援エ相ツヾキ候様申来、則右小隊繰出相成、台場等本通モリカヤシ喇叭相図(合)ニて切込之約定有之、規則通リ切込大勝利ニて敵ニケサイ、我隊三拾名余切フセ、針打銃弐拾挺余分捕、其節長井喜之進ヨリ針打銃壱挺相譲、左小隊右半隊応援ニ繰出シ、是モ勝利ニて候得共分捕ハ無之、就てハ熊本本営ヨリ一小隊繰出候様報知有之、我隊左小隊繰出相成、同日午前九時比ヨリ熊本二本木之様出陣、道ノリ三里半モ有之、二本木エ午後三時比着、直ニ本営エ着之届申出、宿陣等相定右エ在陣候処、

四月十三日

同所エ滞陣ニ付弟七之助隊在陣之由チラト承リ、四方相尋候ヘ共不相分、就てハ諸方エ出陣之段承リ合得不申、同午後三時繰出ニテ木山(益城町)之様出陣之処本営ヨリ達相成、

四月十五日

先生(護衛)コエイニテ候処、就てハ魚取橋之様出軍、応援ニテ中無田村(熊本市)ト云所ニテ昼飯、腰兵粮等焚出隊中エ相(配)クハイシ、弾薬・雷管ト相渡シ、正午比ヨリ向山手東無田村(熊本市)エ敵相見得、小銃ヲビタヾシク相聞得、則火ノ手相見ヘ我隊正午比ヨリ東無田村エ差向ケ繰出相成、敵之方エ相続候処、直ニ戦争ニテ外隊惣て引揚候得共、我隊ハ一寸モ不引取、相戦候得共敵ヨリ横射ヲハナチ押カクル処ヨリ無首尾引揚ントスル折、小隊長栗川少・押伍谷山陽之助・同富山源五左衛門・兵士森甚之丞・夫卒濱川喜之助戦死ニテ死ガイハ引揚ス、誠ニ残念之次第、是迄十八九度戦いたし候得共、死骸等不引揚事ハ無之、同午後三時比我隊引揚相成、木山町エ在陣一泊、主取夫野崎嘉右衛門事手負ニテ病院エ送リ相成候処、本日帰隊之事、

四月十六日　曇天

同所ヱ在陣、就てハ栗川氏外死カリ(歟)揚方トシテ給養寄林之内源八・主取夫野崎嘉右衛門戦死之場所ヱ遣シ候得共、敵中ニて其義不相叶、無な敷引取同所へ一泊、

四月十七日　晴

同所ヱ在陣、午後一時繰出ニテ東無田(熊本市)山手之方ヱ我隊進軍、給養岩切助右衛門・寄林之内源八隊付トシテ差越、拙者儀ハ兵粮焚出ニ相残リ、

一主取夫野崎嘉右衛門事、中隊長ハ勿論三官吟味ノ上三番分隊押伍前田兼衛組ヱ兵士拝命之事、

一河野半次郎事足病ニテ今日之進撃出軍不致候事、

一岩山勇之助事モ右同断ニテ候事、

一和田十太郎事病気ニ付同断、

一木野瀬助治事目ノ病ニテ同断、

四月十八日　午前九時比まで ハ大雨

午後五時比御船ヱ我隊ハ勿論各隊着相成居候処、午後六時二十分ヨリ敵相見得候報知有之、直様我隊並各隊繰出、則戦争相及切込相成大勝利ニて、我隊分捕針打銃壱挺・時計壱ツ、番兵相定、夜ハ半小隊、昼ハ一分隊、

一薄手負　押伍鮫島彌十郎

一右同　押伍斥候田上權藏

右弐名ヤホ(矢部)病院ヱ差送リ才領、

一河野半次郎足痛ニテ此戦ニハ出軍不致候、

四月十九日　晴

同所ヱ滞陣、

一金拾円草鞋金

但壱名ニ付拾弐銭九厘ツ、左小隊ヱ相渡ス、

一分捕米百五六拾俵

一起炭百俵

一味噌

右御船ヱ鎮台兵粮米ニテ候処、各隊ヨリ分捕、

右之内

四月十九日

一真米　三俵相受取、

同し

一起炭　三俵相受取、

一明俵百俵御船本営ヨリ台場用トシテ相受取、

一明俵五拾俵

右御船ニて台場用トシテ買入候事、

我隊請持台場ツキ方トシテ、三官並押伍給養岩切助右衛門夫卒召列差越、明俵百俵持越ケンコニ出来候事、

一御船分捕米之内ヨリ真米三俵相請取候事、
一今日何事モ無之、無事、
四月二十日
一河野半次郎儀此戦ニモ出軍不致、午前八時比ヨリ我隊台場先ヱ敵相見得候報知有之、直様半小隊之儀モ繰出相成、間モなく戦争ニ及、シバラク相戦候処、三ノ一ヨリ相ヤムレ(敗)候処各隊ニモ引揚相成、誠ニ混雑ニテ諸道具等モ相ステ、我隊手負・戦死拾弐名有之、戦死之儀ハ死骸(ガリ)等引揚候義不相叶、木山(益城町)之様引揚之処亦々我隊五ノ二中途ニて相戦、夫ヨリ屋部(矢部)之様引揚、午後九時比着、同所ヱ一泊、
四月二十一日　晴
午前七時比屋部濱町ヨリ繰出萬坂(矢部町)ヱ出陣、同所ヱ十二時比着、夫ヨリ則三官ヨリ守先ヱ差越、先ケンコ(堅固)ノ場所ニて候、同所ニて白米取入焚出相成候、
一遊撃七番隊番兵先熊本一番小隊弾薬掛神戸信一郎ト云フ士族馬乗ニテ来リ候処、不要(不審カ)ナルモノニて留置、明二十六日九時比我隊小濱喜之助一ノ十ヨリ壱名才領トシテ屋部本営ヱ右信一郎送届相成候事、
一馬並馬道具之儀ハ此隊ヱ取揚置候事、
一今日一ノ十、右小隊並外一小隊此在陣ヱ出軍相成、
一兒玉良四郎儀左小隊長拝命候段、屋部本営ヨリ申渡相成カ、小隊長ヨリ問合相付申来候事、
一前田兼衛儀御船戦場ニテ軽(怪)我致候付、今日屋部病院ヱ差送リ候事、
一四月二十二日守リ台場受持ト相成、八代並御船街道ニテヨガイ(要害堅固)ハケンコノ場所ニて致台場築等、明俵三十俵取入夫方八名致手当、給養方夫卒ハ勿論隊付夫卒ても差越、台場ヱ岩切氏差越候事、
一四月二十三日右小隊矢部ヱ着陣之由承リ、中津本営ヨリ左小隊引揚ノ問合有之候得共、宛間違ニて兵士ノ内ヨリ壱名矢部本営ヱ右問合為持差返シ宛仕直シ、萬坂本営ヱ差廻シ相成候処引揚之不相成、交代無之候ニテハ不相成段致承知候事、
一同廿三日晴、何事モ無之、在陣ニテ左小隊ヱ庭鳥(鶏)八羽買入、昼飯ヱ汁仕出差遣候、午後八時矢部宿陣、右小隊ヱ拙者差越、今晩引揚宿陣取方トシテ主取夫太郎召列、分捕馬ヨリ差越、其夜ノ致手当、隊相待居候得共、引揚不相成、就てハ右小隊三官宿ヱ一泊、
一四月廿四日雨、午前六時比矢部濱町中津本営ヱ差越、

中隊長伊東氏ェ左小隊引揚之一条相尋候処、先ツコ、エヒカエ居サンシ相知ル等之事ニテ相待居、朝飯等当本営ニテタヘイ扣居候処、伊東氏ヨリ申スニハ、桐野氏本営萬坂(矢部町)請持相良氏ェ左小隊引揚ノ届申出候段致承知、則相良氏ェ申出候処、其ノ一条ハ私ハ不承、引揚事不相成段返答ニテ、就てハ昨日本営ヨリ萬坂本営ェ問合モ相通シ候処、其問合ハ私ハ承知不致、一寸モ早ク引揚無之様御通シ給リ等之返答ニテ右之段伊東氏申出候、則相良大津本営ェ差越、伊東ェ引合相成、双方ヨリサン〳〵ノ事ニて又候桐野本営同道ニテ差越議論ニ相成申ヨリ村田氏・桐野氏ヨリ其節ノ守ニツイテハ今通イタシ呉候様被申、夫ヨリ左小隊ェ通知呉候様伊東氏ヨリ致承知、万坂在陣差越之処右小隊三官宿ェ立寄候処、長井喜之進事左小隊分隊長拝命ニテ致同道ニ付、砲隊皆隊(解)ニテ左小隊ェ砲隊ヨリ押伍拝命ニテ讃良謙藏・瀬川清藏・仁禮吉之助・大浦重樹・田原吉之丞・兵士鈴木四郎、右六名砲隊皆隊相成我隊ェ入隊、左候て右小隊ェ小隊長讃良休藏、分隊長黒木幸助入隊、夫卒八名入隊、各隊皆隊ニテ我隊騎(奇)兵十二番中隊ト相成候段、矢部本営ニテ承知、永谷岩之丞分隊ニテ候処左小隊半隊長拝命ニて候、然処矢部本営ヨリ只今引揚候様永谷岩之丞承知ニて、拙者儀則矢部在陣右小隊ェ弾薬受取方トシテ差越、午後四時比矢部濱町ェ隊を相待居候処、午后八時比矢部ェ着、夫ヨリ四月廿五日午前四時繰出ニテ右小隊等一所ニ相成、人吉之様引揚ニテ馬見原(蘇鶴町)ェ午後四時着、夫ヨリ伊地知・岩切助右衛門、夫卒太郎召列、宿割トシテ馬見原より午後五時比ヨリ致出立、三里位有之本屋敷(五ケ瀬町)ェ七時比着、一泊、

四月廿六日雨、午前五時比ヨリ致出立候処、岩切氏ハ足ノ病ニテ跡ヘヨクレ、十番中隊給養川上休之進、八田善助同道ニテ胡摩山(椎葉村)ェ十二時比着、致宿割居候処夫卒太兵衛並新太郎参リ申スニハ間先二里モ有之、鹿遊(椎葉村)ェ宿泊いたし呉れ候様相通知、就てハ鹿遊ヘ二時比着、致宿割夫ヨリ野老(椎葉村)ト云所ヲ行スキ、就テハ本屋敷等云所ヨリ山道ニテ一騎通ナンショノ山坂ニテ有之、上椎葉ェ八時比着、一泊、

四月廿七日雨、午前六時比出立ニテ桑弓(椎葉村)野ェ八里、十二時比着、致宿割夫ヨリ小崎(椎葉村)ェ二リ行スキ江代(水上村)ェ午後七時比着候処同所ニ本営有之、八田善助差越承リ候ニハ跡馬見原之様引揚之段承リ候ニ付、江代ェ一泊、

四月廿八日　晴

江代まて山坂壱騎通ニてコノヨノナンギ初テ之事ニテ、是ニ記し置くなり、就てハ引返サントスル処ニ我隊午前十一時比着ニ相成、我隊三官出揃十番中隊三官ト同宿ニテ詮議ニハ、トテモ人吉エ引揚之段矢部本営ヨリ相達候ニ付、就てハ人吉之様引揚之上致吟味、其上何分相分リ可申等之吟味ニテ、午後二時比ヨリ十番給養二名我隊押伍六名岩切・伊地知同道ニテ宿割トシテ致出立、黒比地（黒肥地、多良木町）エ午後六時比着、隊ノ泊宿ヲトリ、夫より十町エ午後十時比着、一泊、

四月廿九日晴、午前六時比十町出立ニテ船壱艘頼入、十番ノ給養弐名・夫卒壱名、我隊押伍六名・給養弐名・夫卒壱名、都合十弐名船頼入、賃銭金弐円、人吉学校下午前十一時船相付、夫ヨリ則宿陣割方トシテ宿割方引合、人吉町源島・重生両所エ左小隊宿陣、倉本松造所エ右小隊宿陣、山田直作所エ三官給養宿陣、

一四月卅日、同所エ在陣、

一五月一日大雨、右同断、然処讃良休蔵・兒玉良四郎、江代本営エ隊一条ニ付引合之儀有之差越、明二日帰陣、

一同二日在陣、江代本営エ隊引カヘシ、引カヤサント一条ニ付、永谷岩之丞・久保都正午比ヨリ差越、明三日十二時比人吉宿陣エ着、

一五月三日晴、我隊一条ニ付、中隊長伊東直二正午十二時人吉宿陣被参候処、い細之儀押伍エ申聞候処、納得ニ相成、夫ヨリ拙者儀宿割トシテ一時比出立、末野村（須恵村）エ四時着、同所エ一泊、

五月四日雨、午前九時比末野出立ニテ、岩野村（水上村）愛甲兵七所へ三官給養宿陣ニテ十二時頃着、夫卒（給養カ）新納伊兵衛儀宿陣割トシテ午後三時同所ヨリ出立、湯山（水上村）之様泊宿之都合トシテ出立候、同所エ一泊、

五月五日雨、午前十時江代本営ヨリ川支（ツカエ）ニテ繰出差留相成、則隊中エモ致布告候、滞陣本営問合之儀ハ附属二番エ次渡、同所エ滞陣、

掟

一戎器ヲステ逃走スル者、

一戦場ニ於テ兵士分ヲ誤ル者、

一道路在陣共人民ニ対シ乱暴狼籍する者、

右犯ニおひては尽く割服（腹）ニ処し候条厚く可得其意事、

但戦場ヲ脱シ逃帰等いたし候者ハ尽く捕縛いたし人吉ノ方へ差送リ其罪相正候条、是亦相心得、夫卒ニ至

ル迄無洩告諭可致置事、

一大川内(椎葉村)泊　五里

但人家百軒余

一渡川休(南郷村)　四里

但書同断

一神門(南郷村)泊　三里

一坪屋休(東郷町)　三里

一山陰(東郷町)泊　三里

人家三百軒余

一新町(日向市)泊　三里

一延岡泊　五里

右宿割

一振武隊　旧田原口本営

中島健彦

一正義(義)隊　旧竹宮出張本営

河野主一郎

一行進隊　旧木留口本営

相良五左衛門

一干城隊　旧御船口出張本営

阿多壮五郎

一奇兵隊　旧大津口出張本営

野村忍介

今般右之通各隊改正候条、此旨相達候事、

四月廿三日　本営

五月六日　晴

午前十時比、江代(水上村)本営伊東直二より、拙者へ至急差越候様報知役申来、直様差越候処、今日我十二番隊湯山(水上村)ノ様繰出ニ付、大小荷駄諸品請取之段達相成、則江代出張、大小荷駄方エ差越請取品左之通、

一味噌拾斤並蠟燭五十丁・カントウ弐ツ・桃灯(不存)四張、

請取書差遣置、蠟燭之分相受取、跡諸品之儀ハ湯山より我夫卒請取ニ差遣候、左候て白米三俵右同断、大小荷駄エ請取書為持差遣相受取候事、拙者儀ハ江代ヨリ直様湯山エ差越、午前十一時過着、我隊十二時湯山エ着、

一泊、

一松岡昌則事岩野宿陣ヨリ行衛不相分候ニ付成行本営エ兒玉ヨリ伊東エ申出置候事、

五月七日晴、午前七時同所ヨリ我隊出立ニテ、大川内エ四里山道ニテ壱騎通、本日正午時分着相成、

同所エ一泊、

五月八日雨、午前六時大川内ヨリ繰出、渡川ヱ休昼飯、里数四里、山道ニテ壱騎通ナンバ(難場)ノ街道、神門ヱ午後二時比着、同所ヱ一泊、

五月九日雨、午前六時神門繰出ニテ坪屋ヱ休昼飯、夫ヨリ山陰ヱ午後三時比着相成、同所ヱ一泊、

五月十日雨、午前八時山陰繰出新町ヱ正午時分着、一泊、

但山陰手前ヨリ本道ト相見得、ドウモ雨降ニテハ道不宜、

暗言

雨カト問、晴ト答、

一本日各隊ヱ牛肉料金六円、奇兵本営ヨリ相渡候ニ付、牛取入方及手当、牛二疋買入、隊中ヱ配分ス、

八木民部事一往給養方ヱ相付候様中隊長ヨリ達相成、

本日ヨリ被差越候事、

本日ヨリ我隊延岡之様繰出候段達相成候事、

五月十二日　晴

本日午前七時新町出立ニテ宿割トシテ、岩切・伊地知、主取夫坂元太兵衛召列、正午十分過延岡ヱ着、則宿割方ヱ引合候処、当町本町ヱ宿陣相定、三官宿陣岡田砂吉所ヱ、給養宿陣和泉屋嘉吉所、岩切・伊地知、主取太兵衛・夫卒喜三次召列一泊、

五月十三日　雨

本日我隊新田宿陣ヨリ午前六時繰出ニテ延岡本町ヱ正午過着相成、同所本営ヱ兒玉良四郎届ニ差越候、同所ヱ滞在、

五月十四日　雨

本日延岡在陣、本営ヨリ小隊長ヱ出頭候様報知有之、出頭候処、本日ヨリ番兵相定、請持場川島(延岡市)等寄所ヱ午後一時三十分右小隊繰出、右請持場ヱ案内壱名相願繰出相成候、左小隊在宿、

同十五日　雨

本日左小隊番兵前午前六時繰出ニて右小隊等交代番兵ニ宿陣、栗野(延岡市)名村ヱ宿陣相定、今日番兵交代之儀相定、本日午前六時交代ヨリ中一日明十七日午前六時右小隊ト交代、就てハ栗野名村宿陣ニテ十六日朝飯ヨリ焚出相定候事、

但中隊長伊東直二・市來彦二郎番兵宿陣ヱ十一時被差越候処、当戸長召呼、舟付場三ケ所有之、壱ケ所ヱ通舟外弐ケ所ハ差留候様達相成、通舟壱ケ所ヱ見配小屋致手当、取仕建相成候事、

五月十六日　晴

本日右小隊非番候事、

一新隊櫻島郷並牛根郷拾六名、此中隊ヱ入隊相成、姓名ハ名簿ニ相記置候也、

五月十七日　雨

一本日番兵交代ニテ右小隊午前六時繰出、左小隊午前十時十五分帰陣相成候、

一牛根郷新隊弐拾七名此の中隊ヱ入隊相成、姓名ハ左右小隊名簿ヱ相記置候事、

一中隊長伊東直二事人吉ヱ本日当宿本営ヨリ被差越候事、

一番兵先ヱ新納・岩切差越候事、

一騎(奇)兵六番・拾四番、鹿兒島ヱ本日午前六時延岡宿陣ヨリ繰出相成候事、

五月十八日　晴

本日左小隊非番、押伍前田兼衛事御船戦争之節(際)軽我致シ、人吉病院ヱ入隊(院カ)致居候、本日帰隊候事、

五月十九日　晴

本日午前六時延岡宿陣より左小隊番兵交代トシテ繰出、右小隊午前第七時十分延岡宿陣ヱ帰宿候、給養新納伊兵衛ト交代、伊地知正介虫鹿(無鹿、延岡市)番兵宿ヱ七時十分致交代候也、

五月廿日　晴

本日右小隊非番、左小隊虫鹿并川島番兵候事、

五月廿一日　晴

本日午前六時延岡宿陣ヨリ右小隊番兵交代トシテ繰出、左小隊七時二十分虫鹿並川島番兵交代ニテ延岡本町宿陣ヱ帰宿候、給養岩切助右衛門虫鹿番兵トシテ中途ニテ伊地知正介ト交代候事、

五月廿二日　晴

本日右小隊番兵、左小隊延岡本町宿陣ヱ非番候事、

同廿三日　曇天

本日午前六時左小隊番兵ニテ繰出、右小隊午前八時比当宿ヱ帰陣、給養岩切助右衛門ト交代、岩川勇八郎番兵先キ差越候事、

同廿四日　晴　四時少シ雨ふり

本日右小隊非番、左小隊番兵候、左候て番兵先ヱ真米三俵・蠟燭三拾丁差送リ相成候、

一松崎虎二事病気ニて人吉ヱ入隊(院カ)候処、本日午後五時比帰隊候也、

五月廿五日　晴

本日午前六時当宿陣より右小隊番兵トシテ繰出、左小隊

七時過帰宿相成候事、

五月廿六日　晴

本日左小隊非番、右小隊番兵ニテ候、伊東直二事人吉エ差越相成候処、昨夜十二時比本営エ帰営之段承リ、直様伊地知差越、給養寄村原貞利ヲ申出候処其通決議相成、当三官宿陣ニテ申付相成候事、

一山口新十郎事中隊兵初(長カ)メ三官吟味ヨリ当隊エ附属申付相成候事、

同廿七日　晴

本日午前六時、当宿陣ヨリ番兵トシテ左小隊繰出相成、右小隊八時十分帰宿候事、

同廿八日　晴

本日右小隊非番、左小隊番兵候事、

五月廿九日　晴

本日午前六時ヨリ番兵トシテ右小隊繰出、左小隊午前第八時帰陣之事、給養伊地知正介差越候事、

同卅日　晴

本日左小隊非番、右小隊番兵候事、

同卅一日　晴

本日左小隊番兵ニテ午前第六時当宿陣ヨリ繰出相成、右小隊第八時過当宿陣エ帰宿相成居候処、本営ヨリ隊長エ出頭相成候様申来、差越候処、其方隊半小隊ハ水ケ谷(宇目町)ト云所エ至急繰出相成候段達相成、然る処右小隊非番ニテ候故当宿陣ヨリ午後一時頃繰出相成、熊田(北川町)ト云所エ一泊ノ賦ニテ宿割トシテ給養新納伊兵衛ニ村原貞利、夫卒佐吉召列差越候、隊付給養岩川勇八郎ヘ差越、

一ミニヘル弾薬三千発相受取差送リ候事、

一雷管三千右同断、

一白米六俵、大小荷駄ヨリ右受取差送ル、

一午後三時比兒玉良四郎・永谷岩之丞より右小隊同様ニ出兵之処、当本営エ差越相セマイ候得共其儀相タ、ズ、野村氏ヨリ申スニハ当宿陣第一之場所柄ニテ一往今通ニテ相勤呉候様なとの事許ニ付無拠ワケヤイ之事ニ候、

一延岡宿陣引揚相成候事、

六月一日　午後四時比より雷ヒヾキニテ大雨

本日午後四時比熊田ヨリ讃良休蔵・新納伊兵衛当宿陣エ立寄、咄ニハ延岡本営エ引合一条有之、午後五時比本営之様差越候、明二日延岡大小荷駄ヨリ白米拾八俵相受取、新納伊兵衛才領トシテ熊田エ差送候事、

一神崎十右衛門病ニテ延岡病院エ入院候事、

六月二日　晴

本日何ニ事無之候、伊地知延岡大小荷駄ヱ主取太兵衞召列、白米並菜料受取方トシテ差越候也、

同三日　晴

本日白米並諸品請取方トシテ、岩切延岡大小荷駄ヱ太兵衞召列差越候事、

六月四日　晴

本日午前七時大峡（八峡カ、北方町）番兵交代、永谷岩之丞・長井喜之進差越無鹿（延岡市）詰兒玉良四郎・伊地知正介事米並諸品請取方トシテ延岡大小荷駄ヱ差越、敵兵弐百五拾名余戦死、

一ウスキ（白杵）大勝利ニて分捕弾薬六万発余、延岡ヱ差廻相成、銃器五拾挺余其外ヨイナラザル器械分捕之由報知有之候事、

六月五日　半天

本日兒玉良四郎大峡詰永谷岩之丞・長井喜之進、無鹿番兵詰岩切助右衞門、延岡大小荷駄ヱ諸品受取方トシテ差越候事、

一鹿兒島吉野村七社ヲイテ戦有之、敵ヲ追撃ニ相成、カン石に追ひ落シ、ミヂンニ敵兵相成、生捕三名有之、相糺相成候処鹿兒島ヱ詰居候敵兵六七百名計ニテ大形新兵之由報知有之由、

六月六日　半天

本日無鹿詰兒玉良四郎、大峡番兵詰永谷岩之丞・長井喜之進延岡へ出張、大小荷駄ヱ兵粮米請取方トシテ伊地知正介午前第七時比差越、正午過無鹿迄帰宿候事、

喇叭役

神崎十右衞門事病気ニテ延岡平病院ヱ入院候処、本日午後一時頃無鹿ヱ帰宿候事、

一仁禮吉之助事延岡在陣本営ヱ用向有之候ニツキ、午後五時頃無鹿番兵宿陣ヱ差越、一泊、

六月七日　晴

本日午前第七時ヨリ延岡在陣本営ヱ隊一条ニ付、兒玉良四郎・仁禮吉之助同道ニテ差越候処右小隊八戸ヱ繰出、堅固ニ守相付候ハヾ、延岡ノ様引揚相成候段、本営ヨリ右両名承知ニて仁禮吉之助事直様八戸之様帰陣候、

六月八日　半天

本日右小隊延岡博勢町宿陣ヱ午後第一時頃、八戸より右同所ヱ引揚相成候事、

六月九日　晴

本日右小隊休、左候てミニヘル銃三挺製作所ヨリ伊地知

相受取候事、
同十日　曇天
本日午前第六時右小隊無鹿番兵へ繰出、左小隊ト交代、
左小隊八時過帰宿相成、給養岩川勇八郎番兵詰トシテ差越、
六月十一日　雨
本日左小隊非番、右小隊番兵、給養村原貞利番兵詰トシテ差越候事、
同十二日　晴
本日午前第六時左小隊番兵トシテ繰出、右小隊ト交代、
給養新納伊兵衛大峡ヱ差越、伊地知正介無鹿詰、
一宇スキヨリ伊東直二午後十時比無鹿番兵宿陣ヱ着ニ付、（白杵）
則ヨリ宇スキ戦争大勝利之一条、クハシク高名咄有之、六月十日ウスキノ戦争少シ不宜段咄有之、就テハ直二事モチンヒヤウ益々サイハツ致シ候ニ付、一応養（珍摘）（再発）
生ノタメ延岡本営ヱ当宿陣ヱ一泊、明十三日帰宿相成候事、
六月十三日　晴
本日兒玉良四郎、大峡番兵詰前トシ差越、給養伊地知相詰、斥候役松崎覺二相詰、無鹿詰永谷岩之丞・長井喜之進、給養新納伊兵衛相詰候事、
旧五月五日ニ当ル
六月十四日　晴
本日午前六時、右小隊番兵として繰出、左小隊九時頃帰宿候事、給養岩切助右衛門・岩川勇八郎、
六月十五日
左小隊非番、右小隊番兵詰、
夫卒　肥後熊吉
右喇叭役ニ申付相成候事、
一隊中諸払・総算面書伊東直二ヱ差出置候、
六月十六日
本日左小隊番兵として午前六時繰出、給養新納伊兵衛・村原貞利差越、右小隊九時過帰宿相成候、
六月十七日　曇
本日右小隊非番、左小隊番兵候、
一種子島郷久木永村（茎永）
日高敬輔入隊、
一胴乱四ツ
右製作方ヨリ相請取候、
一手旗四ツ　新出来
但給養持取入方ノ儀ハ小荷駄方請取差出、

金拾壱銭六リ(厘)
手間料弐銭四リ
一片手打斧弐本
金三拾四銭也
但小荷駄ヱ買入、請取差出払相成候事、
一臼砲壱挺、我隊ヱ渡シ相成候様讃良氏承知、
一弾薬入竹筒ヲ以テ数八拾新出来相成候様、右小隊三官ヨリ承知、直様製方手当致シ候事、
一無鹿並大峡(八カ)番兵至急引揚相成候様、騎(奇)兵本営ヨリ達相成候ニ付、左小隊番兵ニ付、午后第六時比延岡博勞町宿陣ヱ帰宿候ニ付、則引揚帰宿之届、兒玉良四郎差越候事、
一讃良休藏儀午後九時頃ニモ候半、軽(軽)我イタシ候事、
六月十八日　曇天
本日当宿陣ヱ休陣候也、
一讃良休藏代理
森啓藏入隊候事、
一弾薬(ミニヘル)四千発
一雷管四千
製作方ヨリ相受取候事、
六月十九日　雨
本日我隊同宿陣ヱ休宿、
一山口新十郎・松崎織右衛門病気ニ付入院、
六月二十日　雨
本日当宿陣ヱ休陣、
一弾薬竹筒八拾壱出来相成、壱ツニ付金三銭五リツヽ、合金弐円八拾三銭五厘也、
新仕出ニテ余ホト雨フセキニハ宜敷等隊中ニモヨロコフニ相成候事、
右之竹筒ミニヘル銃持之兵士銘々押伍ヨリ給養方から請取ニ相成候事、
一松崎覺二事、分隊長兼斥候役、延岡駅本営より拝命候事、
一我隊ヱ用金預リ之内ヨリ諸払相成、惣延岡宿陣ニテ相トケ候ニ付、伊東直二ヱ差出候処、奇兵・大小荷駄方ヱ差出置、伊地知正介承知候処、直様大小荷駄ヱ差越、帖佐彦八並法元雄藏ヱ預置候、何分返答之儀ハ戦相済ノ上返答可致候様承届置候事、
六月廿一日　半雨
本日中隊休宿候処、奇兵本営ヨリ重岡ノ様進軍ノ段達相

成候事、

各隊ェ本営ヨリ四斗樽壱丁宛配当相成候ニ付、九時比奇兵大小荷駄ヨリ伊地知正介相請取、午後二時中隊銘々エノ宿陣エ配当相成、遊会相成候事、三官宿ェ君(キミ)四名召列、押伍左右寄集、イツハイ遊会相成候也、

一重岡出張ノ兵隊ノ内給養壱名、延岡ェカケ込ミ宿割ト致候処聞付、延岡出張奇兵本営ヨビツケ事件聞取相成候処、給養見込を以て宿割いたし候段申出候処、シタヽカシカラレテ直様重岡之様引返し候様達之段承リ、就てハ兵隊モ弐拾名計延岡ェ逃込ミ之様相見得、直様引返シ候様シカラレ候也、

一右之事件ニ付、我隊町口ェ番兵致シ、中町川口ニハ飫肥隊番兵候事、

六月廿二日　半天

本日午前九時延岡宿陣ヨリ熊田(北川町)之様繰出相成候処、宿陣無之候ニ付、長井村(北川町)ト云所ェ宿陣相成、一泊、

一岩切助右衛門・村原貞利宿割トシテ弾薬壱万発並白米弐拾六俵弐斗入、熊田迄差越候事、

一讃良休蔵儀午前六時比入院相成候事、

一本日午後六時比熊田出張、奇兵本営ヨリ隊長ェ至急出頭致候報知有之差越、午後十時比帰宿相成、明廿四日掛口相定、繰出時限(ケン)之儀ハ追て可致報知之事、

六月廿三日　雨天

本日長井村ヨリ正午熊田揃ニて当宿陣ヨリ九時比繰出、熊田ェ十一時比着陣、夫ヨリ午後四時繰出、夜通シニテ切込谷掛口ニテ右同所ェ廿五日五時比進撃相成、

手負左之通

薄手　押掛　河野半次郎
深手　半隊長　久保　郁
深手　兵士　山口直助
深手　右仝　瀬戸四郎左衛門
右仝　右仝　原田嘉兵衛
深手　押伍　坂口良一郎
兵士　谷口十之進
深手　兵士　忠隈貞蔵
薄手　押伍　村山藤左衛門
戦死　兵士　園田休吾
戦死　半隊長　永谷岩之丞
薄手　兵士　西木場直次郎
深手　是枝仲次郎

薄手　兵士　堀之内高矩
薄手　兵士　神崎十右衛門
薄手　右仝　大山十助
深手　右仝　宮路量右衛門
右仝　右仝　河野貞二
深手　隊長　兒玉良四郎
右仝　押伍　前田兼衛
薄手　押伍　石塚祐一
右仝　押伍　田尻武彦
戦死　兵士　坂元清治
深手　夫卒　孝吉
薄手　兵士　隈元正八
深手　池上英二

薄手　岩切正九郎
右六月廿四日切込谷進撃ニ付、手負・戦死弐拾六名有之候事、
六月廿五日
本日鐙村(北川町)エ休陣、
奇兵十二番中隊左小隊
小隊長　兒玉良四郎
代理　仁禮吉之助
右同(半隊長)　永谷岩之丞
代理　長井喜之進
右同(半隊長)　久保　郁
代理　松崎覺二
左小隊分隊長　長井喜之進
代理　岩切正九郎
右小隊分隊長　仁禮吉之助
代理　池田兼爲
右之通決議候事、
奇兵本営
六月廿五日
一本日午後五時比鐙出張本営ヨリ達ニハ加治(陸地)次之様繰出候段隊長致承知、直様宿割トシテ伊地知正介・村原貞利差越、矢ケ内(北川町)村エ致宿割居候処、隊之儀ハ松瀬(北川町)ト云所エ一宿相成候事、
六月廿六日　雨
本日午前十時湯ノ内(柚ノ内、北川町)炭木屋エ宿陣、直様陸地本営エ森敬藏・仁禮吉之助差越、
一橋元憲藏事、給養寄三官ヨリ申達相成候事、
一問　桜、
一答　柳、
本日暗号本行之通決議候事、
奇兵出張
本営
六月廿六日
十二(番)はん
隊長
六月廿七日　雨
昨日陸地出張奇兵本営ヨリ本日午前第六時右本営エ繰出候様報知有之、右時限通湯ノ内宿陣ヨリ繰出、給養岩川勇八郎・橋元憲藏、夫卒召列差越候事、
一問　花カ、

答　月、

本夜闇号決議候事、

六月廿七日　本営

一伊地知正介事延岡町へ味噌・野菜其外諸品々買物トシテ、夫卒太兵衛召列午前九時比差越候事、

六月廿八日　晴

暗号

一問　牛カ、　答　馬、

本夜闇号決議候事、

本営

一守兵場　拾弐番中隊

ゼニブエ越　同し

四番中隊　前軍

報國隊　弐番中隊

陸地峠　三番中隊

フトウ越　拾番中隊

拾八番中隊　拾九番中隊

本道　斥候二名宛

高鍋二小隊　本営

右仝　後軍

壱番中隊

七番中隊

八番中隊

九番中隊

本営

後備軍

拾三番中隊

拾五番中隊

同し

斥候中津隊

右同

報國隊

明廿九日重岡(宇目町)進撃時限夜十二時揃ニて一時繰出之事、

右之通決議候事、

本営

一拾弐番中隊之儀ハ六月廿四日切込谷戦争之砌、死傷人数過分有之、殊ニ軍功も有之、別段取訳を以テ守兵場受持之儀本営ヨリ達相成、乍併隊長中よりも先鋒いたし度申出候処、最早決議相成居事候付不得止事、

右之通相守候事、

六月廿九日　晴

一虎ヵ龍、

本夜闇号決議相成候事、

六月廿九日　本営

一本夜昨晩ヨリ番兵詰通、兵粮等も焚出ニて差送リ、番兵先給養村原貞利・橋元憲藏昨晩ヨリ相詰候事、岩切助右衛門儀ハ八時比よりわらぢ買入方トシテ夫卒熊吉召列差越候へ共、助右衛門病気ニテ帰陣不致候事、

一大浦重樹事、本日帰隊相成、外ニ無銃隊ヨリ十二名入隊相成、右姓名ハ名簿ニ相記候事、

六月卅日　晴

本日番兵交代、

午前第九時比帰陣、伊地知正介事も右刻限同断、延岡ヨリ帰陣候事、

一明七月一日午前第六時、十五番中隊ト番兵交代いたし候段、湯ケ内(柚ノ内)在陣本営ヨリ掛合有之候処、又々掛合有之十五番中隊並八番中隊と交代之段、同本営ヨリ掛合有之候事、

七月一日　晴

一本日午前第六時当宿陣ヨリ番兵交代トシテ中隊共繰出相成候事、

給養岩川勇八郎差越候事、

一黒江吉之丞事、眼病ニテ熊田(北川町)并延岡病院エ一応養生方トシテ入院差免候事、

暗号

問　竹カ、

答　虎、

右本晩暗号湯ケ内本営ヨリ報知役持参相成、午後六時直様番兵先キエ為持差越候事、

一矢ケ内ノ方エ午前六時比ヨリ砲声相聞コヘ候処、矢ケ

内ノ守先キエ敵相掛戦争相及候段、我隊報知役ヨリ承
届候、左候て湯ケ内本宮ヨリ弾薬繰出相成候ヲ、右同
断相達候、然る処八番中隊ヨリ横打ニて大勝利、敵戦
死四十名余有之、味方戦死十名、手負五名、
一隈元金次郎事午後七時比帰隊相成候事、
一湯ケ内炭山小屋エ在陣候処、八番中隊熊田エ引揚ニ付
陸知(地)在陣、右跡エ宿陣相直し、夕飯焚出ヨリ陸知宿陣
ヨリ番兵先エ兵粮送リ候事、
一岩切助右衛門事、昨日草鞋買入方トシテ松瀬(北川町)辺エ差越
候処、本人腹之病出来イタシ候処ヨリ、本日熊田出張
病院エ入院候段、兵士隈元金次郎ヨリ承リ為覚書記置
候事、
但主取夫熊次郎召付置候事、
一岩切助右衛門事熊田病院ヨリ延岡病院エ入院、
七月二日　晴
一本日中隊共番兵詰通、午前八時森啓藏・仁禮吉之助柚
ケ内出張本営エ番兵一条ニ付番兵先ヨリ差越候、
一給養番兵岩川ト交代トシ村原差越候事、
一夫卒佐吉事、熊田出張、大小荷駄エ草鞋並諸品請取方
として差遣候事、

暗号
問　雀カ、　　答　鷹、
右本日決定候也、
七月二日　　本営㊞
三番中隊
拾弐番中隊
拾八番中隊
高鍋四小隊
底附ヨリ返却之事、
一伊東彦右衛門並黒江吉之丞事平病ニテ熊田病院エ入院
候処、本日帰隊相成候事、
七月三日　晴
本日番兵詰通、給養橋元憲藏差越相詰、村原貞利帰宿候
事、
一新納伊兵衛事、午前七時十分ヨリ延岡エ諸買物トシテ
主取夫太兵衛召列差越候事、
一本日諸所出張口ヨリ進撃ノ賦候ニ付、我隊請持台場堅
固ニ相守居候段、湯ケ内在陣本営ヨリ報知有之候事、
一本日午前第四時過ヨリ、三番守口エ敵相掛候を、拾八
番横打ニて打ちらし、さん〳〵ニにげさりたる由、我

隊番兵先ヨリ申来候事、
一本日午前第八時比ヨリ、我隊守口陸地峠エ敵ヨリ大砲打掛候得共我隊事トモセス、相守候事、
一本日晩正午比、我隊守口台場エ敵ヨリコエニテ相掛候処、台場エふせ(伏)コミ居候ニ付、敵其儘引取る、
七月四日　晴
本日四時前亦々敵ヨリ守口台場喇叭ニテ相掛、我隊台場より一セイ打出ダシ候処、十八番ノ守口エ相掛、敵方ヨリ右時限ヨリ大砲ハレツ、打掛候ヘドモ我隊事トモセズ相守居候事、
一村原貞利事、夫卒喜三次召列、梅干並味噌買物として午前七時十五分ヨリ差越候事、
一ヨヒタンヤク(予備弾薬)三箱
　但五百発入
右番兵先エ差送リ置候、
一ミニヘル弾薬三箱
一雷管千五百
一七連弾薬七拾発
右本日戦ニ付差送リ候也、
一クハモン四ツ
一クハモン抜壱ツ
右本日戦ニ付差送リ、
一草鞋三百足
一味噌弐拾斤
一大根漬弐拾壱斤
右三行、延岡并熊田出張奇兵本営ヨリ相請取、夫卒佐吉ヲ請取ニ遣候処本日午後二時帰リ、
　本夜暗号
問　敦盛カ、
答　熊谷、
右之通決議候也、

柚ケ内

七月四日　本営㊞

三番中隊
十二番中隊
十八番中隊
各隊長中

一飛魚弐十疋
右壱行荒まき氏ヨリ送来、左候て請取書伊地知ヨリ差出置、就てハ此方壱左右為相知候段使ヨリ申事ニて形成以

書付申遣置候、尤荒巻儀ちと不快ニて延岡之様罷越居候段承り候、右魚拾疋ハ番兵先三官方エ則送候也、

七月五日

本日番兵詰橋元憲藏と交代、村原貞利午前六時番兵詰として差越筈之処、陸知(地)在陣焚出し居朝飯送り出候折、東ノ方エ砲声盛ニ相聞コヘ、直ニ給養宿陣エ小銃玉拾ヲ打込、午前六時比則ヨリ弾薬ハ勿論兵粮等下ノ方エ差送り、彼是難雑いたし居候処、我隊守口台場ヲ横打セン等之軍配之由、折から十九番小隊応援トシテ参リ、則伊地知於陸知村案内者四名相頼ミ、早々右十九番隊ヲ案内セヨト致下知、ソレヨリマモなく敵万ト戦争ニ及候処、敵折ちらし折打ニ相成候得共、敵要ガイノ所エ守ヲ付、十九番手負・戦死拾壱名も有之、亦々応援トシテ三番中隊一小隊相続、跡ヨリ又四番中隊一小隊十九番応援トシテ繰出、我隊守口台場ニモ昨夜午前三時比敵万ヨリ相掛、是又及戦争ニ三分隊ハ横矢ヲハナツ、カタメ台場ヨリ下之方エ繰出、折から十九番より敵ヲ打散らし、隊長森啓藏給養宿陣エハセカ(軸帰り)エイ柚ケ内本営エ差越、十九番之方エ守相附之一条ニ付、ハセカイ之処三番中隊三官之者共十二ば(番)ん給養宿エ立寄候処ニ、啓藏参り右形行致談合候処、最早本営ヨリ十九番エ要害之処エ守相付ケ候報知出置候ニ付、それ成扣居候処、報國隊一小隊十九ばん応援トシ差越候へ共、我隊十二ばん之方応援トシテ相続候様申達、直様十二ばんエ応援トシテ差越、隊長仁禮吉之助モ給養宿陣エハセカエイ啓藏ヲ尋候処、最早柚ケ内本営エ差越候ニ付、右仁禮も同断、本営エ差越候ニ付、午後六時十分帰番候也、

一村原貞利事柚ケ内エ弾薬相少なく候ニ付、熊田本営エ弾薬請取ニ一時比ヨリ差越相成候事、

手負

薄手　兵士　圖師源左衛門
浅手　押伍　宮之原剛之丞
右同　伍長　吉瀬莊一
深手　兵士　竹上藤内
薄手　夫卒　吉留庄吉
戦死　松崎市左衛門

但鬢ハツハ熊田大小荷駄へ遣候也、

一飫肥十九番エ三番中隊一小隊応援トシテ繰出相成候処、十九番守相附候ニ付、三番午後五時比引揚候事、

手負

深手　大山喜左衛門
深手　永井傳之進

右本夜午後十時比番兵先ヨリ参リ当宿エ一泊、

写

豊後口

惣軍監　石井竹之助

奇兵隊

軍監　佐藤三二

奇兵

三番中隊中隊長　吉村五郎兵衛

奇兵

拾八番中隊差引　山田泉之助

右之通ィ決議候旨、宮崎本営並奇兵本営ヨリ申来候間、此旨布告候也、

奇兵本営

六月廿七日

十二番中隊

外略ス

一針打弾薬カラ八百拾四

右延岡製作所エ柚ケ内本営ヨリ送リ相成候様送相付、差遣候事、

七月六日　雨

本日午前九時比熊田本営ヨリ、ミニヘル弾薬千発村原貞利受取持参候ニ付、直様番兵先へ雷管相添差送リ候、

一夫方古川村之池田源右衛門事、番兵木屋作方として差越、於当所手負致し候ニ付熊田(北川町)支部所エ形行問合、伊地知より差遣候事、

一スナイトル弾薬カラ七百六拾五

一七連右同カラ百拾ヲ(ト)

一損玉百六拾

右三行弐箱ニ入付、伊地知ヨリ送リ相付、柚ケ内本営エ差送リ直様延岡製作所エ至急相届、出来相成候上送来候様、本営エも相頼差廻シ候事、

回章

問　紅葉乎、

答　鹿、

右本日決議候也、

七月六日　本営

一仁禮吉之助事本日柚ノ内本営エ番兵交代之一条ニ差越候処、報國隊ト一小隊ツ、交代決議相成候、右決議相

成候得共報國一小隊請合出来兼候段申出候ニ付、ゼニ(銭箱越)ブエ越守兵十九番ト右之報國ト交代ニテ、午前三時我隊右小隊ト交代相成候、右決議ニ付森啓藏本営エ差越候事、

七月七日　半天

本日午前六時、十九ばん(番)ト峠番兵右小隊交代ニテ右時限通帰宿候事、

一伊東直二殿より書状壱封、干魚隊中エ送ィ相成、則配当いたし候事、

一延岡エ諸買物として差越候処、本日味噌並漬物才領として主取熊帰宿候、新納伊兵衛儀風邪気分ニ付、松瀬(北川町)エ一泊、

暗号

問　竹乎、　答　虎、

右本日暗号決議候事、

七月七日　本営

七月八日　半天

一本日番兵交代トシテ右小隊午前五時繰出、左小隊ト午前六時交代、

一富山嘉太郎事難病相煩候ニ付延岡病院エ入隊(院カ)候事、

一夫卒中嶋太吉病気ニ付延岡病院エ入院、

兵士　牛根郷

深手　櫨山十助

兵士　右仝郷

右仝　濱田勘十

一新納伊兵衛事十時比松瀬ヨリ帰隊候事、

七月九日　半天

一午前五時左小隊拾九番左小隊エ交代として峠エ繰出しニ相成候、給養ヨリ伊地知正介出張いたし候、

一柚ケ内本営ヨリ雇夫相除現員取調松葉出張、大小荷駄ヨリ軍水相請取候様御布告ニ付、早速取調之上右大小荷駄之者より相請取候事、

一右軍水事件之回章四番隊より次来、則高鍋四番隊エ夫卒太郎を以次渡候也、

一柚ケ内本営ヨリ先日差出置候針打並ニ旋条銃捐じ筒繕方ニ相成候衆受取ニ差越候様、掛合相成候事、

七月十日　雨

本日給養岩切氏事、延岡病院ヨリ正午比帰隊候事、

一陸地峠番兵エ昨日請取之軍酒左右小隊エ差送候事、

暗号

問　馬乎、　　答　牛、
右本日暗号也、
七月十日　　本営
一左小隊長仁禮吉之助事、台場守口一条ニ付、柚ケ内本営エ差越候事、
一伊地知氏・村原氏陸地峠エ番兵相詰居候処為交代岩河氏・橋元氏差越候事、
一本営ヨリ拾弐番中隊へ横封壱通被差越候事、
一峠番兵方へミニヘル銃一挺・針打銃二挺差送候事、
七月十一日　雨半晴
本日伊地知氏夫卒小熊召列午前六時比出立、延岡之様味噌并菜買入方として差越候事、
一本人延岡へ差越之折、先達切込谷戦争之節戦死左小隊半隊長永谷岩之丞・伍長坂元清治・兵士園田休吾、髪持越、延岡大小荷駄方エ差出候事、
一針打玉薬カラ
右本人伊地知氏延岡へ差越折、製作所エ持越遣候事、
一パン七百八拾
但人員百五十六名、一名五ツツ、
右松葉大小荷駄方ヨリ請取候事、

一ミニヘル弾薬千発
一雷管千
右柚ケ内本営ヨリ受取候事、
兵士　　深手・[illegible]・入來藏吉
右陸地峠番兵先ニて手負、
一針打弾薬壱箱
但三百五拾発入
右本営より相来リ受取候事、
一針打玉薬壱箱
右陸地峠番兵方エ差送遣候事、
七月十二日
暗号
問　太郎乎、　　答　次郎、
右之通リ決議候也、
柚之内　　奇兵本営
一針打銃弐挺
一旋条銃六挺
右弐行熊田(北川町)本営ヨリ伊地知正介相請取、陸地在陣エ送届

相成、慥ニ相受取候也、

給養付夫卒　　橋　熊次郎

右陸地峠台場先ニおひて手負いたし熊田病院之方ェ差遣候、

七月十三日

一旋条銃六挺峠ェ差送リ候、

一旋条銃弾薬弐箱

右柚ケ内本営ヨリ相請取、則壱箱ハ左小隊出張先ェ相送リ候也、

一岩切事野菜肝煎とシテ三川(河)内(北浦町)下塚村ェ出張セリ、

七月十四日　晴天

一右伍長城戸四郎右衛門儀、今暁陸地峠ニて浅手いたし柚ケ内ェ差遣シ候、

一右小隊兵士隈元金左衛門、今朝右於同所ニ手負、尤浅手なり、

一どふらん壱ツ

一銃かるい皮壱ツ

右弐行峠左小隊ェ相送候、

一旋条銃そんじ筒弐挺

右今日峠より被差遣候、

一右之筒弐挺

右今日早々柚ケ内本営へ繕ひ方として差遣候也、

一雷管千

右柚ケ内本営ヨリ岩河請取ヲ以相受取候、

一回章　但本夜暗号

問　鼠乎、

答　猫、

酒・牛

右請取方として罷出候様本営ヨリ申来リ候、

右回章四番隊より次来、則拾八番隊ェ夫卒太吉を以次渡候也、

一旋条銃弾薬壱箱

但雷管五百相添

右峠番兵先右小隊ェ相送候也、

七月十五日　半晴

一本日右小隊園田六之進陸地峠番兵先於台場ニ今朝手負、直様熊田病院ェ差遣候事、

一伊地知正介事本日午後一時延岡ヨリ帰宿相成、主取夫坂元太兵衛・夫卒枝元熊太郎右弐名同断ノ事、

七月十六日　雨風

一本日午前三時比、敵方ヨリ陸地峠守口台場右小隊請持エ相掛リ付けんニテ台場エカケ込間モナクヤブレ、右小隊どふよふいたし引揚ニ相成、就てハ右小隊長代理森啓藏事、本日四時比戦争場ヨリ給養宿陣エサンネン〳〵〳〵等云テ、我等請持台場ヤブレタルニ付、我首ヲ此上ハ可不(行カ)差出トノ事件ニ付、給養伊地知ヨリ申ニハ手前ガ此ノ宿陣エ報知トカ不申バ甚ダヨカラン、報知ハ隊之内ヨリヂヨブナル人名ヲ相糺差遣ん事乎規則ニテ候間、直様帰番イタシ守エ相付候様申シテ、差返シ申候、就てハ左小隊請持台場ケンチョウ(厳重)ニ相守居候へ共、右小隊ヤ(破)レタル事許ニ付、敵方エ切込候得共、無首尾引揚、押伍初メ手負致シ誠ニ残念至極ニ候得共無致方事ニ付、守所不宜候ニ付、柚ケ内本営エ付込、本営シレイヲ請守相付度、隊長仁禮ヨリ相掛合候処、矢ケ内迄引揚、矢ケ内ノ峠エ守相付、則台場等築キ本行之場所エ守相付ケ候事、

一右小隊引揚之節ハ左小隊ノ方エモ引合サズシテ引揚タリ、

手負戦死左ノ通

手負　兵士　橋元榮介

手負　右仝　篠原才藏

手負　右仝　木場源左衛門

右同　深手　右仝　有村助八郎

右同　浅手　右仝　伊東彦右衛門

右同　浅手　右仝　上ノ原正藏

戦死　夫卒　小藤四郎介

右同　押伍　堀　圓

右同　藤崎藤太郎

右八名(九カ)右小隊

深手　福鳥昌利

薄手　藤崎藤吉

薄手　讃良健藏

深手　田原吉之丞

浅手　岩下傳之進

深手　池田傳介

行衛不知　鬼塚綱長

右同　松岡昌則

戦死　夫卒　岩下源之丞

深手　町田庄之助

行衛不知　河野熊吉

右九名（十一カ）

七月十六日

右陸地峠於台場戦ニ及手負戦死、

左小隊（ママ）

右拾七名（ママ）手負戦死之届書、本営ェ差出候事、

七月十七日　雨

一本日矢ケ内峠台場気（癒）付方として縄俵手当致差送リ、給養村原貞利・岩川勇八郎・寄橋元憲藏候、

一新納伊兵衛事、延岡より帰宿之折から病気相煩、本日熊田出張病院ェ入院相成候事、

一橋元憲藏事モ台場先ヨリ病気ニ付帰宿候事、

二川正九郎
是枝半次郎
羽生榮一
中原正太郎
隈元十助
竹下棟一

此六名矢ケ内本営ェ出兵人員

奇兵第三大隊三番中隊長　仁禮吉之助

右之通致決議候事、

七月十六日　奇兵本営㊞

奇兵第三大隊三番中隊左小隊長　岩切正九郎

右之通決議候事、

七月十七日　奇兵本営㊞

奇兵第三大隊三番中隊左半隊長　長井喜之進

右書同断

七月十六日　本営

奇兵第三大隊三番中隊左分隊長　大浦重樹

右書同断

七月十六日　本営

奇兵第三大隊三番中隊右半隊長　松崎覺二

右書同断

七月十六日　奇兵本営

奇兵第三大隊三番中隊右分隊長　池田幸吉

右書同断

七月十六日　　奇兵本営

一本日奇兵隊編制宮崎本営ニ於テ決議相成、我隊左之通、

奇兵第三大隊三番中隊ト編制候事、

第三大隊長　　川久保十二

七月十八日　半天

本日中隊共番兵給養岩切助右衛門事、諸野菜買入方として午前六時より被差越、午後五時三十分帰宿候事、都合五名、

一手負才領いたし候銘々五時拾分帰宿候事、

一戦死岩下傳之進刀壱本預り、二宮慶六、

問　桜乎、

答　梅、

右本日暗号也、

七月十九日　晴

一本夜之暗号

問　山乎、

答　川、

押伍　吉崎吉左衛門

右仝　富山嘉太郎

右二名平病ニて熊田へ入院相成候事、

右之通決議候事、

矢ケ内出張奇兵本営㊞

一ミニヘル弾薬千発

一雷管千粒

右奇兵本営請取候事、

巡回

人員　　何名

内何名平病

何名平病又ハ何々ニテ延岡又熊田へ入院、

右至急要用之儀ニ付、明早朝迄可被申出候也、

七月十九日

矢ケ内本営㊞

第一

一番中隊

二番中隊

第三

三番中隊

記

人員百三十二名

内四名平病

熊田エ入院

右ハ至急要用之儀ニ付可差出旨致承知、右之通御座候間、此段申出候也、

第三大隊三番中隊　小隊長　森　啓藏

七月廿日　右同　岩切正九郎

此日付廿日にて候得共夕部受取故廿日と書アリ、

矢ケ内本営

御中

一本日第三ノ三番中隊長仁禮氏本営へ御転宿之事、

七月廿日　晴

一本夜暗号

問　アヤメ乎、

答　菖蒲、

右之通致決議候事、

七月廿日　矢ケ内出張奇兵本部㊞

一本日伊地知氏並夫卒七名早(朝カ)状諸品買入方トシテ午前九時頃差越候事、

一第三ノ三番中隊長仁禮氏並左小隊長岩切氏エ御談合之掛合有之、在陣ニて御談合有之候事、

左小隊兵士

只今薬是無ク矢ケ内病人宿へ在宿也、　栗山良七

右同　隈元金次郎

右両名病気ニ付、隊長岩切氏手紙相添、松葉病院受取被差遣候、

右隈元氏服薬相受取、矢ケ内在陣ニて薬養之賦也、

一番兵先詰岩川エ村原交代いたし候、

一右小隊長森啓藏除隊相成、今日熊田之方エ被差越候、

右小隊長　松崎覺二

同半隊長　久留十郎

右両名今日拝命相成候事、

七月廿一日　晴天

一給養　何名

一夫卒　何名

右大至急申出候様、矢ケ内本営ヨリ申来、給養・夫卒・雇夫之儀ハ外書ヲ以申出候也、

奇兵第三ノ三番中隊

右小隊長
松崎覺二
右仝半隊長
久留十郎
右之通昨日拝命相成候間、左様相心得可給候也、
奇兵第三ノ三番中隊長
仁禮吉之助
第七月廿一日
奇兵第三ノ三番中隊
左右隊長
御中
一弾薬箱六ツ
右新出来相成、差送申候間御受取可給候也、
熊田在陣
奇兵
大小荷駄
七月廿日
奇兵拾弐番
給養
御中

順達
明俵無多事糧米輸送差支候ニ付差返候様延岡ヨリ申来候間、同日被仕会差返度候也、
松葉在陣
大小荷駄
七月廿一日
奇兵
旧十二番中隊
外略ス
本夜暗号
問　雲乎、　答　壌（ツチ）、
右之通決議候也、
矢ケ内
七月廿一日　本営
旧十弐番中隊
其ノ外略ス
今より分捕品有之候節ハ銃器・弾薬ヨリ雑品ニ至る迄、精密其都度御申越有之度、且手負・戦死之向ハ向後尚又別て委敷御取調之上、是又名簿御差回し相成度候様有之度候也、

熊田在陣

七月廿日　　奇兵本営㊞

矢ケ内出張

本営御中

尚々是又御差回し相成候敵共、今後戦毎ニ其戦状之顚末モ精細御記送被下度、今より戦状日記モ取立候筈ニ候也、

別紙之通申来候間及回章候也、

七月廿一日

矢ケ内

奇兵本営㊞

旧十二番中隊

其外略ス

七月廿一日　晩

一旋条銃弾薬四箱

一雷管弐千

右弐行矢ケ内本営ヨリ相請取候、

一針打銃弾薬一箱

但四百発入

右壱行旧四番隊ヨリカリ入候、尤追々現玉請取之上返済之約束なり、

一旋条銃弾薬五箱

但五百発入

一針打弾薬壱箱

但四百発入

右弐行差送候也、

原　重次　荒木代四郎　久保松藏

岩下　求　財津畩次郎　上野政吉

平山文藏　黒木末太郎　税田禮八

森忠五郎

右十名鎌擴隊ヨリ右小隊へ入隊、

七月廿二日　晴

本夜暗号

問　海乎、

答　岡ト、

右之通決議候事、

七月二十二日　　本営

一昨夜月ノ入ヨリぜんぶ(銭筥)越進撃、番兵先ェ繰出相成、今日五時比軍議相替引取、

右小隊旧三番請持跡

左小隊旧四番請持跡

帰隊也、給養岩切・村原相勤、出張候事、

給養軍曹　伊地(知脱カ)正介

右同　新納伊兵衛

右同　岩切助右衛門

右同伍長　村原貞利

右同　岩川勇八郎

右本日拝命候也、

一是迄押伍ニモ軍曹と改名候也、

一今晩午後八時比中隊都て番兵引揚之上重岡之様繰出、進撃の賦ニて当矢ケ内ヨリくづ葉(葛葉)ノよふ繰出相成、給養岩川勇八郎・村原貞利出張候事、夫主取四名・雇夫拾六名同断也、よふび弾薬四箱并雷管二千発、右夫方共持越相成候、

七月廿三日　半天

一今日我隊うつ葉(葛葉)ヨリ切込谷迄(宇目町)繰出相成、応援ニテ戦ニも不相及、夕六時過松瀬(北川町)迄中隊引揚、当夜半午前三時比本通番兵所ェ帰陣候也、

一本日午前八時比繰出、給養岩川氏鐙より問合相達候、夕飯持たせ候様承知いたし、才領新太郎へ雇夫八名相附、正午時間切込谷迄持たせ遣候、夕七時過当宿陣ェ帰陣也、

七月廿四日

本夜暗号

問　露ト、

答　千鳥ト、

右之通決議相成候事、

矢ケ内本営

一今日主取夫太郎熊田大小荷駄ェ半切わらぢ受取方として差遣候、

七月廿五日　半天

本夜暗号

問　酒乎、

答　四斗兵衛、

右之通決議候事、

矢ケ内出張

七月廿五日　本営　太田忠蔵

七月廿六日　晴天

延岡表ニも蠟燭払底之趣ニ付、明松ニて為済候義ハ可成明松相用ヒ候様御注意有之度候也、

矢ケ内出張　奇兵病院印

七月廿六日　奇兵本営

各隊

給養中

本夜暗号

問　花乎（ハナ）、　答　鳥（トリ）ト、

右之通決議候事、

矢ケ内出張

七月廿六日　奇兵本営

一本日其隊ヱ編入申付候事、

矢ケ内

七月廿六日　本営

第三大隊三番中隊

隊長中

鑑札

鎌攘隊

四番

右本日帰隊

延岡在陣

七月廿六日　奇兵病院印

鎌攘隊四番

隊長御中

右壱名鎌攘隊ヨリ我隊へ入隊、

一本日蠟燭拾丁

右番兵先右小隊詰へ差送候事、

一鉄製弾弐百弐拾発

右ハ番兵先為探打左右小隊ヱ差送リ候事、

森　今朝市（咬）

右壱名昨日鎌攘隊へ、我隊ヱ入隊、

七月廿七日　晴天

七月五日

右同　深手　兵士　竹上藤内

右同　戦死　右同　松崎市左衛門

右同　浅手　右同　大山喜左衛門

右同　右仝　右同　永井傳之進

右仝　押伍　宮之原剛之丞

右同　右仝　伍長　眞瀬莊一
七月五日　右同　圖師源左衛門
七月七日　右同　濱田勘十
同八日　右同　櫨山十助
同十日　右同　長濱啓藏
同十一日　深手　入來藏吉
同十四日　浅手　城戸四郎右衛門
同十五日　右同　隈元金左衛門
同十六日　右同　園田六之進
右同　行衛不知　押伍　堀　圓
七月十七日　右同　兵士　鬼塚綱長
同五日　右同　兵士　松岡昌則
右同　浅手　隊付夫卒　吉留莊吉
右同　主取夫卒　橋　熊次郎

右ハ七月五日ヨリ同十六日迄陸地峠台場ニ於テ、手負・戦死致候間、此段御届申上候也、

奇兵第三大隊三番中隊
小隊長　岩切正九郎
七月廿七日
右同　松崎覺二

矢ケ内出張
奇兵本営
御中

右之通本日本営エ届書差出候事、
一鉄製弾三百三十発
一雷管三百三十粒
右右小隊番兵先守場へ差遣候事、
一鉄製弾百七十発
一雷管百七十発
右ハ左小隊右半隊守場エ差遣候事、
兵士　園田六之進
兵士　村山藤左衛門

右二名先度切込谷戦争ニて手負致、延岡病院エ為療養差越居候処、本日帰隊候事、
但園田六之進壱名陸地峠ニテ手負也、

鑑札
旧奇兵十二番
園田六之進
右本日帰隊
七月廿六日　延岡在陣

七月廿六日　　奇兵病院印
旧十二番中隊
隊長御中
鑑札
奇兵十二番
村山藤左衛門
右本日帰隊
七月廿六日　　延岡在陣
奇兵病院印
奇兵十二番
隊長御中
本夜暗号
問　風乎、　　答　月卜、
右之通決議候事、
七月廿七日　　矢ケ内出張奇兵本営印
深手　兵士　森　今朝一（敏）
右午前二時頃センブ越ニテ手負、
七月廿八日　晴
本日岩切正九郎・久留十郎午前九時前帰宿候、村原貞利事、岩川勇八郎ト交代、

本夜暗号
問　雲乎、　　答　山、
右之通決議候事、
七月廿八日
矢ケ内本営
一弓張提燈四張
右本日第午前九時比相届キ、延岡奇兵大小荷駄ヨリ送リ来候事、
一左小隊兵士山口惣太郎不快候ニて延岡病院エ入院候処、及全快ニ今日帰隊相成候事、
七月廿九日　雨天
本夜暗号
問　呉（ゴ）乎、　　答　越、
右之通決議候事、
矢ケ内奇兵本営印
左小隊兵士
園田吉左衛門
右シボリ兵ハ中隊ヨリ両名ヅヽ差出候ヨウ、矢ケ内本営ヨリ達シニ相成令差遣候也、
右小隊兵士

柳田今左衛門

右書同断

焼酎相渡し申候間、請取方として入物為持可被遣候也、

矢ケ内

七月廿九日　　奇兵本営印

第三

三番中隊

其外略ス

記

焼酎弐斗

右之通正ニ相請取申候也、

奇兵第三――三番中隊

給養伍長

七月廿九日　　岩河勇八郎印

矢ケ内奇兵

本営御中

一牛壱匹

代金七円五拾銭

一野菜品々

右弐行給養付主取太兵衛・仁之助両人今日買入罷帰候也、

一牛肉料理方いたし今夕隊中エ差遣候、尤本営ヨリ相渡し候焼酎之儀も同断、番兵先エ差遣候也、

左小隊兵士

村田正作

右足エ出来物有之、医師ヨリ膏薬所望ニ相成、今日ヨリ病人宿ニおひて養生之賦なり、

七月卅日

本夜暗号

問　水（ミツ）、　　答　天（テン）、

右之通決議候事、

七月卅日　　矢ケ内本営

各隊隊長中

右小隊兵士

朝日純治

左小隊右同

栗山良七

右両名病気相煩ひ候ニ付、矢ケ内在陣ヨリ熊田病院エ差送り候、小隊長岩切正九郎名前ニテ当在陣本営エ届出候事、

一ミニヘール切玉九十五

一針打損シ玉四
右番兵所ヨリ持越相成居候、
一山刀三挺
一斧二挺
右本営ヨリ岩切氏受取ニて、当日番兵所エ差遣置候也、
給養岩川方エ山刀二挺・斧一挺、村原方エ山刀一挺・斧
一挺、
一山刀一挺
一斧二挺
右本営ヨリ伊知地氏同断也、
岩川方エ山刀一挺・斧一挺差遣置候、
七月卅一日　晴
本夜暗号
問　酒乎、　答　肴ト、
右之通決議候事、
七月卅一日　矢ケ内本営
第三大隊三番中隊
給養伍長
渡邊淺治
右之通決議候事、

七月卅一日　中隊長

（表紙）　（五冊ノ内第二号）

明治十年丑七月改之
左右小隊名簿
奇兵第三大隊三番中隊

右小隊長
松崎覺二
右同半隊長
久留十郎
右同分隊長
池田幸吉
喇叭役
栗田仙之丞
壱番分隊一
軍曹
日高慶輔
慶輔代理軍曹
佐々木政二

八月六日矢ケ内於台場テ手負

兵士　増田正左衛門

野崎勇助

七月廿一日高鍋鎌攘隊ヨリ入隊

小野佐藤右衛門

森　忠五郎

合六名

壱番分隊二

軍曹　福崎雄吉

伍長　兒玉鐵兵衛

兵士　岩下源太郎

合三名

弐番分隊一

軍曹　吉崎吉左衛門

伍長　初野楢一

八月六日矢ケ内於台場ニテ手負

上山平藏

八月六日矢ケ内於台場ニテ戦死

平山文藏

七月廿一日高鍋鎌攘隊ヨリ入隊

伊東彦右衛門

八月七日帰隊

黒江吉之丞

平夫ニテ延岡大隊エ入隊

矢ケ内在陣エ帰隊

橋元憲藏

八月六日矢ケ内於台場ニテ薄手

合七名

弐番分隊二

軍曹　木佐木直左衛門

伍長　肥後重愼

八月六日矢ケ内於台場テ手負、薄手

兵士

押領司宮二

坂元新八郎

岩切宗之丞

今村次郎助

二之宮慶六

合七名

三番分隊一

軍曹　吉瀬莊一

伍長　村原貞重

兵士　い十院藤右衛門

八月六日矢ケ内台場ニテ手負

七月二十七日延岡大隊ヨリ帰隊　園田六之丞

七月廿九日延岡エ入隊　朝日純治

七月廿一日高鍋鎮撫隊より入隊　上野政吉

二川鐵兵衛

七月廿一日高鍋鎮撫隊より入隊　財津畝次郎

合八名

三番分隊二

軍曹　宮之原則之丞

伍長　朝日東二

但軍曹エ転ス

兵士　柳田今之丞

八月六日矢ケ内於台場テ手負

八月六日矢ケ内於台場テ薄手負　圖師源左衛門

八月一日帰隊、七月廿九日シボリ兵ニテ矢ケ内本営エ出ス　柳田今左衛門

合五名

四番分隊一

軍曹

八月六日矢ケ内於台場テ戦死　大平熊太郎

伍長

西村　厚

兵士

佐土原平七

村山善太郎

七月廿一日高鍋錬撰隊より入隊　久保杢藏

合五名

四番分隊二

軍曹

吉瀬種治

伍長

内山民之助

兵士

隈元荘右衛門

長野小次郎

上井彦五郎

合五名

右小隊三官・喇叭・軍曹・伍長・兵士迄合人員五拾名、

右隊付夫卒合人員七名

惣合人員五拾七名

左小隊長

岩切正九郎

同半隊長

八月六日矢ケ内於台場テ薄手負

同分隊長　永井善之進（ママ）

喇叭役　大浦重樹

壱番分隊一　肥後熊吉

軍曹　竹下利左衛門

○正　伊牟田繁順ノ事デアリマス　弓田重順

峯方内丸

桐野清助

中村直右衛門

山口政九郎

合六名

壱番分隊二

軍曹　瀧聞今太

伍長　末原慶二

津曲兼清

西俣八百助

志々目龍助

○釘田ノ事也　久木田源兵衛

合六名

弐番分隊一

軍曹　小濱喜之助

伍長　川俣作兵衛

兵士

軍曹ニ転ス
圖師金之助

夫気

隈元金次郎

李崎喜一郎

八月四日矢ケ内守兵場ニテ手負
荒木代四郎

合五名（ママ）

弐番分隊二

軍曹
廣田靜介

伍長
兒玉寛淨

山口宗太郎

濱砂覺二

七月廿九日シボリ兵ニテ矢ケ内本営エ出ス八月一日帰隊
中村正左衛門

園田吉左衛門

兒玉正太郎

合七名

三番分隊一

軍曹
八月六日三河内本営エ矢ケ内本営より差送り相成候事
頴川清藏

伍長
八月手負ニて候処帰隊
石塚祐一

園田彦次郎

篠原喜次郎

村田正作

七月廿七日延岡大隊ヱ帰隊

村山藤左衛門

合五名（ママ）

四番分隊一

軍曹　白坂直次郎

伍長　海老原十郎

鈴木四郎

長谷場四郎右衛門

鶴田壯之丞

大田忠義（マ）

三番分隊二

軍曹　岩下宗太郎

伍長　有馬新兵衛

村崎市郎太

隈元武介

清水岩熊

富山喜右衛門

平夫　園田伊助

七月廿六日高鍋鎮撫隊より入隊

合六名

四番分隊二

軍曹　永山仙十郎

伍長

合七名

山下豊彦　給養軍曹
長濱權藏　伊地知正助　右同
安田　豐　新納伊兵衛　右同
合四名　岩切助右衛門　給養伍長
左小隊三官より喇叭・軍曹・伍長・兵士迄合人員四拾九名　村原貞利　右同
隊付夫卒合七名　渡邊淺治　右同
惣合人員五拾六名　岩河勇八郎

七月卅一日承知

左右三官より喇叭・軍曹・伍長・兵士迄合人員九拾九名
隊付夫卒合人員拾四名
給養軍曹合三名
給養伍長合三名
給養付夫卒合拾弐名
惣合百三拾壱名
外ニ雇夫三拾弐名

（表紙）
日記
（五冊ノ内第三号）

一番ヨリ順ニ号令ニテ出立□□□相成候事、
仝雨休

加治木一泊ノ事

（原本後半部すり切れ）

（原本前半部すり切れ）

一仝日午前七時、同所出立ノ事、

雨降ニテ中途一統難儀致候事、

一湯之尾

高城　仝雨休

一大口一泊候事、大口儀ハ宿手当・案内等不行届大混難（困）ニ及候処、同所ト違ヒ甚不注意ノ向ニ見得

（原本後半部すり切れ）

（原本前半部すり切れ）

石坂道悪シク兵隊難儀致候事、野中雪朝益シテ五尺積リ候由、

一休石坂之下水俣駅迄道法九リ余、

水俣一泊ノ事、

三番隊同所止宿ノ事、

一隊長打寄評議一小隊ツヽ相揃次第繰出ノ趣、押伍共エ隊長ヨリ相達候事、

□□蔵料ノ儀ハ所望ヨリ

（原本後半部すり切れ）

（原本前半部すり切れ）

□□ニ相見得候三日位□□焼ケ候ヨシニ候、

一昨夜内之浦ニテ草鞋代金拾四円拾六銭、大小荷駄方ヨリ伊地知正介受取候事、

壱リ壱人ニ金二分ツヽ、

一鎮台兵後襲ノ評判有之、番兵ヲ張候事、就て相言葉、ヲイト問ハヽ、西ト相答候様決議有之候事、

一川尻別府晋助ヨリ報、東京ヨリ軍艦三十□□端舟

（原本後半部すり切れ）

（原本前半部すり切れ）

無□一時出ハツノ事□兵モ引いたし相成候事、

一蠟燭弐拾丁

右大小荷駄方ヨリ相受取候事、

一白木綿袖印用相渡候ニ付、是十二割ニテ銘々相渡シ、腕ニ結ヒ付出発相成候事、

一草鞋銭三日分壱人六銭ツヽ、夫卒ニ至ル迄銘々渡付候事、

一蠟燭弐拾挺

右大小荷駄方ヨリ相受取候事、

二月廿二日　晴

昨夜小川宿午後一時ヨリ出立、川尻駅迄踏越候趣決定相成、第四大隊左半大隊ノ分踏越候処、午前六時比宇土駅ニて夜明、追々川尻之様差越候処、右川口手前ニて砲声熊本鎮台ノ方エ相聞エ、兵隊一同□早足(速)ニて川尻駅迄着、夫形□エ駆付□七時比□争□相成、終日□合央ニ給養ヨリ□出シ、午後三時比迄三度出張候隊□ニて差送、追々各隊戦死手負□午後四時比左半大隊植木駅ノ方エ□午後六時□位手前ニて□報知ニ□兵□宅也手負□押伍□分隊詰縣郡高城郷大浦武七・三分隊出水郷山口道治・夫卒中村清吉薄手、伊地知正助(介)・新納伊兵衛儀川尻駅エ相残、弾薬并荷物等取調方ニシテ午後六時比迄相掛、大小荷駄方高城十次エ引合、植木ノ方エ持越候ニ付夫之手当有之候様申出候処、夫不寄、午後十一時比迄催促いたし候得共不相揃、揃次第ニハ被相渡旨承知いたし待居候処、午前六時比漸々相揃、弾薬三箱・荷物等午前九時比植木ノ様持越候途中、大久保ト言所エ宿陣相成居候、

一金三拾円軍用トシテ大小荷駄方ヨリ相渡事、

一二月廿三日今朝伊東直二・富山英助事、熊本之様承用儀ニて差越、直二ニハ午後四時比帰滞(隊)相成、英助ニハ川尻ニ滞宿候事、

一蠟燭□□挺

□□三番□□

仮ウツメ遺髪ヲ取リ、隊号年□相記置候、彦兵衛廿四日朝帰滞相成候事、

栗川少組

新囚(照)院

山口輝直

右熊本攻入之日、病院エ差越夫形帰隊不相成候事、

村山彦七組

西田

上床幸之助

右川尻より足之痛ニて帰県相成候、当分川尻、

長井喜之進組

志布志

貴島　直

右加治木ヨリ病気ニて帰郷相成候、

西田　橋口豐彦

右内之浦(湯)ヨリ病気ニテ帰県、

谷山滿之助組

高山　室田新之助

右川尻ヨリ行衛不相知候、

永谷岩之丞組

植木手前道踏違エ十番小隊エ変リ、高瀬戦争ニ出張候由ニテ山鹿駅ニテ追付タリ、

市來　谷山國典

右熊本ヨリ足ノ痛ニテ植木迄馬ニテ乗越候処、行衛不相知候、

河野半次郎組

高山

[illegible]

[illegible]病気[illegible]

病院ヱ差送候事、

岩切正九郎組

岩川　荒武藤平次

右小川ニテ病気ニテ病院ニ入、

一針打銃五挺

一ミニヘル弐挺

右向坂(植木町)戦争分捕相成候、

二月廿五日午前二時ヨリ山鹿ヱ斥候人員左之通、

肥後平八組ヨリ

桐野與八郎　壱名

川上尚一組ヨリ　弐名

押伍

永井喜之進組ヨリ　三名

本人ニも出張

久留十郎組ヨリ

坂元清作

押伍

永谷岩之丞

本人ニも出張

馬場鎌介組ヨリ

岩川勇八郎

岩切正九郎組ヨリ

岩山□

弐名

右拾参名ノ儀隊長□□宿ヱ相揃出張候事、

二月廿五日　晴

一九番隊之儀大窪(熊本市北端)村ヨリ午前四時出立、山鹿迄進撃相成、給養伊地知正介ニハ植木村迄差越、同富山英介(助)ニハ植木并熊本本営等ヱ差越、花田彦兵衛・栗川少ニモ大窪村ヨリ兵粮等運送之都合イタシテ、両人共午前十一時同所出立、植木村ヱ差越候事、

一河野半次郎組之内壱人病気ニて川尻病院ヱ差遣し相成候事、

一新納伊兵衛儀ハ大久保(大窪)村ヨリ八時比出立、植木ヱ立寄弾薬等大小荷駄方ヨリ相請取、才領ニて植木十二時比出立、山鹿之様午後五時比着、

一第四ノ九番小隊先鋒ニて午前五時出立、新町休ニて山鹿駅へ午前二時比着陣相成候処、敵昨日迄ハ滞陣之由候得共、昨午後四時比当所引取南ノ關之様滞陣と当所之者共ヨリ評判いたし候事、左候処当所之士族敵諸所屯所ノ由、当町ヱ相寄追々承及候□□手出モ無之候事□□

二月廿日(六脱カ)　晴

一今朝午前八時比ニ哉、当所□□駅下田地ヲヒテ、敵相寄候ニ付六番隊ニ直様進撃ニ相成、互ニ戦争相成候処、敵方士官三四名戦死、其外兵卒等モ田中・道路ニ相斃レ候死骸五六拾名ニ相見得候半、暫時ノ内ニ討フセ、味方本駅之様引揚滞陣相成候事、

二月廿七日　晴

一午後一時比ニ熊本之人我九番隊番兵所へ駈付、同国ワ(隈)リフト(府)伝所ヱ熊本県庁官員之内ヨリ、同所在内之民家ヱ預ケ置候品々数多有之候旨届出候ニ付、直様伊地知正介・花田彦兵衛外ニ夫卒等相連出張、取調被成処無相違其品都テ取揚、午後七時比ニ帰陣相成候事、

二月廿八日　晴

昨日分取相成候品々之内、銃器ミニヘル拾五挺之分ハ、九番隊之内自筒損筒ノ分銘々引替相成、押伍ヱ引渡候事、

一闇合　問　竹カ、　答　虎、

右闇合ノ儀ハ隊長ヨリ直ニ押伍等ヱ達シ相成候事、

三月一日　曇

各隊兵粮米ノ儀、以来大小荷駄方ヨリ被相渡候ニ付、九

番隊ニ於テモ同様□□□分隊エ相渡候事、押伍山田□□□□□熊本本営エ□□出張□□□

但跡押伍職之儀兒玉□四郎承筈之、

一闇言　問　天カ、　地ト答、

右毎之通分隊押伍中エ布達相成候事、

一昨午後四時比給養花田彦兵衛事、熊本本城迄弾薬請取方トシテ被出張候事、

三月二日　雨

二月二十七日分取相成候ミニヘル之内、損筒並ニ隊中ヨリ引替之自筒拾五挺大小荷駄方エ預ケ置候事、

一九番隊中エ酒取入之上分配相成候事、

一鑑札一枚

山鹿町ノ

岡山新吉

右当町ヨリ割符(藩府)迄差越候ニ付相渡ス、但明日帰参之賦、

一飫肥ヨリ兵隊五百名位午後四時比当町山鹿駅エ到着相成候事、

三月三日　晴

山鹿宿陣各隊之内、我九番小隊并ニ村田三介・川久保十次・別府九郎飫肥兵隊□□□□隊間道ヲ押シ、前軍ニ□□□村田三介・川久保十次、救應ニハ別府九郎、後軍ハ園田武一隊ニ我九番小隊伊東新八隊進軍、本道エハ堀某・平野正介・石原市郎右衛門前軍シ、中軍ハ山口并神宮司助左衛門出軍ニテ、峯崎某之隊ト重久雄七・野村忍介之隊ハ亦別之間道ヲ押シ行軍ス、我隊一列之前軍肥後国平山(山鹿市)村進軍之処、賊兵同所学校等エ三日以前ヨリ滞陣ノ由ニテ同所ニ於テ斥候隊并第四大隊四番小隊・第五大隊十番小隊、正午時分先鋒ニテ砲戦、賊兵戦死手負有之、彼レ敗走ニ付中途死骸等モ有之、則我斥候ニモ銃器壱挺・時計一提分取ス、夫ヨリ亦行軍シ前軍ノ三小隊ハ同所十町村エ宿陣、我隊并別府九郎隊ハ同所板楠(三加和町)エ午後五時比ニ着、同所エ宿陣、各隊ヨリ夜中番兵ヲ張ル、終夜竹瀬村ノ方ニ当リ大砲小銃砲声不止、

三月四日　雨

飫肥隊并九番小隊前軍ニテ十町村宿陣ノ各隊ト一同午前五時相揃、六時ニ前日ノ惣軍同所発軍、同国平山村ヲ押シ岩村(三加和町)ト云所エ進軍ノ処、同所山中諸所エ賊兵潜伏ニ付、前軍ハ勿論各隊進撃、午前九時比ヨリ戦争相始リ味方敵勢ノ機ニ応シ四方ニ兵ヲ配リ、砲戦甚シク午後一時比敵兵次第ニ弱リ、味方ヨリ賊兵ノ防地ヲ乗取リ、終ニ勝利

ヲ得、敵ノ弾薬五百位・銃器拾五挺分取シ、午後二時比ニ至リ暫時各隊ノ兵ヲ屯メ、亦新ニ戦術ヲ設賊兵ヲ待、此時我九番隊ハ同所ノ人家ニ於テ兵粮ヲ焚キ、隊中ニ粮ヲ与ヘ、再ヒ戦闘ノ備ヲ成シ賊兵ノ懸ヲ待、然トモ敵不来故順序ヲ以テ我兵隊ヲ屯メ午後三時惣軍山鹿ノ駅エ凱陣、午後六時三十分比ニ着陣ス、此戦闘ニ九番小隊押伍曾山甚右衛門并兵士室田源内岩村(三加和町)ニ於テ戦死ニ付、曾山士ニモ同所岩村ノ内第八大区八小区川口常太郎居屋敷山手ノ方、諸人墓ノ中ニ給養伊地知正介・押伍永井喜之進立合仮葬シ、兵士室田源内ニモ同組松岡昌則・園田伊介両人ニテ護送セシ上、岩村ノ内墓所エ仮葬ス、亦同隊押伍津留正雄・手塚盛宜手負ニ付、両士共各其同組ノ面々ヨリ山鹿ノ病院エ護送ニテ療養之処、手塚盛宜ニモ深手負ニ付、同夜十二時比ニ歿ス、

三月五日　少々雪亦雨

惣各隊弐百人一小隊ノ処、尓後百人一小隊ニ分隊ニ付、則我九番小隊ニ於モ二ツニ分隊シ、二小隊ニ作リ、一小隊々長藤井鐵之助、半隊長肥後平八、分隊長久保都次郎[illegible][illegible]小隊々隊有馬藤九郎、[illegible][illegible]隊長兒玉良四郎、分隊長永谷岩之丞、其押伍等ハ従前ノ職員亦ハ兵士等ノ内ヨリ撰挙シ、二小隊[illegible][illegible]中隊トシ、伊東直二中隊長指揮有之筈、左候て隊賦都テ午前十時ニ至リ治定候事、

一昨日ノ戦死曾山甚右衛門・室田源内・手塚盛宜ノ遺髪・刀等、給養花田彦兵衛ヨリ大小荷駄方稲田左一郎エ引渡相成候事、

一本営ヨリ各隊エ酒壱樽宛被下渡筈ニ付、相請取候事、

一戦死手塚盛宜埋葬場堀夫隊ノ夫卒共加勢致候ニ付、雇夫卒賃銭半方大小荷駄方ヨリ被相渡方ノ事件引合置候事、

一午後一時比当駅番兵先エ賊兵相見ヘ、互ニ砲戦相始候ニ付、九番中隊ノ内藤井鐵之助隊進軍相成候得共、最早賊兵モ川久保十次隊等エ被討敗、散々ニ敗走ニ付、午後三時比ニ引揚相成候事、

三月六日　晴

一午前七時ヨリ九番中隊弐小隊共、今七時ヨリ明七時迄為番兵出張相成候事、

一津留正雄川尻大病院エ差越ニ付、同組ノ内ヨリ護送相成候様トの儀、番兵先ヨリ掛合相成候処、直様両名川尻之様被差越候事、

一闇言　　問　松カ、　　答　竹、

右之通本営ヨリ達シニ付、番兵先ヱ直様申越置候事、

三月七日

昨午前七時番兵トシテ出張相成候、九番中隊二小隊共今朝同七時ニ交代帰宿相成候事、

今日ヨリ九番中隊之分為試粮米一同ニ焚出ニテ、組□分配相成、伊地知正介・花田彦兵衛焚出□□差分リ候事、

一今夜闇言　　雲カ、　　龍、

右左右隊中ヱ布達相成候事、

三月八日　晴

九番中隊番兵交代ニテ、午前六時ヨリ左右小隊出張相成候ニ付、午後五時并六時比(約)両度兵粮差送相成候事、

一闇言　　虎カ、　　答　ヒヤウ、

右之通番兵先ヱ差越置候事、

三月九日　雨

九番中隊左右小隊共午前七時比交代ニテ帰宿相成候事、

一右右小隊三官人員今日より今井重吉所へ同宿相成候事、

一鉛古玉

右製造方第四ノ一番ヱ差迫ニ相成候事、但止ニ相請取候旨返書候事、

一金六拾五円三拾銭

此金丑二月廿四日ヨリ三月十日迄、日数拾五日分壱日ニ弐銭宛鞋銭トシテ、大小荷駄方ヨリ花田相受取候、

右一同ヱ配分候事、

三月十日　晴

九番中隊番兵トシテ、午前六時并七時ヨリ左右小隊出張相成候事、

一今日ヨリ三官并給養方共、賄方・焚出方ヱ同宿相成、跡今井重吉宿ヱハ堀田并川上尚一組転宿ニテ候事、

九番小隊

有馬庄太郎

右ハ病気ニテ本病院ニ於テ養生致居候処、無涯全快可致病症ニ無之、除隊帰県申付相成候旨本営相達シ、今後大小荷駄方ヨリモ庄太郎名前不相見得候ニ付、取調申出候処掛合ニテ取調ニ及候得共、有馬庄太郎名前不相見候ニ付、右趣大小荷駄方ヱ回報致候事、

一午後四時比霰降早ク止、

一同四時番兵先ヱ兵粮差送候ニ付、給養伊地知正介附添差越候、

一午後七時兵粮送方トシテ給養花田彦兵衛差越候事、
一闇言　　問　富士カ、　　雲ト答、
右闇言先番兵先ヱ問越候事、
一左右小隊旗　白/赤　第四九番中隊右小隊・同左小隊ト（ノ脱カ）
弐本新製相成候事、
一本営ヨリ手旗一中隊ニ四本ツヽ、従前相調置候赤旗ト
引替ニ相渡候事、
但旗　赤/白　如図、
三月十一日　少々雪降
午前六時番兵先ヱ兵粮差送リ相成、給養栗川少差越仕
候、同九時ニ至リ帰宿候事、今朝諸所高山ニハ少々雪
積レリ、九番隊中隊弐小隊宛是迄番兵之所、一小隊宛
一昼夜番兵交代ノ筈相決シ、午前十一時比ニ右小隊ノ
分引揚、三官今井常七所ヱ同宿相成、左候テ今日迄ハ
右小隊、亦午後六時ヨリ番兵ニテ、明十二日午前七時
左小隊ニ交代ノ筈候事、
一肥後之内植木村ト山鹿町トノ間道ニ鎮台兵近々突出ノ
向ニ相聞得候ニ付、則右ノ要所ヱ守兵トシテ、石塚長
左衛門隊並飫肥一小隊午後四時比ニ出張相成候事、
一熊本鎮台落城迄ノ間ハ山鹿駅出張ノ各隊ハ、同所在陣
ニテ一同各所昼夜番警衛有之候様トノ儀ニテ、各隊滞
陣相成候事、
一問　船カ、　　嵐ト答、
右十一日夜ノ闇言ニ候事、
三月十二日　晴
午前一時比番兵先ヨリ斥候池田兼爲駈来、我隊相固候
遙先東西ノ方ニ当リ砲声相聞得候ニ付、弾薬相送候様
報知ニ付、夫卒三名差遣シ相成候事、
一午前六時同番兵先詰斥候池田爲兼（マヽ）ヨリ、今午前五時比
ヨリ各固場本道ヨリ右手ノ方ヱ敵来候ニ付、則我九番
ニモ発砲戦闘開始ヲ仕旨報知ニ付、左小隊有馬藤九郎
隊ニモ番兵先ヱ午前六時繰出、給養新納伊兵衛・花田
彦兵衛差出越候事、
問　岩カ、
答　山、
右十二日夜之合言葉、
一戦死朝稲義制・岩川郷田中覺衛門・同郷松田甚之丞、
一後戦ニい十院郷小野泰藏手負、かとしま眞川金次郎・
同村山彦七・い十院郷小川吉之進、
一砲戦弥ハケシク相成候ニ付、午前七時兵粮運送として

給養栗川少、夫卒三人ニ荷をわセ、番兵先エ差越、戦場エ夫卒を以兵粮相送リ候処、夫卒之嘉右衛門弾薬ヲ馬荷付テ運送相成、夫ヨリ兵粮等モ昨夜出張相成候右小隊エ相渡シ、其以前ヨリ各隊番兵先エ都テ敵兵懸来リ候由、双方大戦争ニテ午後四時比迄ハ双方戦闘ニテ勝利未決、四時三十分比ニ味方ノ兵器打レ少ク候ニ付、別府九郎隊北之方、西之方ヨリ郷田正之助ノ弐小隊双方ヨリ応援有之候ニ付、弥暫ク相戦ひ、午後五時比ヨリ味方追々番兵之固メ場を引払ひ、一同城原(山鹿市)之東拾四五町東之田地越岡手之街道津留(山鹿市)村ニ相屯メ、其場ニ於テ兵粮等相ツカヒ、午後七時比相成候処賊兵モ亦戦を止引退候ニ付、則九番二小隊之儀ハ従前相固メ候場所進撃シテ、亦是を守リ返シ其所を固ム、

一中隊長伊東直二儀ハ、熊本々営エ御用之儀ニテ、午後五時比ニ中隊長神宮司助左衛門同道ニテ至出張候事、

一午後十時ニ本営ヨリ各隊中エ酒四斗樽一挺取入、番兵先エ差送リ候様、尤代銭儀ハ請取者本営エ差出候様致承知、酒差送リ相成候事、

一台場築方として、明俵五拾俵大小荷駄方ヨリ可相請取、夫卒拾参人エ為持、番兵先エ午後十時比ニ差送候事、

三月十三日　雨

午前四時比番兵先エ兵粮差送リ方として、いち丶(伊地知)正介・新納伊兵衛差越、正介ニハ午前九時帰宿、

一午前八時肥後平八郎番兵先エ台場築方ニ付、明俵五拾俵并木屋掛用トシテ斧等差送リ候様トノ儀ニ付、直様差送候事、

一山鹿町ノ住富田利平次下男健吉、外ニ女一人新町迄通行、左之通鑑札一通相渡ス、

第四九番中隊(ノ脱カ)

陣営

山鹿町住

富田利平次下男

村上健吉

外ニ女一人

右之通壱通利平次エ相渡シ、明日正午迄之間返納候事、本文十四日返納相成候事、

一午前十一時比ヨリ給養富山英介番兵先エ兵粮送方トシテ附添差越候事、

一午後二時四十分ニ中隊長伊東直二殿、熊本ヨリ山鹿駅エ帰宿相成候事、

一午後四時比ニ石塚長左衛門隊并山口十蔵隊、当山鹿駅

エ繰込ニ相成候事、

闇言　　問　島カ、　答　権、

右之通ニテ候間本営ヨリ達相成、隊中并番兵先エ御回章致候事、

三月十四日　晴

一針打銃拾九挺

右一昨十二日、肥後山鹿城村戦争之砌分捕相成候段、以書付本営エ届相成候事、

三月十四日　　中隊長　伊東直二

一午前六時ヨリ左小隊番兵トシテ繰出、右小隊交代ニテ帰宿相成候事、

夫卒

主取

金壱円　　坂元太兵衛

右同半円　　田邊嘉次郎

夫卒

右同半円　　徳田助次郎

右同半円　　東郷孝之進

一金半円　　肱岡新太郎

右ハ出軍上昼夜骨折抜群、職務致勉倹候故諸事都合ヨク相運、殊ニ助次郎・孝之進・新太郎ニハ、去ル十二日城村戦争之砌、弾薬運送ハ勿論隊長之指令ヲ固守シ、卑職之身奇特候ニ付各頭書之通賞金給与相成候事、

一刀壱本　　主

飛松孝右衛門

右同郷内山民之丞エ相渡ス、

但孝右衛門手負ニ付、同組銃器旁持運ひ不自由ニ付、夫卒ヨリ持届給養方預リ品也、

一午前七時過ヨリ日命村（姫井村カ、鹿尖町）エ滞陣相成候、高城七之丞エ引合せたる件にて、斥候池田兼爲・同同上捨蔵同所エ致出張、午後三時三十分比ニ山鹿駅エ両名共帰宿相成候事、

川上尚一組

畦池謙一

鎌田雄之進組

林　悦之丞

右両名儀熊本本営エ護兵トシテ、午後五時当駅出発相成候事、

闇言

一山カ、　答　川、

右隊中并番兵先ェも回達致候事、

一毎日当番隊長出営ニ付、其給養壱名并夫卒壱名宛本日ヨリ出営ニ付、此旨布達候事、

但交代之儀は毎日午前八字ヨリ、翌日午前八字交代之事、

一第四ノ九　第四ノ一　第二ノ三

第二ノ十

右三月十五日当直候事、

一第四ノ三　第四ノ八　第四ノ四

第四ノ九

各給養

右三月十六日当直候事、

右当番三ツニ割四日目当直事、

右之通本営ヨリ布達相成候也、

三月十五日　晴

一午前五時比本道ノ方ェ敵相見得候旨、左小隊番兵先ヨリ報知にて、追々各固場ェ懸リ来リ候様子ニ候趣、告知相成候、

一右小隊午前六時陣営繰出固メ場ェ出張相成候事、

一同六時三十分比給養伊知地正介附添、兵粮差送リ相成リ、勿論花田彦兵衛儀ハ左小隊ェ相付、昨日より番兵先ェ出張居リ候事、

一午前七時三十分ヨリ給養富山英介本営ェ出務仕候事、

但夫卒一人同行、

押伍

戦死　馬場謙介

右於城村戦死候旨午前八時同組岡田伊介ヨリ届相成、死体病院ェ送届、右取始末旁として新納伊兵衛差越候事、

鎌田雄之進組

手負　永井袈裟八

右同所ニ於左手先ェ浅手負候ニ付病院ニ入、午前十一時比ヨリ亦川尻病院ェ差越候事、

小濱喜之助組

戦死　川田十左衛門

右同所ニ於て致戦死、同組竹下藤二郎護送ニテ届相成候事、

馬場謙介組

手負　山崎藤兵衛

押伍

手負　久留十郎
堀圓組
手負　永崎榮藏
右城原村（山崎市）於手負、
山田幸吉組
手負　長谷川泰藏
右書同断
岩切正九郎組
手負　吉瀬惟治
右書同断
押伍
戦死　川上尚一
右同所ニ於戦死候旨同組川東時信ヨリ届出候事、
松崎覺二組
手負　村山次兵衛
右書同断
久留十郎組
戦死　瀬戸口幸次郎
右書同断ニ付同組吉本伊兵衛ヨリ届出候、
永井喜之進組
戦死　久保田林左衛門
右書同断ニ付橋元憲藏ヨリ届出候事、
永井喜之進組
戦死　桐野矢八郎
右同断ニ付、右同人ヨリ届相成候事、
但本人銃器之儀台場エ有之、
戦死　峯崎半左衛門
右同断
押伍
戦死　鎌田雄之進
右之刀・銃器ハ揚方不可申候由届、
右同断
手負　大津林兵衛
右同所ニ於て手負、
深手手負　竹下精二
右同所於て同断、
谷山陽之助組
高岡
戦死　久保田長英
右同所ニ於戦死、右西郷重矩殿、

右同人組

高岡

戦死　岩元宗之助

右同所ニ於て戦死、

薄手　末原慶二

右同所ニ於て手負、

深手　藤崎直之進

薄手　伊牟田壮右衛門

右同所ニ於て手負、

一午前四時比ヨリ敵空大砲二発を以相図(合)ノ様子ニ相見得、夫ヨリ順々に味方之守場エ小銃を発シ進来ニ付、各々砲戦相始メ、敵味方はけしく打合、暫時も砲声止時なし、殊ニ敵ヨリハ大砲数挺を以諸所ニ発砲候故、九番隊固メ場エ砲丸来リ候儀数多ニして、大ニ難戦ニ及難(難カ)モ、少もひるます、ます〳〵発砲ふん戦ニ付、漸々敵勢相弱リ九番ニ不限惣軍発撃シ、各隊之内或ハ切込、或ハ伏せ置横を討、身命ヲ不顧必至之戦闘にて、午後二時比ニも候哉、敵次第ニ退散シ数町之間追討候処敵之病院迄も攻入、諸所屯集之所迄追撃ニ及候処、九番隊ニ於てハ敵勢酒樽等ヲ設ケ置タル場所ニ行当リ、則九番隊ヨリ四斗樽等分取シ大勝利ヲ得、静ニ兵隊を屯揚シ兵員を検査候処、戦死手負前件之通ニ候得共、敵兵ハ跡方も不見得味方大勝利故、亦々以前之通九番隊ニハ右小隊を番兵トシ、左小隊ニハ交代ニテ山鹿陣営エ帰宿、且戦場に於て分取相成候酒樽も午後七時比ニ宿陣エ持来候ニ付、則相開キ酒を給リ昼戦之労苦をいたわり、各酒盃をかたむけ、亦戦労を忘れ人々今一層之英気をふんはつシ、戦争之事件を高談シ、午後十一時比ニ至リ各寝につけり、

一銃器并弾薬等も分取相成候得共、今日迄ハ不相分候ニ付分明候上、追て記載スへ(シ脱カ)、

一本日ヨリ本営エ給養一名ツ、十一中隊繰廻シヲ以テ相詰候事、尤日割四日目相当候事、

三月十六日　曇

今日無別条、

一問　猫カ、　答　鼠、

右本日合言葉相定候条、布達候事、

一昨日苦戦ニ付、本日右小隊中エ酒取入差送相成候事、

左小隊ハ明日ノ筈ニ候事、

一本日夜蠟燭四十挺、大小荷駄ヨリ受取ルコト、

一昨日戦死手負ノ人員、本日山鹿本営エ届申出候事、

三月十七日　曇

一本日押伍山田幸吉跡代西村厚、押伍川上尚一代岩川勇八郎、押伍久留十郎代理神崎政寛評議ノ上、命セラレ候事、

一左小隊中エ一昨十五日苦戦ノ労苦ヲ慰センカ為、酒一樽取入振舞相成候事、

今晩

問　雲カ、　答　華、

一大津林兵衛・永井けさ八川尻病院エ被差越候事、

三月十八日　快晴

本日探索掛ヨリ台賊惣掛ノ段報知有之、殊ニ番兵先台場建築十分ニ整斉致シタレハ、今ヤ遅シト待受タルニ、更ニ進撃ノ体モ無之、故ニ時限来リテ左小隊ニ交代セリ、

一九番中隊ノ名簿本営ヨリ差出候様致承知、一帳取仕建伊地知正介ヨリ隊長平野正介エ差出候事、

問　松カ、　答　風、

右本日ノ合言葉、

三月十九日　晴

一本日九番中隊惣人員、大小荷駄方ヘ書出ス、百七拾七名也、

問　船カ、　答　海、

右本日合言葉、

一本日ヨリ番兵先エ給養宮田相詰候得共不及其儀段、隊長ヨリ致承知候事、

一隈元歳二右之全体医業之者カ病院手支候ニ付、除隊之上川尻病院エ差送候様、本病院ヨリ掛合ニて差迫、御取計相成度、此旨及掛合候也、

二月十六日（ママ）　本営

四番大隊九番中隊

伊東直二殿

三月廿日　雨

一本日田原方防禦ノ我カ軍兵少ク、賊兵近衛兵・巡査・台兵合シテ、昨夜ヨリ砲声不絶、攻撃ノ向ニ相聞ヘ、頻リニ砲声甚シク聞ヘシカ、十二時十分計前終ニ田原ノ持口相破レ、兵士等散々ノ体ニテ走セ来リ、其上持口破レタル報知有之ニ付キ、山鹿ヨリ二中隊繰出シ相成タリ、其上川尻ノ様出張タル兵隊モ二中隊植木ノ手前ニ扣ヘタル由ナリ、其後何タル報知モ未来ラス、

問　雲カ、　答山、
右本日合言葉、
一今日竹長持等ノ荷物大小荷駄運輸ニ差加ヘ、新納伊兵衛才領ニ付熊本ノ様送届相成候、尤今夜山鹿引揚ノ事件有之故也、午後一時過大小荷駄繰出ス、
一植木・田原口破レタル報知有之、山鹿ヨリ三中隊（味取、植木町）緑迄繰出相成、緑ノ兵隊弾薬等続キ兼、持堅メ難キ報知ニツキ、十二時曳揚ノ決議ニ候処、俄ニ議論相変リ、又山鹿堅守ニ決定致候事、

三月廿一日　雨後晴ル

一本日午前五時過キ城村我兵持口ヘ台兵攻撃致シタリ、然ト雖台場堅固ニ整斉シタレハ、我兵悦ンテ台賊ヲ睨撃シ、頻リニ之ヲ挫キ既ニ乗入ラントスル央、斥候命ヲ受ケ、台場ノ我兵引揚ヘキノ令ヲ達ス、我兵皆色ヲ失フ、此場引揚クル時ニアラス□□台賊皆避ントスルノ勢ナルニ繰引ニ曳揚ケントス、時次ノ固メ等皆兵ヲ揚ク、故に我兵止ムヲ得ス兵ヲ繰引ニ引上ケタリ、此時台兵勢ニ乗リ、トキヲ揚ケ、番兵木屋ニツキ入リ火ヲ放チテ之ヲ焚キ、跡ヨリ頻リニ砲発ス、此時ニ当リ前田兼衛組栗野士池田休八手負ス、我右小隊ハ半隊長肥後平八・分隊長久保郁之ヲ統ヘ、町迦レニ護衛トシ堅メタリ、兵皆残ナク曳上ケサルニ右小隊可引上ノ命有之ニツキ、是モ兵ヲ揚ケ本営前ニ兵ヲ円メ列ヲ正ス内田中兼秋流矢ニ当ル、夫ヨリ先キ別府十郎植木斥候ヨリ返リ来ルニ、早兵新町ノ様ニ曳揚ケ繰出シタル由ナリ、新町迄兵ヲ引クニ諸所ニ伏ヲ設ケ繰曳ス、新町ニ至ル、此所守リヲ置クヘキ場所ニアラストテ田島ト云フ所迄引上ケ、本営ヨリ暫時ノ休息ヲ達ス、故ニ此所ニ番兵ヲ設ケ堅メケル、
問　雲カ、　竜、
右本日合言葉、
一二階堂彌九郎斥候ノ報知、植木大勝利台賊ヲ追払、緑辺マテ追退ケ植木ノ道ヲ明ケタリ、兵粮ノ焚出シ金釘町ヨリ仕出ス由ノ報知ニツキ、山鹿ヨリ引揚ケタルヲ衆人失望シテ之ヲ歎ス、殊ニ熊本ヨリ鉛七十三斤・唐紙ヲ送リ来レル由ナリ、是植木ヨリ海道ヲ通ルコト能ハサル故ニ、間道ヲ廻リテ来レリト云ヒタルトナリ、
此日手負池田休八・田中兼秋ノ両人ハ川尻ノ様護送セリ、

三月廿二日　曇夜半雨

一本日午前五時揃ノ令ヲ以田島ヲ出立チ鳥ノ栖(西合志町)村ニ造ル、熊本本営ヨリ植木ハ大勝利ニツキ、弥堅固ニ山鹿相守リ候様先生ノ問合相達ス、故ニ又我カ兵ニ一中隊半ヲ加ヘ、高江ノ方ヘ繰出シ、福本村ニ宿陣ヲ構ヘ守リヲ置クニ、一片ノ(ヘン)田面ニシテ道筋多ク、背ニ廻リ横ヲ衝(ツカ)レン事ヲ憂ヘ、募兵ヲ以テ守ルヘキ地所ニアラス、サナキニ於テハ兵ヲ増シ加ヘンコトヲ本営ニ告ケタリトイヘトモ、前件ノ憂アル故ニ皆兵ヲ揚ケ、要所ニ備ヘシト隊長中決議シテ兵ヲ揚ケ黒石村ニ抵ル、此所又横ヲ衝クノ憂アリト云フテ、旅籠屋ト云フ所ニ曳ク、加治木隊此所ヲ堅メタリ、然ルニ本営ヨリ亦兵ヲ高江ニ備ヘ置ヘキ旨ヲ達ス、此時我大キニ労レテ議論紛々タリ、然ト雖トモ又兵ヲ須村ニ黒石ノ(コト)繰出シ番兵ヲ張ル内飫肥隊ヲ繰出シ、中隊長モ出張シタルニツキ、兵ヲ早々繰出スヘキ報知ニツキ、又兵隊黒石村ヲ午後二時ニ繰出ス、後雨降出タリ、高江ニ午前四時半ニ着ス、直ニ守ヲ設ケ此所ヘ宿陣ス、

問　雲カ、　風ト答フ、

右本日ノ合言葉、

三月廿三日　朝雨後曇ル

本日モトノ通リニ守リヲ設ケテ備ヘタリ、敵兵実ニ不見得植木ノ方砲声夥シ、中隊長伊東直二・峯崎半左衛門・山口十蔵出張シテ諸所防禦ノ持口巡検セラレケル、其夜篝火ヲ焚キ番兵ヲ置キ此所ヘ宿陣セリ、

一本日給養新納伊兵衛鳥栖ヨリ荷物ヲ運輸シテ福本宿陣ニ来着セリ、

一本日夜田上權藏鳥栖村本営ヨリ帰着、兵隊隈府ヘ繰出ス様ニトノ令ヲ達ス、故ニ進撃繰出シノ評議アリテ其用意ヲナス、

問　富士カ、　答　雪、

右本日ノ聞言、

三月廿四日　曇

一本日七時兵隊福本村ヲ発シテ隈府ヘ繰出ス、隈府十町位手前ニテ二ノ八給養市來某外一人走セ来リ、隈府ニ賊兵一小隊出張シ、追々兵ヲ繰込ムトノ報知アリ、故ニ速ニ兵ヲ進ムヘシト駈返ツテ兵隊ニ告ク、然ト雖トモ敵兵一人モ無之、兵隊皆隈府ニ来着セリ(後ニ報知聞違タルノコトヲ陳謝セリ)、隊長中持口堅メノ場所巡検アリテ、何レモ番兵ヲ置カレタリ、此所ニ滞陣ス、

一肥後協同隊ノ人来リテ賄ノ儀ヲ依頼ス、是給養来ラス

兵隊而已ナルカ故ナリ、義ニ依ツテ黙止難ク我隊給養ヨリ則賄ヲ送レリ、人員十八名ナリ、

問　礒カ、　答　海、

右本日ノ合言葉、

三月廿五日　晴

一本日隈府滞陣隊長中進撃ノ評議有之候ヘトモ、鳥ノ栖ヨリ報知無之、我兵半隊長肥後平八・第五ノ二分隊長佐々木某ト同道鳥栖ニ行カレタリ、植木ノ方午前五時比ヨリ砲声甚タ烈シク聞ヘタリ、暫時ノ程ニテ後砲声絶々迴遠ク聞ユ、肥後平八午後四時比帰着、植木ハ三十二小隊惣掛ニテ攻撃、半里余先キニ押詰タルトノ報知是有タル由ナリ、

一鳥ノ栖兵隊モ植木ノ方ヘ進撃、彼ノ方追落シ、都合次第峯崎半左衛門帰隊ノ上ニテ如何共可相決トノ報知ナリ、

一八代敵兵モ追払ヒ残兵所々ニ有之由ニ候ヘトモ、本日猶又打払ヒ候ハントノ報知コレ有タル由、

一大山彌介事植木ニテ手負、引揚途中ニテ相果タル由ノ知ラセ本営ヨリ是アリタル由ナリ、尤筑後赤坂ト申処ニテ歿シタリト云フ、

問　水カ、

答　谷、

右本夜ノ合言葉、

一此所滞陣、

三月廿六日　曇晴交

一本日鳥ノ栖ヨリ一封肥後・佐々木ノ両士云々ノ次第申述候間、御聞取被成候半、植木進撃ノ義昨日ハ格別進軍ニモ不至、就テハ当分評議中御座候ニツキ、決議次第何分急報可致候間、夫迄ハ今形厳重防禦可相成候、此段御掛合ニ及候也、

鳥ノ栖出張

本営

三月二十六日

伊東直二殿

伊地知彌兵衛殿

一鉛ノ義豊後地迄相掛探索致、買円メ候様問合相達ス、就テ早速探索着手ニ相成、本夜中ニ三百拾斤買円相成候事、

問　梅カ、　答　桜、

本夜ノ合言葉、

一岩切助右衛門鳥ノ栖大小荷駄方ヘ金子受取方トシ差越サレ、金八拾円・蠟燭五十丁受取被相済候事、
一本日モ滞陣相成候事、
三月廿七日　曇　雪少降ル
問　山カ、　答　西、
一本日鉛三百斤鳥ノ栖本営ヘ護送トシテ新納伊兵衛差越候事、
一本日夕飯ヨリ協同隊十五名着陣、此方ヨリ賄差送相成候事、
三月廿七日
一金拾五円
但草鞋銭ニシテ鳥ノ巣大小荷駄方ヨリ内受取、
一午後三時比騎馬兵二キ番兵先ヘ乗込□□声掛候処、馬上筒打掛候ニ付、此方砲発ニ及候ヘハ逃去馬計射留候由ナリ、五ノ二番
一左小隊ノ内山口善次郎・森勘之丞・小倉助次郎・山元市ノ助・中馬保之助、三月廿四日高江村ヨリ鳥ノ栖本営之様各隊之内ヨリ出張人員ニテ候処、小倉助次郎手負、山元市ノ助戦死ノ由三月廿七日報有リ、
三月廿八日　曇
一本日十一時比敵兵一小隊位川下ノ方ヘ相見得、暫時動揺致候得共立去、諸所ヘ見ヘ陰レ居候段斥候ノ報知アリ、
一本月十五六日比大山彌助手負、輸送中久留米赤坂ニテ死ス、三好ハ腕ト足ニ傷ク、
一野津ハ無事、
山縣・山田等専ラ周旋ノ由、
薩人加世田ハ深手、吉利戦死、
廿一日久留米ヨリ巡査三百名南關ヘ入ル、廿二日植木口ニ掛レリ、木葉ノ近方ニ八百人ノ戦死墳アリ、廿二日更ニ五百計ノ死骸ヲハブ野ノ寺ニ積重アリ、伊倉ニ千人以上ノ戦死墳アル由、
高瀬・木葉・吉次方ノ戦ニ惣戦死凡三千計ト云フ、
近衛兵ハ三月三日・四日ノ戦ニ吉次越ニテ一中隊ハ過半戦死、其ノ後一中隊ハ同七討ニテ殆ト残ナク死傷アリト云フ、敵軍ノ惣数二万ト云フ、
熊本県ノ官吏遠近・横田・松村外一名南關旧会所ニ集リ、仮ニ県庁ヲ設ケ種々周旋スル由、有栖川宮廿二日南關ヱ入込人力車七拾二挺其外護兵少々アリ、曾我準(祐準)
三旧里柳川エノ報知ニ庄内騒擾ニ付、二大隊ヲ率ヒ出

張スト云フ、

右高木眞二郎ナル者探偵イタシ協同隊エ差出候赴ニテ、彼方ヨリ被差出候事、

別紙ノ書面相見得候間、入御覧申候也、

三月廿四日　　本営

野村忍助殿

前文ノ赴申来候間、此旨及布告候事、

三月廿五日　　鳥ノ栖本営

各隊長

各給養　御中

一本日午後四時比飫肥隊ノ者鳥ノ栖エ戦争有之段報知致シタル由ニテ、我右小隊相円メ繰出ス中途ニテ段々聞合道スカラ探偵ニ及候ヘハ、全ク砲戦ノ向ニ聞ヘス、殊ニ砲声モ不聞故暫時隊ヲ留メテ右之段ヲ斥候ヲ以テ隊中ニ報シ、外ニ斥候城戸四郎左衛門(ママ)外二名・協同隊三名鳥ノ栖エ差向、何分ノ報知可有之赴ニテ差向タリ、左アツテ小隊ハ可引揚ノ報アツテ引返シタリ、給養伊地知・富山、

一午前四時比斥候城戸外五名鳥ノ栖九時十五分発足イシ(タ脱カ)ル由(タ脱カ)ニテ帰着ス、報知一封至来ス、其赴鳥ノ栖ハ其後無事ニテ戦争コレナク援兵ノ段辱ク、互ニ報知可致、就テハ何時ト慥ニ時間ヲ可記トノ赴ナリ、将亦旋条銃弾薬可相渡トノ赴、又本県ヨリ五千計ノ兵両日ノ内ニ来着ノ事件アリ、一封ナケレハ委シク記ス不能、昨廿七日鎮台兵城内ヨリ二千計ノ兵狼狽シテ突キ出、番兵二番ノ堅メ迄打破リ、火ヲ出町ニ掛ケ終日戦争ニ及ヒタル由、決シテ兵粮モ奪ヒ候半トノ噂、互死傷有リタル由、生捕モ互ニ是有タルト云、城下モハヤ水ヲセキ入レタル由、城兵大キニ困難ノ向ニ聞エタリ、就テハ植木口・木留口ノ外道コレナク、二道堅固ニ相守ルトノコトナリ、惜哉、米ヲ以前ニ運輸致サセヲカハ、カクノ憂アラマシモノヲト皆人云ヘリ、

問　松カ、　　答　常盤、

三月廿九日　快晴

一問　獅子カ、　　虎ト答、

本夜ノ合言葉、

一別条無之、

三月三十日　雨

一本日午前七時半時分台兵進撃ノ段報知、皆兵隊繰出シ砲発ス、我右小隊ハ土橋ヲ渡リ道成村ナリ、道ノ横手

ニ伏セテ砲戦ス、此時ヨリ敵少色メク形勢ナリ、頻ニ発砲、亦兵ヲ揚テ寺ノ後ヨリ竹山ヲ通ツテ正面ニ出テ、土手ヲ楯ニ取リ声ヲ揚ケテ砲発スルニ台兵又退ク、進メノ喇叭ヲ吹ナラシ声ヲ上ケテ之ヲ追フ、敵少々伏シテ狙撃スト雖トモ、終ニ足ヲ留メ得ス、兵皆丘ヲ越テ退キタリ、又敵兵人家ニ火ヲ掛ケ竹山ニ伏ス、又是モ無程追落シタリ、就テ跡ヨリ川ヲ渡リテ兵ヲ繰出シタレトモ、其時早敵兵ハ退キタリ、惜ラクハ四ノ八早ク進マサルコソ口惜ケレ、七時ヨリ始マリテ午後一時比ニ終ル、

一本道ノ方敵ヨリ大砲等発シテ大キニ進撃ス、五ノ二正面ヨリ進ンテ砲戦ス、此時我左小隊栗川少兵ヲ二ツニ分ケ横ヲ突ク、是カ為敵大キニクシケテ走ル、皆兵之ヲ追討シ分捕シタリ、此戦ヒ九時比ニ終レリ、

一本日ノ戦ヒニ第五ノ二中隊長伊地知彌兵衛戦死、兵士種子島壮七・同萩原新右衛門手負薄手ナル由届申出タリ、

一飫肥一番小隊小隊長佐土原藤吾・小頭沼津小彌太・兵士金丸忠彌戦死、半隊長阿萬南八郎・夫卒日尾勝次郎右両名行方未分、小頭蛯原善藏・兵士杉尾宗辰・鈴木金次・喇叭瀬尾金一郎・兵士高橋義八・矢野常治・小頭伊東祐藏・兵士矢野彌平・宮浦藤平・黒木敬次郎・間瀬田礒治右拾壱人手負タル届有リタリ、

一問　川カ、　答　山ト、

三月三十一日

手負　池田休八
同　田中兼秋

右山鹿ノ内城原村ニ於テ手負、

戦死　折田盛藏
同　山元市ノ助
手負　小倉助次郎
同　園田喜助

右三月廿四日福元村滞陣之節、鳥栖本営ヨリ各隊ノ内繰出候様致承、達差出候処三月廿六日木留ニテ戦死手負、

手負　兵士
原田虎次郎
同　喇叭役
手塚盛昌

右肥後之内隈府ニテ三月卅一日戦争ノ節手負、

右之通御座候也ト鳥栖本営エ届出ル、

一スナイトル弾薬　弐千

一ミニーヘイ同　弐千

一雷帽子

右岩切助右衛門鳥ノ栖本営ヨリ相請取候事、

誠カト問、

義ト答、

右本夜合言葉、

四月一日　快晴

一本日本営ヨリ各隊名簿一冊宛至急取仕立、幸便次第当営ヘ御差送被給間敷哉、此旨及御掛合候也、

鳥ノ栖出張　本営

四月一日

一当在陣ノ兵隊ノ内ヨリ繰合ヲ以テ応援ノ為メ一小隊、外ニ協同隊ノ内ヨリ弐拾名余、本日午後八時当地出発ノ筈候間、宿陣等ノ都合尚亦宜敷御取計置被給度、此旨前広及御案内候也、

四月一日　鳥ノ栖本営

追て何番ノ儀ハ差寄可申進候、

一兵隊夜ノ内ニ着相成候モ有之、

一大至急御紙面ノ趣十二時十分前相達、忝ク拝誦裏崩レノ模様実事ナレハ御楽無此上、久留米先生ハ猶吟味可致、扨八代口ノ儀モ暫時ハイケ不申趣ニ候処、昨夜モ夜討有之勝利ノ由、今晩モ同断ノ賦、鹿兒島兵モ今晩比来着ノ賦、然ハ投打ノ術計モ相調居候由ニ付、面目成立可申儀ト御同慶ノ至リ、本県兵士追々来着ノ報知有之候ニ付テハ実ニ刀付之次第、猶無油断御楽注意可致候、尤御伝声ノ趣正ニ相遂、何分御勝利之御吉左右相待居候、此旨御報迄早々頓首、

四月二日　鳥之栖本営

尚々山鹿辺其他之探偵方ハ被御申断、御手被相附度相願候事、

問　忠カ、

答　孝、

四月二日　少雨

一本日鳥ノ栖ヨリ繰出シノ兵隊道蹈違ヘ、今朝ニ掛ケ追々来着アレリ、

一筑前・筑後・肥前蜂起、博多・秋月ヲ放火致セシ段(巷)説有之、今暁四時半比筑後荒巻某探偵ノ為隈府ヲ発途致ス、実説ナレハ明日帰陣ノ筈、若虚説ナレハ日数ヲ

重テ帰ル賦ナリ、

一問ニ鳶カ、　鷹ト答フ、

右本夜ノ合言葉相定候事、

一今暁一時比ヨリ左小隊半隊兒玉良四郎賊兵進撃ノ賦ニテ、ナシ坂迄至リ横ヲ突クノ策ニテ候処、正面ナル由、殊ニナシ坂番兵見張等宜シカラス、篝火等焚方手近ニテ万端兒玉ヨリ下知致シ置タル由、賊寄セ来ラス故ニ午前七時半比帰陣セリ、

一本夜十二時比南ノ關方ヘ火ノ手相見得タリ、筑前辺蜂起ノ巷説有之故放火カモ知レスト云フ、

一本夜賊兵諸所ヘ繰出シタル説モアレリ、

四月三日　晴

一本日七時過ヨリ中隊長伊東直二、鳥ノ栖本営ヘ用談ニテ発足ス、

一鹿兒島ヨリ追々来着之兵員三千余之内、七百名ハ無銃ニ付、吾隊之儀傷者、又ハ損筒ニて差向取様用立候丈ハ、各種之筒ハ隊々ニおひて取調、至急差出候様熊本ヨリ相達ニ付、早々御取調之上当営ヘ為御持給度、此旨大至急致御掛(合脱カ)候也、

右之内八拾名丈ハ当地ヘ不日来着之賦に候、此段為御心得申進候也、

四月三日　　鳥ノ栖本営

本文ニ付四ノ八エ旋条銃四挺為持進申候、

一問　智カト、　答　勇ト、

右今晩相言葉也、

四月四日　晴

一今朝六時比ヨリ熊本エ野米受取方トシテ、夫卒太郎・協同隊兵士壱人同道ニて差越、三斗入三拾表相受取三比帰陣いたし候、

一今日鳥之栖ヨリ手前ニ敵相伏居候由飫肥隊ヨリ報知にて、一時比左小隊繰出ニ相成、給養飛田彦兵衛・岩切助右衛門出張、午後六時引揚ニ相成候事、

一弾薬千発宛・雷帽子五百宛各隊ヘ請取候様本営ヨリ申来、午後三時比着候事、

一問　谷カ、　答　梅、

右今晩合言葉也、

四月五日　晴

一七連銃　六挺

一釘打銃　五十五挺

一ミニヘール　六十四挺

一シャフル　　弐挺

右取調相成候事、

一問　雲カ、　答　龍ト、

右今晩合言葉也、

四月六日　曇

一昨三日斥候二名鳥ノ栖本営ヘ差出相成、午前九字比帰陣、一昨日ヨリ戦争諸隊防禦ノ処霞深く、敵遽ニ進来リ、台場諸所エ突入之由候処、諸隊相進官賊四方エ追散し、首級百計其外分捕等過分有之、味方手負ハ弐人之由、薩兵大ニ勝軍ノ報アリ、

一問　花カ、　答　雪ト、

四月七日　雨

一本日午前七字、官賊隈府東北之山上ヨリ大砲空発相図(合)ニて、右ヲ町内四方ニ破裂弾打込テ三四ケ所ハ焼亡セリ、小銃ハ山ノ半腹ニ相構ヘ間々砲発ス、味方ノ各士ハ守口并台場ニ拠ル央、吾九番小隊兵士小林五右衛門ハ大砲破裂ニ当テ手負、然レトモ吾隊ハ小銃一発モ放スシテ只敵ノ来ルヲ待、実ニ激士ノ鍛練シタル験ナリ、午後一字二十分過ヨリ敵繁ク大小砲ヲ打掛、頻リニ戦ヲ初ム、吾兵ハ静返テ賊ノ掛ルヲ待テ砲台ニ休息ス、戦ハ午後七時過ニ止ム、

同八日　雨

一本日午前九字比ヨリ雨少々降リ出シ、賊ハ岡上ヨリ大小砲諸台場等エ打放チ、吾四ノ八番小隊ニ限リ砲戦ス、余隊一発モ放セスシテ潜リ返ル、午後過砲声絶て止ム、

四月九日　雨

一今日隈府滞陣、十二字過ヨリ例ノ通敵ハ大砲台北ノ間三ケ所に築き、小銃ハ東西ニ配リ、味方ノ砲台諸所ニ打掛、午後二字ヨリ給養交番兵粮焚出シノ場所エ伊地知・華田二士出張、三字比ニモ候半菊地神社側各隊台場危候ニ付、援兵差出候様告来リ、右半隊長肥後平八兵隊曳具シ、右ノ川面ヨリ一声打ヲ以追撃ノ処、敵摧カレ味方ハ鬨ヲ作リ追掛タリ、賊又吾隊後ニ廻リ横ニ出テ砲発ス、故ニ其場少シ引、兵ヲ円メテ石橋涯ヲ守テ敵ヲ禦ク、甚タ苦戦ニテ兵ヲ曳進メ、縦横指揮シテ軍士ヲ励マス央、橋上ニテ戦死ス、此戦ニ押伍佐土原才助手負、暫時此所ヲ守ル、同時間ニ五ノ二番隊ヨリ応援乞来リ、即チ分隊長久保郁右半隊ヲ曳テ梨子坂下田中折伏シテ砲発ス、大小ノ砲声ハ止ム時ナク衆皆困ム、賊夜ハ探打シテ我ノ守リヲ成シテ終夜砲発ス、此

地タルヤ全体中窪ノ地ニシテ、須臾モ兵隊可滞所ニアラス、早ク可引揚ト軍議相窮リ、午後四字引払候事、

同月十日　大雨

一隈府ヨリ午後四字引上ケ候途中、此辺ヱ賊相見得候由聞及、高江并富二道分隊、富一道ハ四ノ九番中隊・高岡八ノ六番小隊・四ノ八一小隊、高江一道ハ協同隊・五ノ二番中隊・八ノ五番小隊行軍、十字比二里途程福ノ本迄着陣、西山手ノ方ヨリ小銃砲声ニ及、斥候五六名繰出候処、弥紛ナク賊兵ニテ、我一中隊ヲ以テ二時間位互ノ砲戦、此時分風雨甚シク、吾兵ノ小銃ハ旋条銃過半ニシテ火管薬ニ転セス、且昨日ノ防戦ニ弾薬尽キ、敵ハ要地ニ居テ挾打ニセラレテハ便ナク、於是諸隊竹迫(合志町)ノ間道ヲ取テ兵ヲ揚ケ、宿営ヲ竹迫ニ移シ爰ニ止宿ス、五ノ二・協同隊・八ノ五番等ハ皆受持ヲ捨テ、此所迄来リシト云フ、

四月十一日　晴

一本日受持ノ守口ニ台場ヲ築キ、防禦ヲ為サント人夫ヲ掛ケテ終日台場ノ建築ニ日ヲ暮セリ、中隊長伊東直二・協同隊長有馬源内鳥ノ栖(西合志町)本営ヱ行ク、其夜八時比有馬源内帰着セリ、本営ヨリノ一封アリ、兵ヲ揚ケテ鳥ノ栖ヱ四時中ニハ来着スヘキノ旨アリ、依テ皆兵ヲ揚ケテ午前三時ニ竹迫ヲ発ス、時ニ二重(二重峠、阿蘇町)ノ兵隊長某来リテ援兵ヲ乞フニツキ、飫肥隊一小隊ニ高岡八ノ六一小隊ヲ大津ノ様ニ差向タリ、残リ八ノ五番小隊ハ竹迫街道ヲ守リ、五ノ二番中隊ハ隈府街道ヲ守リ、協同隊・四ノ八・四ノ九番ハ行軍シテ、午前五時ニハ鳥ノ栖ヘ来着セリ、

四月十二日　晴

一本日午前五時過キ鳥ノ栖四ノ一番ノ受持台場破レテ、我右小隊援兵ニ出テタルニ早台場破レテ敵乗入リタルニツキ、我兵隊頻リニ発砲シテ終ニ接戦ニ及ヒ切入リタリ、敵大ニクシケテ台場ヲ捨テ退キタリ、故ニ又モトノ処ニ守ヲスヘテ防戦ス、四ノ一番兵隊持口ノ破レタルニ、我兵援兵ニ来テ救応シタルヲ衆皆喜ンテ之ヲ謝ス、四ノ九番ノ名誉大キニ轟ク、

一我左小隊ハ本営ヨリノ達ニ依リ、本夜八時比ニハ当所繰出セリ、伊東直二ニモ出軍セリ、

一本日隈府戦争ノ砌、肥後・佐土原手負、戦死小林、桐野等ニ、手負并当所ノ手負等之届申出タリ、宅間ヘ差出置候事、

四月十三日　晴

一本日暁砲声甚シク、賊襲来ラント待設ケタルニ攻来ラス、其後静リ返リテ砲発セス、故ニ我カ兵皆休息セリ、

四月十四日　雨少フル　陰

一本日暁探砲烈シク放発スレトモ差タル事モナク、其後ハ互ニ砲発セス静リ返リタリ、我兵休息セリ、

一伊東直二又熊本ニ行ク、

一右半隊ハ四ノ四番受持台場ヘ打込受持相成、交番無之様相成候事、

一本夜三時比熊本・川尻相破レ、鎮賊皆城中ニ乗入レタル段、城中警衛兵四方ニ散シ、本営等相移サレ鳥ノ栖隊引揚ケ、大津合併ト報告有之候ニツキ、本営ヘ富山出頭ニ及シ処、其用意致ヘク段致承知早々手当ニ相及候事、

問　呉カ、　答　山、

合言葉、

四月十五日　晴陰交々後雨少フル

一本日午前五時過キ台場兵隊引揚ケ候折ハ、本営ハ皆迦サレ宿営等相改候得共、手牒等多ク取散シアルニツキ取円メ泥中ニ埋メ置、夫ヨリ兵隊繰出シ行軍、富山兵隊ヘ付、新納小荷駄ヲ護送シタリ、植木村ニテ暫時休息、岩坂村ヘ着陣、要所ニ守リ等相付番兵ヲ張ル、然ル処大津宿陣ヨリ隊長鎌田勇一・川上□来着アツテ、大津兵ヲ引上ヘキニアラス、本営ヨリ命令ナシ、鳥ノ栖合併トアレハ此方ヘ来リテ救応シ給、然ラサレハ明日進撃シテ兵ミナコロシニナラント評議アリシヤ、本営ヨリ給養ニ出頭ヲ命ス、富山出、大津宿手当ノ一条ナリ、依テ九時ニ五ノ七・二ノ十其他五名同道発足ス、十一時ニハ兵隊ヲ繰出ス、三時比大津ニ着陣ス、番兵交代等無之兵皆休息ス、

問　兵カ、　陣、

本夜暗号、

四月十六日　晴

一本日六時過キ敵兵寄セタリ□□砲発ノ音聞ユ、本営ヨリ隊長ヲ呼ヒ久保□帰テ兵ヲ宿陣□□相待ツ、トキニ指令アリテ兵ヲ引キ、敵兵ノ背ニ廻リ後陣ヲ突ク、賊兵摧ケテ大ニ敗走ス、衆進ンテ逃ルヲ追フテ針打弾薬三箱ヲ分捕ス、外ニ取置タリト雖トモ他ヨリ又之ヲ奪フ、何番隊ナルカ中尉ノ倒レタル時計ヲ分捕リ、土工器ヲ取リ、馬マテ分捕シタル由

ナリ、十一時比ニハ賊ヲ追払フタリ、四ノ九ノ軍配皆之ヲ賞誉ス、一時比亦賊来ツテ攻撃スト雖トモ、暫時ニ追退ケタリ、

一伊東直二木山ヨリ帰営セリ、川尻兵弱クシテ大ニ破レ四方ニ散タル由、(甲佐)コウサノ戦抔戦ハスシテ退キタルト云フ、木山ノ戦ニ我左小隊応援ニ至リテ大キニ苦戦セシト云フ、戦死手負等之アリタル由、然ト雖トモ亦追返シタリト云フ、兵数多シト雖トモ弱クシテ、我兵等ニ応シ難シト云フ、

一本日酒肴取入、我兵隊ニ配当セリ、之本日ノ戦勝ヲ賀センカ為ナリ、

問　雲カ、　峯、

一旋条銃九挺

右玉出并横筒有之、本営付製作所エ取繕方トシテ差出置候事、

右四月十八日也、

四月十七日　大風雨

一本東(日脱カ)風甚強シ、雨少フル、無別条兵追々諸方ヨリ集来ルコト如雲霞、賊モ寄セ来ラス、兵隊十二時ヨリ非番、

問　山カ、　答　谷、

本夜暗号、

四月十八日　晴　霞立

一本日木佐木直(左)右衛門外一名左小隊ノ迎ヘニ差越、此方ニテ宿手当致置候事、

一兵隊本日非番、

一兵隊本日モ来着、

一昨十七日二ノ十兵士ヨリ邊見曽手負ニテ矢部□□□□護送□□候処、中途日暮□□□□相成、夫方賃銭前払ニテ無□□送方出来ス段知ラセ有之、新納ヨリ金一円二ノ十番給養方ヘ相頼差遣候事、

一堀圓針打銃一挺預相成候事、

問　梅カ、　答　桜、

本夜暗号、

一旋条銃弾薬五百発、雷管五百粉(粒カ)相受取候事、

四月十九日　晴

一本日我兵隊二番台場ニ交代ノ賦候処、一番と繰替相成、十二時ヨリ交番相成、

一黒江吉之丞針打勝手宜シカラス、中原正太郎針打ト繰替致サレ候事、

一木佐木直左衛門木山ヨリ帰陣、我左小隊ハ三舟方ヘ出

張居ルノ由、昨日モ賊兵寄セ来リ攻撃ニ及フト雖トモ、終ニ追退ケ勝利ヲ得タリト云フ、昨夜モ矢張リ小銃ノ音聞ヘタリト木佐木云ヘリ、故ニ援兵ナクンハ決シテ引揚ケ難カラントノ咄ナリ、

問　川カ、　答　柳、

第二ノ三夫卒

一　宮ノ内助次郎

右軍務ニ心掛候、取訳ヲ以兵士ニ昇級兼夫卒長申付候、

右同隊清水郷士族

一　木佐木榮介

右台場先キニ於テ自傷手負致シ候筋病院ヘ申立、猶及詰問候処、自傷相違無之、仍テ軍律ニ可処者候得共、猶実功可相立旨申立候ニ付、夫卒ニ降等申付候事、

右之通申付候旨中隊長ヨリ届出候条、此旨布達候事、

[　　]十九[　　]

四月廿日　晴

一本日午前七時比ヨリ賊兵攻撃[　　]二重ニ伏セ遠巻キニシテ近寄ラス放発ス、味方台場ニ伏シテ応砲セス静マリ返レリ、然ルトキ追々間近寄来リ互ニ砲戦時ヲ移ス、此戦ヒ終日ニシテ敵退ク内、四ノ四援兵ニ出タルニ、二三十名集リ付剣ニテ円居狼狽スルヲ狙撃シテ大ニ利ヲ得タルト云フ、戦ヒ午後六時比ニ終ル、

一本夜十時比御船并ニコウサ相破レ候ニツキ、大津其外ノ兵都テ矢部ノ様引上ヘキ旨本営ヨリ達有之、相揃次第ニ繰出スヘキトノ事故早々仕舞ニ及、兵粮ノ手当出来兼其形繰出ニ相成、岩坂村ヨリ間道ヲ上リ原ニ出ツ、

問　雲カ、　答　峯、

本夜暗号、

四月廿一日　晴

一本日未明原道ヲ押テ小荷駄ヲ運輸スルトキ八ノ二番隊ニテ候半、大ニ狼狽シテ鎮台先キニ廻レリト云フテ逃来ル、如何トモスヘキ様ナク兵ヲ引留メタリト雖、大勢の崩レ立タル習ニテ隊長等モ分兼タリ、夫故持夫兵カ逃去リテ大キニ困却セリ、然ト雖漸クカリ集メテ運輸ノ道立ツ、矢部六七里ノ路程ニシテ兵隊兵粮乏シク大キニ労ス、中途人家ナク田ノ尾(田小野)村マテ新納踏抜レ、焚出シノ手当ニ及ヒ兵隊此所着ノ砌ハ全整シテ一統喜悦□ヲ開ケリ、夫ヨリ又発途、午後三時矢部ニ到着セリ、諸方ヨリ兵集リ宿陣甚タ困脚(却)セリ、

問　雲カ、　答　山、

本夜暗号、

四月廿二日　晴陰

一本日軍議変リ□奇兵隊ト隊号相□四ノ九番□

□右小隊長讃□

右之通決議相成候事、

四月廿二日　大津口本営

右小隊

分隊長　黒木幸介

右書同断　仁禮吉之□

田原吉之丞

大浦重□

讃良健藏

頴川清藏

鈴木四郎

右八名大砲隊ヨリ本日入隊相成候事、（ママ）

一振武隊　旧田原口出張本営

中島健彦

一正義隊　旧竹宮出張本営

河野主一郎

一行進隊　旧木留口出張本営

相良五左衛門

一干城隊　旧御船口出張本営

阿多壯五郎

一奇兵隊　旧大津口出張本営

野村忍介

今般右之通各隊改正候条、此旨相達候事、

四月廿二日　本営

右小隊

分隊長　久保郁

右　右半隊□

左小隊□

半隊□　兒玉良四郎

右　左小隊□

左□

分隊□

右　左□

右□

分隊　押伍

右　左分隊長　□

四月廿二日本営ヨリ達相□知之事、

右之通隊中へ布達ニ及候事、

問　山カ、　答　月、

本夜ノ暗号、

四月廿三日　晴陰交春風強

一本日我兵隊番兵へ交代、七時繰出セリ、

一岩切助右衛門来着セリ、富山預リ金正介方へ差遣ス、

左小隊曳揚の事件アリ、本夜伊地知又来レリ、然ト雖トモ事果サス、本夜暗号達シ無之、

四月廿四日　少雨

一本日我兵隊番兵交代シテ帰宿セリ、

三春助廣名前を以手負届相成、混雑之砌にて間違に及候間、承りを以て本営へ富山英助届出候処、消除候段永吉徳二より承届候間見合之ため記置候事、

二月廿六日

福本村より我隊十人差越候内右小隊折田盛蔵三月廿六日木留にて戦死し、爲田善助同所にて手負川尻へ行く、

三月廿七日報あり

本日鳥ノ栖ヨリ報知、一中隊ヨリ十人・押伍一人、一小隊ヨリ五人・伍長一人ツヽ、鳥ノ栖ノ様可差遣トノコトニテ、我隊ヨリ十人・押伍西村厚差越候事、

（表紙）　（五冊ノ内第四号）

第八月一日ヨリ改

日記

奇兵第三大隊三番中隊

第三分隊

押伍　長井喜之進　吉野

武村　大□林□

西田　橋□豊彦　豊彦事病気ニ付二月二十三日帰県、田ノ浦ヨリ

志布志　□

右同　貴□直　直事病気ニテ二月十七日帰県、加治木ヨリ

右同　□

□

右同
池□
栗野
有□
右同
川□

第三分隊四

押伍
西田
谷山陽之助
新秀院（照） 二十□
山□直助 □七
高山
室□親□ 三十□
出水
富□五左衛門 四□
右同
宮路重右衛門
右同
田□
□

□
右同
桐野省輔 三十八
右同
石□祐一 二十二
右同
肱黒長利 二十□

第三分隊五

押伍
旧福昌寺門前
久保　郁 二十六
新秀院
原田虎次郎 十七
出水
廣□靜□
右同
山□道治
栗野
竹下棟一 二十三
高山
宇都宮休次郎

道治事二月二十二日、肥後国向坂合戦ニ手負、

帰隊之上病院詰本営不主候、

富[　　]
出水
川□祐博　二十三
上町口
伊集院藤右衛門　二十二
志布志
村□貞重　三□

第四分隊

押伍

旧大乗院前
馬場兼介　二十九
高麗町
久留十郎　二十一
同前
鎌田雄之進　二十五
種子島
田□權藏　二十六
右同
畔地宅也　二十一
右同
[　　]

十郎事二月廿五日押伍ニ転ス、
雄之進事押伍ニ転ス、
權藏事二月廿八日押伍・斥候兼、
宅也事二月廿二日於向坂戦死、

種子島
柳[　　]　十九
右同
岩川勇八郎　三十八
右同
西□　厚　二十八
右同
羽□榮一　二十□
右同
柳田今左衛門　二十二

第四分隊二

押伍

萩原小路
川上尚一　二十六
高麗町
宮之原強之丞　二十
種子島
畔地鎌一　二十三
右同
河東時信　二十
旧曾木

川□

右同　　隊長中

福崎雄吉　二十四　　愼松兼重

□

右同　　熊田

井手籠荘壽　四十一　　本営

右同

折□盛藏　二十□

右同

園田喜助　二十三

右同

城戸四郎左衛門　十七

八月一日　晴天

本夜暗号

問　豹（ヒョウ）乎、　答　虎（トラ）、

右之通決議候事、

矢ケ内出張

奇兵本営

八月一日

各隊

七月三十日　　矢ケ内

本営御中

本人其隊ヱ編入決議候事、

矢ケ内

八月一日　　本営回

第三大隊

三番中隊

隊長中

右小隊兵士

柳田今左衛門

左小隊兵士

園田吉左衛門

右両名七月廿九日シボリ兵ニテ矢ケ内本営ヱ差出置候処、今日帰隊相成候事、

一牛肉
右矢ケ内本営ヨリ今日相渡候ナリ、
八月二日　晴天
本夜暗号
問　岩カ（イワ）、　答　熊（クマ）、
右之通決議候事、
矢ケ内
八月二日　本営囲
第三大隊
三番中隊
外略ス
一長井喜之進・池田幸吉帰宿候事、
諸隊ヨリ之報知役只今三河内（北浦町）方面エ斥候トシテ差出候ニ付、跡代リ報知役大至急壱名ヅヽ御差出置可被成候也、
矢ケ内出張
奇兵
八月二日　本営囲
第三大隊
三番中隊
外略ス
押伍　石塚祐一
兵士　永井傳之進
右両名手負ニテ延岡病院エ入院候処、快気ニて今日帰隊相成候、
一焼酎壱斗
右矢ケ内本営ヨリ隊中エ相渡、則番兵先エ送配当候事、
八月三日　晴
本日番兵交代トシテ岩川勇八郎午前七時比差越、岩切助右衛門帰宿、長井喜之進・池田幸吉右同、則交代トシテ差越、午前八時比久留十郎帰宿候、岩切正九郎午後一時比帰宿、不快ニテ松葉病院エ差越候事、
本夜暗号
問　孔明（コウメイ）カ、　答　琴（コト）、
右之決議候事、
但周尾ヨリ返却之事、
矢ケ内出張
奇兵
八月三日　本営
各隊

隊長中

奇兵大三ノ三戦死　　兵士　　税田禮八

右延岡光勝寺へ葬埋ス、

延岡　　病院団

八月一日

奇兵大三ノ三

隊長御中

一岩切助右衛門・渡邊淺治事、病気ニテ平病宿陣エ入、

八月四日　晴

手負　　薄手　　荒木大四郎

右矢ケ内守兵場ニテ手負、

本夜暗号

問　張乎（チャウ）、

答　飛（ヒ）、

右之通決議候事、

矢ケ内出張

八月四日　　本営

各隊隊長中

一岩切正九郎事、病気有之給養宿養生方トシテ在宿候事、

一主取夫今村太郎儀、諸買物トシテ延岡まて午前七時比差出候事、

一三河口昨三日敵方相掛、味方ノ台場ノリトラレ、三日（ママ）朝暁味方ヨリ右台場エ午後（ママ）一時比夜打掛、スミヤカニ台場ノリトリ、スナイトル・弾薬等数多分捕、生捕三名有之内壱名巡査・二名雇夫卒ニて矢ケ内奇兵本営エ伺書許相記候上、熊田本営エ差送リ相成、今日之戦争大勝利之由報知有之候、左候テ味方ヨリヲイ打イタシ居候処敵ノ方応ゑん数多繰出、夫ヨリ右之台場迄味方引揚候事、

一ミニヘル損シ鉛玉弐百拾ヲ

一鉄玉七ツ八ツ

一針打弾薬から拾ヲ

右矢ケ内本営エ差出、延岡奇兵製作所エ至急差送リ相成候様問合相済差出置候事、

八月五日　雨

本夜暗号

問　桜カ（サクラ）、　答　駒（コマ）、

右之通決議候事、

矢ケ内出張
奇兵　本営囲

八月五日

第一大隊　壱番中隊
第三大隊　三番中隊
第四大隊　三番中隊
　　四番中隊
救應　三番小隊
　　四番小隊
　　隊長中

周尾ヨリ返却アルベシ、

八月六日　雨

本日午前七時比ヨリ、我隊守兵場右小隊壱番・弐番・三番分隊之間エ敵ヨリ相掛、則戦争及候処シハラク相戦、台場之間五六間モ敵ヨリ寄来候処、味方ヨリ切込ニ相掛敵ヲ打ちらし、其内第一大隊一番中隊ヨリ応ゑんトシテ来リ仕合ニテ、トモニ切込ミ賊死骸弐拾名余内三名(士)師官等相見得、一ノ一中隊長と師官切合敵師官ヲ切コロシ、一ノ中隊長手負ニテ我隊分捕数多有之、左ノ通ニテ候間午前十一時過敵打ちらし、我隊右之守兵台場エ引揚大勝利ニテ喜敷事ニテ仕合御座候也、

本夜暗号
問　辨(ベン)カ、　答　慶(ケイ)、

右之通決議候事、

矢ケ内出張
奇兵　本営

八月六日

第三大隊
三番中隊
各隊隊長中

記

一賊死骸弐拾名余
一手旗三本
一七連玉千発余
一針打弾薬千発
一時計弐ツ

一刀四本
一針打銃四挺
一長七連銃拾挺
一腰具拾ヲ
一短銃壱挺
　但中折弾薬相添
一金五拾円
　但隊附夫卒分捕ひん
一外套二着三着
一喇叭壱ツ
一手帳并書状無数
一烟草入四ツ五ツ
　但金具金銀

右本日矢ケ内守兵場戦争ニて分捕、右之通候ニ付則当所本営エ戦死手負一所ニ届申出置候事、

手負戦死左之通

分隊長
深手　大浦重樹
軍曹
薄手　吉瀬荘一
右同
深手　日高敬介
伍長
薄手　肥後重慎
右同
深手　初野猶一
兵士
薄手　圖師源左衛門
右同
右同　柳田今之丞
薄手　橋元憲藏
隊付夫卒
深手　丸田袈裟次郎

右九名手負

軍曹今泉士族
戦死　大平熊太郎
銅壱銭トル壱枚掏金
兵士櫻島士族
戦死　上山平藏
金二円五十銭ト古壱分銀壱切レト亦金トル十枚、守兵場ニテ手負歟、

右本日矢ケ内本営エ届申出置候事、

八月六日

一針打弾薬弐百四拾発

右延岡奇兵製作所ヨリ送リ来リ、午後七時拾五分前相届キ、正ニ相受取候事、

一主取夫太郎儀、本日午後五時比延岡ヨリ買物トシテ帰宿候事、

一岩切助右衛門事、戦死才領トシテ熊田迄差越候事、

第三大隊三番中隊

左分隊長代理

小濱喜之助

右之通致決議候事、

明治十年八月六日

奇兵

本営

第三大隊三番中隊

右小隊軍曹代理

佐々木政二

右同

岩下　求

右同

朝日東二

第三大隊三番中隊

左小隊軍曹代理

川俣治兵衛

右之通決議候事、

明治十年八月六日　雨

奇兵本営

八月七日

一針打弾薬カラ四千五拾発

一七連右同千弐百六拾発

一損シ鉛玉七拾

右三行延岡製作所エ差送リ候事、

本夜暗号

問　船(フネ)カ、　答　嵐(アラシ)、

右之通決議候事、

矢ケ内出張

奇兵本営

八月七日

各隊隊長中

一山刀壱本

右矢ケ内出張本営ヨリ伊地知相受取候也、

手負　栗山良七
右同　黒江吉之丞
手負人員　伊東彦右衛門
右同　橋元英助
右同　木場源左衛門
右同　大山十介
右同　岩下傳之丞

右七名帰隊相成候事、

軍曹　大平熊太郎
兵士　上山平藏

右両名一昨矢ケ内台場ニて戦死いたし、本日午前十時過くま田迄才領として岩切助右衛門差越、夕五時過熊田ノ内吉祥寺ェ葬埋ス、今日午後八時比帰陣いたし候、遺髪等熊田奇兵大小荷駄田村甚藏ェ相渡置候、

八月八日　雨天
問　ヂャンカ、
答　三ト、
右之通本夜暗号決議候事、

八月八日　矢ケ内　本営

各隊　隊長中

本日風雨とも甚敷、おのつから守兵厳重之筈候得共、猶一層念入守兵有之候様御注意有之度候也、
但各隊ヨリ三官之内壱名、大至急御出会可給候也、

八月八日　矢ケ内　本営印

各隊　隊長

八月九日　雨
暗号
問　一カ（イチ）、　答　五（ゴ）、
右之通決議候事、

八月九日　矢ケ内　奇兵　本営印

各隊

左小隊
兵士　富山喜左衛門

右足痛ニ付病院ェ差遣候処、弐日給養方ニて養生いたし候様い院より之裏書なり、

一岩切正九郎事、出物病ニて熊田出張病院ェ差越相成候事、

八月十日　雨

本夜暗号
問　奇乎、
答　兵ト、

右決議候事、

矢ケ内出張
奇兵
本営印

八月十日

各隊
隊長中

一金五拾九円

右之金新納伊兵衛預り金ニテ候、病気ニ付伊地知正介於延岡テ相受取、村原貞利ェ矢ケ内宿陣ニテ相渡ス、部下松崎覺二・長井喜之進・久留十郎立合之上伊地知正介ヨリ正ニ相渡候也、

第三大隊三番中隊
左小隊長代理
長井喜之進

右之通致決議候事、

明治十年八月十日

奇兵
本営印

八月十日

第三大隊三番中隊
左小隊半隊長代理
木佐木直左衛門

右之通致決議候事、

奇兵
本営

明治十年八月十日

第三大隊三番中隊
右小隊軍曹代理
兒玉鐵兵衛

右之通致決議候事、

奇兵
本営印

明治十年八月十日

八月十一日　半晴

一雷管五百粒

右矢ケ内出張奇兵本営ヨリ正ニ受取候事、

回章

本夜暗号

問　権(ゴン)乎、　答　三(サン)、

右之通決議候事、

八月十一日　矢ケ内出張　本営印

第三ノ三番中隊

其外略ス

喩章

各隊台場築等、尓来鍬并山鍬等該台場ェ留置候ケ所も有之由、就テハ非常急遽ノ辰ニ至リ不都合不尠、且邨落之者農務ニモ差支候条体任シ、平素ハ悉皆返下シ必用ノ都度取出シ、現業施行候様有之度、此旨諭告候事、

明治十年八月十日　矢ケ内出張　本営印

各隊々長中

同給養中

伊地知正助

右諸用向ニ付今日延岡之様差越候、

渡邊淺治

右朝飯後右小隊番兵先詰岩川勇八郎ェ交代として出張いたし候、

一金弐拾六円

右壱行昨日松崎覺二・久留十郎・長井喜之進立合ノ上金五拾九円村原貞利へ相渡候金之内、本行通本夕久留十郎・池田幸吉・小濱喜之助見分立合之上、村原貞利ヨリ岩河勇八郎ェ正ニ相渡候也、

給養方并隊付之外夫雇夫事、何名ノ訳御取しらへ、大至急給養軍曹之内壱名御出頭可給候也、

八月十一日　矢ケ内出張　本営印

第三ノ三番中隊

其外略ス

回章

奇兵病院出張所松場(蓆)ェ相設候条、向後病人診察ハ医員相掛リ候様可有之、自由ニ松瀬医員ェ診察ヲ受候者モ有之哉之趣、向後右様之義無之様可有之候也、

矢ケ内出張
奇兵　本営囤
八月十一日
各隊給養中
回章
延岡表ヨリ遅之次第有之候条、各隊給養并定例隊ニ付夫卒人員明朝迄御書出可給候、尚明日ハ松葉出張奇兵医員各隊給養所并旅人宿陣之廻診相成候条併て及御報候也、
矢ケ内出張
奇兵　本営囤
八月十一日
第三ノ三番中隊
外隊略ス
旧十弐番
兵士
西木場直次郎
櫨山十介
右両名今般帰隊ニ付着之上可然御取計給度候也、
熊田在陣

奇兵　本営囤
八月十一日
矢ケ内
奇兵
本営御中
奇兵旧十弐番
中隊兵士
朝日純治
篠原才藏
圖師源左衛門
右ノ面々帰隊ニ付本日当所差立候間、着ノ上ハ可然御取計可給候也、
熊田在陣
奇兵　本営囤
八月十一日
矢ケ内出張
奇兵
本営御中
一針打銃弾薬四百発
右本日奇兵製造課宅万伴助ヨリ伊地知正介当事ニて手

紙相添、熊田之方ヨリ差送リニ相成、正ニ相請候也、

八月十二日

本夜暗号

問　梅乎（ウメ）、

答　鶯（ウクイス）、

右之通決議候也、

八月十二日　矢ケ内本営

奇兵第三ノ三

給養付夫卒　拾参名

隊付夫卒　拾弐名

雇夫　三拾弐名

合五拾七名

右人員召仕不申候てハ戦場ハ勿論日用弁シ兼、別て当時番兵守備手広く兵飯運送方等も左右両手ニ相送リ申候事ニて、番兵小屋取繕方旁取込之折ハ本営ヨリ用心夫かり入用弁仕儀ニて御座候得ハ、本行人員丈ハ是非無之候てハ用弁難仕御座候也、

奇兵第三ノ三

給養軍曹　岩切助右衛門

給養伍長　岩河勇八郎

八月十二日　松葉出張

奇兵

大小荷駄御中

奇兵第三ノ三

給養軍曹　伊地知正助

右同　新納伊兵衛

右同　岩切助右衛門

給養伍長　村原貞利

右同

渡邊淺治

右同　岩河勇八郎

給養付夫卒　拾参名

隊付夫卒　拾弐名

雇夫　三拾弐名

右之通御届候也、

奇兵第三ノ三

給養軍曹　岩切助右衛門

給養伍長　岩河勇八郎

八月十二日

松葉出張

奇兵

大小荷駄御中

旧奇兵拾二番中隊

兵士

戦死　是枝半次郎

右同

手負　羽生榮二

右日向国延岡領三河内木和田嶺ニをいて戦争之砌手負戦死仕候間、此段御届申候也、

丑八月十二日

応援隊

井上　恰

矢ケ内

本営御中

右本日仁禮氏ヨリ書付承知いたし候、為覚留置也、

八月十三日

奇兵旧拾弐番中隊

夫卒

前田金四郎

右山鹿ニおいて手負いたし入院ノ処、此程全快ニて帰隊ニ付、本日当所差立候間、着之上可然御取計可給候也、

熊田在陣

奇兵　本営

八月十二日　矢ケ内
奇兵
本営御中

問　晴乎、
答　天ト、

右之通本夜暗号相定候事、

矢ケ内
八月十三日　本営

八月十四日
本夜暗号
問　雨乎、
答　風ト、
右之通相定候事、

矢ケ内出張
八月十四日　奇兵
本営

記

糧米之儀、今明日方ヨリ麦ニて差繰候旨申来リ候間、持御心得此旨御通知置候也、

八月十四日

大小荷駄
一ノ一
三ノ三
四ノ三
四ノ四
救應三番
救應四番
給養御中

追て留リヨリ御返し可給候也、

旧振武十九番　岩田貞國
旧干城遊軍弐番隊　温水源助
右同　山本正太郎

右之三名当隊へ編入ニ相成候、

兵士

大山喜左衛門

右本人本日帰隊候事、

大至急本営ヨリ出頭いたし候様有之罷出候処、熊田之様静謐ニ矢ケ内峠守備引揚候様、大隊長ヨリ達相成、直様引揚之要用候事、

一針打玉薬百九拾発

一ミニヘール

（表紙）

第二大隊四番
中隊戦死手負
名　簿

（五冊ノ内第五号）

田布施士押伍

遠矢良寶

右二月廿二日熊本ノ城攻撃ニ戦死、

城下士押伍

鎌田九左衛門

植木眞教寺葬ル、

城下士

土橋彌助

川尻ニ送ル、

田布施士

寺師宗治

仝

南方士

折田三之助

植木眞教寺葬ル、

串木野士

山口一二

川尻ニ送ル、

右二月廿三日肥後国コノ（木葉）ハ村賊集攻撃ニ戦死、

城下士半隊長

村田良養

川尻番福寺葬ル、

右二月廿六日鍋田原賊集攻撃ニ戦死、

城下士押伍

佐野清四郎

山鹿光尊寺葬ル、

右三月三日永野原ニテ戦死、

城下士押伍　大山源兵衛

山鹿光尊寺葬ル、

右三月三日永野原ニテ戦死、

關山金志

右三月三日永野原賊集攻撃ニ戦死、然モ激戦中ニシテ死骸引上ル能ハス、

カモ士押伍（蒲生）　別府孝之進

川尻ニ送ル、

右三月三日永野原ニテ戦死、

城下士　二階堂舎人

山鹿光尊寺葬ル、

右三月三日鍋田原ニテ戦死、

重富士　東半藏

山鹿光尊寺葬ル、

曾木　石川與左衛門

山鹿長源寺ヘ葬ル、

仝　久保田宗之進

仝

仝加藤（加久藤カ）　竹下政輝

仝

右三月十五日於鍋田ニ戦死、

城下士　平田八郎

右三月二十四日於木留戦死、本隊ハ鳥ノ栖（西合志町）ニ在リテ弐名ツヽ応援ノ為右木留ニ差越タルナリ、

串木野　完野武二

二ノ宮次右衛門

串木野　星原歳藏

右三名三月三日永野原激戦中行衛不明、

城下士

伊地知贇彦

右四月五日鳥ノ栖ニテ戦死、

出水

篠原傳左衛門

右四月六日鳥ノ栖ニテ戦死、

出水

高野市之進

右四月五日鳥ノ栖激戦ニテ行衛不明、

田布施士

瀬戸口爲謐

右四月十二日鳥ノ栖ニテ戦死、

出水

内川用右衛門

右四月八日植木ニテ戦死、本隊ハ鳥ノ栖ニ在リ、応援ノ為右植木ニ差越タルナリ、

城下士

兒玉伊八郎

夫卒

瀬戸口孫太郎

右三月十五日鍋田原ニ於テ深手ヲ負ヒ後死ス、

大口

田代三七

右四月十六日大津ニ於テ深手ヲ負ヒ後死ス、

指宿士

坂元清志

城下士

久保彦太郎

夫卒

川邊郷農

山下市太郎

右三名五月廿四日豐後国岡ノ城下古城ニ於テ戦死、依テ骸骨ヲ豐音寺ニ送ル、

田代

迫田禎藏

右同所ニ於テ戦死、依テ豐音寺ニ埋ム、

城下士

中村十助

右五月廿七日岡ノ城下古城ニ於テ戦死、

串木野

重富　大井宗之助

宅間彦一

出水　本田厓八

夫卒　厓次郎

戦死

城下士　頴川吉次郎

右五月廿九日竹田引揚ノ節、激戦中ニ深手ヲ負、身骸揚ル能ハス、

南方　松下宗八

右五月廿八九日竹田引揚ノ節古城ニオイテ深手ヲ負ヒ、延岡病院ニ送リシニ彼ノ地ニテ死、

出水　坂田源次郎

右五月廿九日古城ニ於テ戦死、

長井厓之助

重富　椎原友二

右六月九日於臼杵戦死、

給養夫卒　城下中村　内村十太郎

同　草松清太郎

右六月十日津久見村ニ於テ軍艦ヨリ投スル砲丸ノ為メ戦死、

吉松　久留龍兵衛

小林　溝口孝之進

右六月廿四日豐後国赤松谷ニ於テ戦死、

城下士　玉置錄之助

右五月廿四日豐後国岡ノ城下古城ニ於テ深手ヲ負ヒ、延岡病院送ル途中ニテ死ス、依テ病院ヨリ光勝寺葬ル、

出水

郷　休太郎

大口

丸山覺之助

右弐名三月十五日鍋田原ニテ深手ヲ負ヒ、川尻病院ニ送ル、後養中ニ死ス、

月日不明

手負ノ部

井上吉藏

右二月廿二日熊本ノ城攻撃ニ手負、

安田次郎兵衛

尾上祐利

木下勝介

早水十郎左衛門

平地新助

遠藤武一

橋口吉次郎

伴　金次郎

夫卒　長太郎

右二月廿三日於コノハ（木葉）ニ手負、

畠山盛之助

西村鳳之助

右二月廿六日鍋田原ニテ手負、

綾部直影

土師荘之進

愛甲隆篤

前田藤靜

竹下平一

西　純禎

中村市助

右三月三日永野原於テ手負、

島兒鞍助

木尾十郎

蜂須賀祐治

橋口重勝

種子田廣助

右三月十二日鍋田原ニテ手負、

汾陽光元

延時市助

四本仲右衛門
伊瀬知平左衛門
今村德松
押川郷右衛門

右三月十五日鍋田原ニテ手負、
有馬市郎太
貴島元志
夫卒傳之丞

右三月廿四日植木応援ノ節手負、
遠武仲太郎

右三月廿五日植木ニテ手負、
田中盛藏
伊東嘉左衛門
高野市之進
椎原友二
關山彌八郎
夫卒市次郎
前田勇七

右四月五日於鳥ノ栖手負、
川畑重知

右四月十二日於植木手負、
横山善兵衛

右四月十二日於鳥ノ栖手負、
宇田箭七
横山善二

右四月十二日於鳥ノ栖手負、
平峯喜三佐衛門

右四月十六日於大津手負、
瀬戸口照次
橋口吉志
中原親田
夫卒藤太郎
正次郎

右四月十六日於大津手負、
市來　弘
田邊祐明
夫卒貞次郎

右四月廿日於大津手負、
澁江勇一郎

右四月廿日於大津手負、

赤崎宗一郎
橋口敬藏
蓑田助之進
前田篤眞

右四月廿日於大津手負、

長野唯衛
川野眞次郎
崎山十右衛門
永野平之進
伊地知吉之進

右五月廿四日豐後国岡ノ城下於古城手負、

黒木與次郎
野元四郎太

右五月廿五日於古城手負、

高木休左衛門

右五月廿六日於古城手負、

竹内宗兵衛

右五月廿七日於古城手負、

深野道司
川原時安

松永長政
竹下半助

右五月廿九日於古城手負、

稲元金藏
益山嘉一郎

右同月同日於古城手負、

園田猪左衛門

右六月九日於臼杵手負、

夫卒 有村袈裟助

右六月十日於臼杵手負、

貞光寛志

右六月十五日三國峠オヒテ手負、

瀬尾市助

右於同所手負、

鹿島源一
山口孫左衛門

右六月十六日三國峠オヒテ手負、

長井仲太郎

右六月十六日於同所手負、

種子田熊次郎

南　滿之助
原澤安政
崎山十右衛門
稻留常助
夫卒　柳橋孫太郎

薄手

右六月十七日千東村近辺ニ於テ手負、
東　吉次郎
永松六郎兵衛
折田助八
山崎金之助
四本利三次
山元東義
四本兼良
早田清一郎
平瀬通一
有馬甚五郎
中山藤吉
玉利嘉右衛門
夫卒　上原伊太郎

右六月廿四日於赤松谷（宇目町）手負、

土屋宗太郎
中村新太郎

右七月五日於田代手負、
柿川幸左衛門

右七月十四日水ケ谷（宇目町）台場詰ニテ手負、
但少々訳アリ、
成尾政太郎
崎山十右衛門

右七月廿三日於切畑（大分県弥生町）口手負、
小西藤吉

右七月廿七日於水ケ谷手負、

西南之役従軍記

宇宿　榮之丞

一明治十年丑二月五日（旧九年十二月廿三日）西郷隆盛・桐野利秋・篠原國幹上京之由承居、種子島城助方差越、大鐘時分罷帰候中途ニ西郷氏ヱ行逢候、此節随行致給候様申入候処、西郷氏被申ニハ、参リ呉候哉、左候ハヽ、椎原國幹（西郷叔父）参度との事故、彼ヱ付添呉候様承、相別候処、（二月七日）（池上四郎隊長）廿五日五番大隊大小荷駄ニて出府相改、椎原國幹・田原健蔵・中原萬二・我都合四名、外ニ附属緒方壮吉、夫卒頭弐名・夫卒弐拾名召列出府之賦ニて、旧殿内ヱ集合取調中旧明治九年十二月廿七日（二月九日）椎原氏ト及談合、此節ハ東京ヱ尋問之為上京之賦ニハ候得共、鑄（統）器之用意ニて候故、万一熊本鎮台不差通候てハ戦ニ及候故、不成一方大事故、洋舟弐艘計雇入、長崎ヨリ前之濱ヱ相廻、五番大隊之分前之濱ヨリ右舟ヱ乗込、東京ヱ直乗ニて横濱欤、無左候てハ品川其外弁（便）利好処ヨリ上陸、直ニ　御膝元ヱ参リ、朝廷を盗取、夫を五番大隊ニて押立、及尋問候ハヽ、万一戦争ニ及テモ諸鎮台并警察其他皆朝敵ニ相成候故、其趣西郷氏ヱ申入度椎原氏ト及談合候ニ付、椎原氏ニハ本営ヱ出西郷ヱ応話ハ迚モ不相出来故、其方出、我ト致談合候旨言円致候様被申付候、依て篠原國幹を評（呼）出し前件之趣申入、是非共前件之通西郷氏ヱ貴公ヨリ相伺、其通取計給候て可然ト申入候処、篠原言ふにハ、西郷氏ヱ相尋ニ不及、洋舟相雇候ハヽ、加勢を頼候姿ニ相当候趣返答故、左様ニ候宛肥後ヱ差入、人馬相雇候宛是以加勢之姿ニ相成候趣ニハ無之哉ト篠原へ申入候処、左様比興成事言ふへからす、（精）情兵を以熊本鎮台を突通リ、直ニ小倉ヱ出、夫ヨリ順々大坂ヱ出、夫ヨリ東京へ出ル筈故余計成事不言ニ、御方抔ニハ兵粮旁之取扱致給、軍事ハ我々共致候趣返答故、我々共ニハ不服ニ候得共、無致方椎原氏ヱ形行申入、兵粮旁之手当一篇ニ有之候、且亦邊見十郎太言ふニハ、寺田弘帰県相成居候付、大久保・川路（利良）ヨリ之奸者之由ニて被打殺候様との趣承候付、我其外致面会居候付、（一番砲隊長）（郎脱カ）（一―三番小隊長）岩元平八・淺江直之進ヱ面会、寺田ニハ決て奸者ニてハ無之候付、御方抔ヨリも奸者ニてハ無之旨邊見ヱ被申入候様両人ヱ申込、我、寺田ニハ隣家ニて奸者ニてハ決て無之旨申入、岩元・淺江ヨリも寺田ニハ従弟之続

故、奸者ニ候ハヽ、拙者共ヨリ先ニ打殺考ニ候得共、奸者ニてハ無之旨、我・岩元・淺江三人打揃申入候処、貴所抔三人之保正(証)ニ候ハヽ、助置候て可然ト被申候故、(斬)様々無難ニ相済候、亦高尾丸ヨリ川村與次郎(與十郎、純義)前之濱エ参り、有川(町人、貿易商)矢九郎を以西郷氏エ面会致候様との趣ニ候処、桐野・篠原其外之人数面会差留、永山(三番大隊長)弥一郎(弥)兄弟参り、川村を打殺候様との趣ニて、前之濱エ一小隊差越、高尾丸エ乗組之賦ニ候処乗付不相出来、高尾丸ニハ惣(早)々出帆相成候、夫ニ付有川矢九郎事川村エ内通致候付、是以邊見十郎太打殺可然ト被言候故、我西郷氏エ申入、とふ欤取計様ハ無之哉之旨申入候処、西郷氏ヨリ邊見エ被打殺迄ニハ不及候故、大山県令エ申込、慎相成候様被達候て可然との趣申入有之候故、邊見ヨリ大山県令エ形行申入、慎ニ相成候様被達候て可然との趣申入相成、大山県令ヨリ有川矢九郎へ御用ニ候処、大山七彦名代を以慎之旨承知致、書付矢九郎へ七彦持参相渡ス、

一明治十年(九年日上二月廿六日)二月八日県庁ヨリ御用ニ出頭候処、大山綱良ヨリ弐等警部被仰付、大山氏エ于今相成遅くハ無之哉之旨申入候処、御方ニモ出張被成哉之旨被申、大山氏エ貴公様ニハ御出無之哉ト申入候処、我ニハ跡ヨリ平(民)人ニてモ召列可差越旨返答ニて、其書付返シ候様との趣故、旧例之折ハ御役引替有之物故、引替不被下候てハ差返しかたく申入候処、暫相待居候との趣ニて相待居候処、のし付有之候分引替給、夫を頂戴致持帰り、相改候処、其内ニハ金三百円入渡候也、夫を頂戴致候、

一旧十二月廿八日(新十年二月十日)県庁ヨリ壱大隊用金三万五千円相請取候、

一明治十年(旧十年正月四日)丑二月十六日鹿兒島出立、昨日迄大雪ニて宿割ニて夫卒山下惣太郎召列市来湯之元(新十六日)泊、高尾野(新十七日)泊、出水麓(新十八日)泊、出水ヨリ佐敷(十九日)迄宿割ニて、佐敷(廿日)ヨリ松橋(但舟ニテ)迄出、夜ヨリ戦争相始、川尻(廿一日)エ一宿、翌日(廿二日)熊本城下春竹村エ一宿、田原健藏同列夫卒召列植木村エ両日滞在、米分捕、夫ヨリ山鹿之様差越、但三大隊ニて壱万表、夫レを壱大隊ニて三千表之配分、米モ山鹿エ送越、山鹿エハ五ノ二隊長村田三助(介)(是ハ山鹿鎗田原ニテ戦死、其所エ埋葬致ス)・五ノ四隊長神宮司助左衛門・五ノ七隊長平野正助(介)三小隊参り居、拾日間計致椎原國幹参り、田原健藏エ交代、田原ニハ(行)熊本之様差越、山鹿エハ壱ケ月半計滞陣、此所ニて行(秦弟)輔手負、五ノ夫卒召付川尻之様送越、夫ヨリ暫之間滞

陣之処、山鹿ハ惣引揚ニて椎原氏同列夫卒召列割府(郷)海(街)道ヨリ熊本へ引揚、米ハ惣て山鹿ヱ残置、熊本ヱ暫滞陣致居候処、行輔手負ニて川尻ヱ罷居候故、椎原氏同道ニて差越行輔力ヱ見廻仕、金共遣シ、染川岳一・仝善八・有馬新八手負故、玉子百貫入持参見廻、椎原氏ニハ西郷菊次郎(西郷熊子)所へ見廻、夫ヨリ緒方壮吉ヱ相頼、賄方初て頼置熊本之様帰リ、翌日ヨリ椎原氏同列ニて夫卒召列、植木之内御馬下ヱ出張、亦々尾見鳥ヱ移陣、両日致熊本ヨリ可帰甲来、直ニ差越候処、大本営桐野・池之上・村田ヨリ人吉ヱ差越候様承、人吉ヱハ誰欤老人遣候てハ如何ト申入候処、余人ニてハ不相成旨西郷氏ヨリ被甲、殊ニ米取扱并弾薬送る都合故、我々参リ候様承、明日皆々可参事故、直ニ夜通し尾見鳥ヱ差越、椎原氏并伊東四郎(出水士、祐徳)左衛門ヱ諸事次渡、椎原氏ヱ伊東四郎左衛門ニハ不見切人物故金銭其外入念給候様相頼候処、椎原氏殊之外腹立、伊東ニハ御方ヨリ慥成人物之様被言候、其形行ニて金銭次渡、諸請取モ仝断、未明尾見鳥を立、熊本之様帰リ、田原健藏・柴善次郎外両名同列、用金二百円五番大隊小荷駄ヨリ受取、昼時分御船ヱ差越、甲佐海道ヱ向差越候処、最早彼地ハ敵地ニ相成候故通行不相成旨番兵より承、夫ヨリ木山海道之様道を替留帰り、木山(益城町)ヨリ夜ニ入夜明方肥後之内矢部ヱ着、直ニ朝飯給、直ニ矢部出立、尾前(椎葉村)越之賦ニ候処、未雪消ス通行不相調故、馬見原(蘇陽町)通行本屋敷(五ケ瀬町)ヱ一宿、翌日胡麻山(椎葉村)を越、夜明時分江代(球磨郡水上村、現在ダムに水没)ヱ着、直ニ朝飯給、夫ヨリ人吉之内須恵村(須恵村)ヱ着、宿屋團右衛門(夫卒嘉助召列)所ヱ宿陣、夫ヨリ米三斗入毎日三百俵ツヽ舂方致、須恵村ヨリ弐百俵江代ヱ送越、其外ヱモ送方致候、依て米舂方場所壱ケ所ニてハ不相調故、人吉之内植村(上村)ト言弐ケ所ニて舂方致、玄米三斗入壱俵壱円、舂方弐拾銭ニて、凡六拾日間計諸方ヱ送越候、旧三月廿六日(五月九日)西郷氏須恵村通行、我宿陣ヱ相休昼飯共給、人吉之様舟七艘ニて被差越候、西郷氏ヨリ其折、米取扱ハ御方見込ニまかせ候間都合宜様計呉候様との趣ニ候、夫ヨリ五日間計相過、中村勇吉参り、米都合ハ如何ニ候哉之旨承、凡弐万人之兵粮ニ候間手当向如何ニ候哉之旨桐野家ヨリ被申遣候趣故参り候由申候処、桐野家ニハ軍事之取扱被致候故、兵粮何拾万人ニてモ秋口迄ハ我承御心配無之様都合可致旨返答致、中村ニハ直ニ江代之様被帰候、夫ヨリ毎日白米弐百表宛江代ヱ送リ、亦十日間計相過亦々中村

拾弐万俵位ハ有之由承置候、但人吉之米ハ

参り、我エ交代致との趣桐野家ヨリ承候ニ付、参候様との事故参り候旨承、我ニハ直ニ交代、騎(奇)兵エ帰隊之賦ニて、其夜ハ中村ニハ我宿陣へ止宿故、是迄之米代金ハ一銭モ不相払旨申入、中村ニモ込入候様子之趣咄共致、翌日ニ相成候処、西郷氏ヨリ直筆之問合参リ、其趣ハ御自分事桐野方ヨリ騎兵エ帰隊致候様申遣由候、然共御自分ニハ其許ニおひて米取扱不致候てハ不都合之件々有之、其許御引揚之上騎兵エ帰隊被成度此旨桐野方へ被申遣度御掛合申進候也、我宛人吉大本営ト有之候処、前件之通相違候故、桐野エ別紙之通申参リ候処如何致候て可然哉奉伺候也ト、西郷氏ヨリ参リ候書面相添桐野方エ遣候処、西郷氏ヨリ我ニ被遣候書面之裏書ニ、桐野自筆ニて、此表之通大先生方ヨリ申参リ候ニ付てハ致方無之候間、其許御引揚之上ハ騎兵エ帰隊被成度、此旨及御報候也、

我宛桐野本営ト相記返答有之候、中村ニハ直ニ騎兵エ引帰(返)し、我ニハ須惠村エ滞陣、旧四月拾五日(五月廿七日)比植(上村)村エ米差引ニ差越、夕七ツ時分植村ヨリ罷帰、途中ニて西郷氏兵隊拾名計同道犬引行逢、何方へ可被参哉ト相尋候処、狩ニ差越候返答ニて、過分被参取候様申入相別、拾間計行過候処西郷氏振帰リ、拙者ニハ人吉ハ不迦考ニ候処、皆共相進是非宮崎之様差越候様との趣ニて爰許通行、本夜ハ湯之前エ一宿、明日皆越(上村)を越宮崎之様差越賦之由承、我西郷氏エ最早敵ハ岩野(永上村)へ参リ居候故、湯之前同様ニ半道計有之候付、本夜是非共皆越を越宮崎之様被差越度我宿鹿籠手当致差遣へく旨申置、直ニ走帰り用掛とのへ鹿籠壱丁・夫拾六人、通シ鹿籠之手当壱人ニ賃銭トシテ金拾円ツヽ可相払旨、用掛とのエ金百六拾円相渡シ、めし并汁・焼酎等致手当、用掛殿湯之前迄差遣し、用掛被帰都合宜との趣返答承届候、旧大かね時分比小倉壮九郎早籠ニテ須惠村エ被参、鹿籠壱丁・夫拾六人、壱丁八人手当致呉候様承、何方エ被差越候哉之旨小倉エ申入候処、岩野エ差越候旨被答候処、用掛とのへ夫八人手当致給候様申入候処、小倉立腹之様子ニテ、夫拾六人之事被申候故、其位之事ニテ軍ハ不相出来、西郷氏ニハ拾六人鹿籠ニて最早今比ハ皆越峠辺ニ被行時分、御方ニハ只今より被参候ハヽ、須木(須木村)・穂北(西都市)・爰許三方境之辺ニて追付被成時分之由返答致候処、小倉打喜焼酎并めし共給、直ニ跡を追被差越候、夫より五日計(六月一日)相過人吉方面打破られ、植木之様差

越一宿、翌日人吉よりお小場(大畑、人吉市)を越鹿兒島吉田(えびの市)止宿、三日計相過候処、村田新八より加治木迄急行致候様承、其趣ハ弾薬製造所引直之件ニて直ニ吉田出立夜通し、翌昼時分横川本営エ立寄、桂氏(久武)・椎原氏エ面会、椎原氏先日尾見鳥ニて伊東四郎左衛門一条椎原氏頭と御方エ面之向様無之との趣故、貴公(椎原)儀あまり人をしんし候早、人ハ疑を起候方可宜との趣椎原氏エ申入、椎原氏よりそは切共馳走ニ逢候、椎原氏・桂氏エ弾薬製造所横川金山欤蒲生エ引直し之形行談合致、夜入前横川出立夜四ツ時分加治木エ着、製造掛本田籠氏エ製造所引直方申入候処、弾薬製造見掛舟より三度程砲打込候由ニて、最早横川金山エ引直候手当相成候由承、加治木エ一宿、翌日直ニ加治木出立横川エ立寄形行申入置、吉田之様村田エ形行申入、亦吉松エ差越、宮原壮一トみそ四石五斗舂方致酒屋エ預置、夫より吉田エ引帰し居候処、此所エ両三日滞在致居候処、松岡直左衛門参リ、桐野家より騎兵エ帰隊致候様との趣ニて参リ候由ニて、態々参リ候旨承、村田新八エモ桐野より申遣候故、帰隊致呉候様との事故、村田より是非帰隊候様被申候処、松岡同道吉田出立、加久藤(えびの市)ニて田中傳兵衛エ取合、田中氏ニモ宮崎エ差越候付、同道小林へ壱宿、全所戸長エ七連銃壱丁預置、預書取置、翌日小林出立野尻エ立寄、紙屋(野尻町)口通行、赤谷(高岡町)より川舟ニて高岡町寄舟、田中、高岡・宮崎辺之部戸故、清水八郎左衛門より酒并取肴等舟ニ乗付、高岡より宮崎中村町迄酒共呑尽し、夜入過宮崎町へ着、田中氏宿手当致被呉、薩摩屋ト云ふ所へ止宿、田中氏より酒并鰹(剌)差身送給候、翌日騎兵大本営桐野宿陣エ松岡同道ニテ着之由申出候処、桐野言ふニハ、騎兵出先ノ隊豊後臼杵(臼杵)辺ニて金過分致分捕候付、小荷駄エ相請取候様被達候付、金ハ隊より小荷駄エ請取候儀ハ、我ニてハ不相出来、小荷駄より隊エ相渡事ハ相出来候得共、小荷駄エ請取候儀ハ我ニてハ不相出来候付、余人エ被申付候様申入候処、桐野殊之外腹立ニて桐野ト言争、然共我ニモ尋人有之候故、私方宜無之候ハ、御断可申上との趣申入、桐野方ニて昼飯共給、旧大鐘時分桐野陣営引取、帰掛松岡トハ相別直ニ大本営エ出掛候処、門警衛不差通候故、此所ハ小倉宗(壮)九郎隊名故、小倉エ面会致度申入候処、小倉ニハ留守之由番兵申候間、岡部勘兵衛エ門差通候様向候処、誰欤ト答候故、宇宿榮之丞ト相答候処、西郷氏宇宿

ニテハ門差通候様との趣ニて、岡部手引ニて門差通し、西郷氏居間ェ参リ、人吉之一件之礼共有之、我ニハ伺度事件ニて参上、其趣ハ桐野氏より騎(奇)兵ェ帰隊致候様松岡直左衛門を以申遣、其上村田氏よりも帰隊致候様被達候故、無是非帰隊致候て、本日桐野ェ届出、桐野言ふニハ、騎兵出先豊後万面ニおひて金分捕致候由ニ付、小荷駄ェ相請取候様被達候付、其儀ハ我ニてハ不相出来候旨桐野ェ返答致候処、桐野殊之外立腹之様子ニ候得共、小荷駄より兵隊ェ相渡候儀ハ相成候得共、隊より小荷駄ェ請取候儀ハ迚も我式ニテハ不相出来、出先之儀ハ鉄砲玉ニ命を掛候処、分捕金ハ出先働故出先ニまかせ可然ト申入、相成事なら金を以鉄砲玉を作候て戦候ハヽ至極宜事ト返答致置候間、如何ニ候哉之事、我ニハ相尋人有之候付、我か申様宜無之候ハヽ、御断可申上旨相答置候故、如何致候て宜候哉之旨西郷氏ェ相尋、未返答無之内桐野参リ、御万ニハ此所御存候哉之旨被尋候付、此位之処不存候ハヽ、軍ハ不相出来旨返答致候、桐野氏ニハ宜ト有之候付、持越者有之候間、持参致候との由、西郷氏桐野ェ、貴公ニハ宇宿ェ前日ハ何とか被達候由ニ候得共、夫ハ宇宿言ふ通リ欤宜、西郷氏ニモ宇宿方至極同意ニて、出先ェハ極々勢ひを不付候てハ不相済候付、宇宿申通御取計被成候方宜との趣被申、桐野言ふニハ、先刻之条最早先生ェ御咄有之候哉ト被言候ニ付、先刻申上候通相尋人有之候付相尋、我申事宜無之候ハヽ、御断可申上旨申上置、殊ニ貴君ニハ騎兵之大本営出先より百里計相離れ差図相出来事欤ト迄申入置候、西郷氏ニてぶた汁共給、夫より暇乞して桐野氏ェハ明日御届申上候上、騎兵ェ帰隊之旨申置、西郷氏ェハ明日ハ騎兵之様帰隊之届申出旅宿ェ帰リ、翌ハ松岡同道ニて桐野氏ェ帰隊之趣申入、直ニ佐土原(佐土原町)廣瀬ェ差越、加世田工罷居饅飯共給、其日ハ廣瀬ェ宿陣、翌日未明廣瀬出立、延岡之様差越賦ニて富高新町(日向市)迄差越、此所ェ市來藤右衛門罷居、酒并鰹差(刺)身共給、其日ハ此所宿陣、翌日未明出立、延岡之様差越候処、延岡町ェ騎兵之小荷駄三ケ所ェ有之、是ニてハ吟味事不同ニ候間、是テハ不相済候故、三ケ所共一所ニ可相成旨及吟味、其通リ相成、其三ケ所ニハ法元雄藏・帖佐彦八・松崎休兵衛・松岡直左衛門銘々宿陣、法元宿陣町之何の壽仙ト云ふ所へ一緒ニ相成候、其夜松崎より鰹差身・酒共馳走相成過分ニ給候処、夜中時

分より腹痛致翌迄不相止故、國生何かし医師へ相頼差
薬致候処相止、翌日ハ熊田(北川町)之様差越、騎兵出先エ差越
賦ニて松岡ト前件之処迄差越候処、風邪相付、松岡壱
人出先之様差越、我ニハ熊田ニて薬用致候、五日計此
所エ滞陣、島津桂(啓)次郎殿供人四人召列被参候処、小荷
駄ハ伊地知甚藏罷居、両日跡より松崎休兵衛参リ亦両
日滞陣致居候処、延岡本営池之上四郎より松崎と我エ
延岡本営之様可参申建、直ニ同道延岡エ差越本営エ届
出候処、池之上より松崎ニハ大阪エ参リ呉候様相達シ、
美々津(日向市)より乗舟致給度、我ニハ鹿兒島ニ帰リ坊之津エ
参リ、夫より大島エ渡、砂糖積登せ、其舟延岡エ遣シ
給度被達、請合致直ニ鹿兒島之様差越賦ニて美々津エ
差越候処、松崎未罷居、其夜ハ美々津エ宿陣、翌日美
々津出立、高鍋・佐土原通行宮崎エ差越、桐野エ形行
届出、西郷氏エ届出候処、西郷氏より桂氏・椎原氏へ
書面并伝言被申遣候故、彼所出立、山之口越より都城
エ差越、此所エ本営并小荷駄無之、上庄(都城市)内エ有之彼所
エ直ニ差越、桂氏エ書面并伝言申置、椎原氏ニモ被居
種々西郷氏より之伝言申入、私ニハ鹿兒島エ参リ候様
との趣ニて差越候様之趣承、爰許迄参リ候趣、桂氏・
椎原氏エ致談合候処、右両人より御方面ニてハ迚モ鹿
兒島エ行候儀ハ不相調、最早鹿兒島ハ敵地ニ相成、我
隊ハ敷根(国分市)上之段エ引揚ニ相成居候故、其趣ニて宮崎之
様被引返候方可然との事ニて、翌日直ニ都城エ引返候、
町エ止宿候処、中山甚(盛高)五兵衛・中原萬二参リ、中山ニ
ハ隈之城方面本営ニて爰許迄逃参リ候事故、中原より
種々言争、此所エ三人止宿、此所ニおひて茶共買入、
中原より西郷氏エ茶送リ、我ニ届方依頼、翌日ハ両人ニ
相別、我ニハ山之口之様参リ、爰許エ両日滞在、山之
口より宮崎エ差越候処、岳抜村ニて益満吉次郎エ行逢、
林宗九郎戦死致候旨承、我ニハ急之事故宮崎エ相待居
候旨申入置、直ニ宮崎之様差越、宮崎エ林宗九郎埋葬
致候、益満吉次郎・松永・我・夫卒、夫より翌日西郷
氏エ中原より預候茶遣シ、桂氏書面并形行申入、桐野
エモ形行申入候処、桐野氏より我エ爰許ニて米差引致
呉候様との趣ニて、延岡小荷駄帖佐彦八よりモ米買入
仕送候様之件々申参リ、佐土原之内廣瀬エ罷居、米買
入致、佐土原近辺ニて米四斗入千八百表買入、佐土原
川尻より舟三拾艘相雇、壱艘ニ六拾表ツヽ積入、夫卒
共エ誰欤水先致候様申付候得共、誰モ不請合故、桐野

エ形行届出、合印小籏桐野より貰、壱艘ニ銘々小籏為持、我水先ニて佐土原川尻出帆、翌晩美々津川尻エ蒸気船壱艘軍艦参リ居、陸地ト戦居候処、様(漸)々夜ニまき れ通抜、亦翌晩夜延岡川尻エ着舟、延岡小荷駄帖佐彦八エ三拾艘之米次渡、其節談合致置候趣ハ、高鍋エ壱人、美々津エ壱人、富高(日向市)新町エ壱人、夫卒并相役壱人宛罷居、美々津ニて白米ニ致、騎(奇)兵エ仕送賦ニ取究、我ニハ仝夜酉鳴時分出立、早鹿籠ニて延岡川尻を立、翌日佐土原廣瀬エ着、夫より直ニ宮崎之様桐野方エ届出、直ニ廣瀬エ引帰し候処、加世田工方ニて酒共給、めしモ此所ニて給、夫より我宿陣エ帰リ止宿、翌日桐野可参旨申越、宮崎之様差越届出候処、米仕送之義承、米仕送前件通リ様々致置候旨申出候処、桐野申ニハ、万一之事有之節ハ我此蔵エ米弐百表有之候付、百疋之馬手当致呉候様承、其米ハ御互ニ見届置度申入候処、見届ニ不及、私ニハ不承知ニ候旨申入候処、桐野殊之外立腹ニて、此米ハ藁(県宮宮崎支庁長)ケ谷より請取候米ニて、相違無不及改との趣故、是非〳〵相改度申入候処、桐野立腹ニ付、此蔵ハ旧藩比より弐千表毎年入替相成倉故、右之通改候様申入候得共、桐野不服故無致方、夫より廣瀬并宮崎を掛、米差引共致候、然処宮崎ニおひて義岡善之丞隊より迦、諸所迯候様との趣風聞承、打殺候様之趣隊より相尋求候様皆々申事故甚込入、折柄義岡廣瀬・宮崎エ相見得候故、依テ加世田工・牧競エ申談、佐土原廣瀬并宮崎両弾薬製造所エ申込、綾鉛山欽、高鍋鉛山欽両所へ鉛壱件ニ差遣給候様右両名より頼込候処、製作所より鉛山エ遣呉、然処小隊長伊東新八・半隊長伊集院彦十郎隊壱小隊宮崎エ繰込、義岡善之丞諸所エ相迯候故、打殺との趣ニて諸所相尋候趣承、加世田工・牧競・我三人、伊東新八ニハ加世田工同居故、義岡ニハ決て相迯候儀ニてハ無之、人多事無故、両製作所より綾并高鍋鉛山エ鉛買入ニ遣候趣ニて、決て迯候儀ニてハ無之故、其通相考居給候様伊東新八・伊集院彦十郎エ申入候処、左様之事ニ候ハヽ、命ハ助置へくとの趣ニて、様々其難ハ相済候、追々相迫、野尻紙屋口相破候ニ付、西郷氏エ差越候処、西郷氏出兵之旨小倉ト相争被居候付、此節ハ様々小倉左小隊を引、紙屋口之様被差越候、夫より宮崎方面相破、西郷氏ニハ豊後地方之様被差越、追々宮崎方面相破レ直ニ馬百疋相雇遣候処、弐千表有之、然共様々弐百表相運、千八百表

ハ其儘残置候、佐土原廣瀬ェ引揚、夫より佐土原二亦(股)川を越、仝所八幡宮ェ陣営、此所ェ米千表内外・砂糖弐百斤屯置候処、同夜入前桐野、横山直左衛門召列、四斤半砲壱丁馬ニ為引、明日ハ見事之軍可致賦、依て本夜ハ一宿為致候様被申入、仝夜ハ我小荷駄方ェ止宿、用金箱預呉候様との趣故、三名(桐野・横山・我)ニて合切府(荷)致預置、翌未明及戦候処打負高鍋之様被引揚、我ニハ佐土原士族小松某案内ニて夫卒召列、米・砂糖ハ其儘召置、浜辺之川ハ舟渡ニ候処、小船見出し我人数ハ様々渡リ、此川ニて明方過分ニ溺死有之、津野町(都農町)ェ参リ此所ェ兵粮方相立居候故、桐野・横山モ参リ候ニ付、本朝戦之形行承、預候金箱両人切府改引渡シ、夫より帖佐彦八其外同道ニて美々津(日向市)之様差越、川手前ェ夫卒山下宗太郎召置、此所ニて白米ニ致事故、此所ェ一宿めし共給、在米ハ如何之位有之、亦其米ハ如何致置候哉之旨承候処、昨日川向ェ渡置候旨申出、表数ハ如何ト相尋候処、凡三百弐拾表之由申出、其折帖佐彦八より、骨折致候付金拾円夫卒山下宗太郎ェ被遣候、翌未明敵ハ津野町ェ参リ候由ニて、美々津川ェハ舟橋を掛有之、夜明前橋を渡候処、村田新八申ニハ、桐野御方を夕部より相尋候との趣被申候故、直ニ桐野方ェ差越候処、桐野ニハ朝飯給居候故、我ニハ夕部給候迄ニて未朝飯不給候故、桐野より先ニ飯給候、桐野方へ飯椀を持二階之桐野方へ差越候処、飯央桐野云ふニハ、我々ニハ此通飯給候得共、手負并各隊ェ宛行之米無之候間如何致候て可然哉、我ト御方ニて無之候てハ不存との趣故、米ハ爰許ェ有之旨申入候処、是ハ都合宜との趣、然共我未其米不見届、夫卒申出計ニて候故罷帰リ夫卒ェ相尋可参申入置、直ニ我小荷駄ェ帰リ夫卒宗太郎ェ相尋候処、夕部申上候通四斗入三百弐拾表内外計有之旨申出、何方ヘ格護有之候哉相尋候処、桐野様宿陣之蔵ェ有之候旨申出、直ニ宗太郎召列差越、桐野ェ引合候処大ニ喜ヒ、天の助神有之候付、其米ハ桐野貰度旨申候故、我桐野ェ申ニハ、夫卒ノ申分迄ニてハ無覚束候故、御互ニ立会見届度申入候処、桐野申ニハ、宮崎之事矢張相考被居候様被申入候得共、決て左様之儀ニてハ無之、夫卒位之申出無覚束、立会見届候処、三百拾五表有之候付、桐野ェ相渡シ其内壱表相貰我小荷駄之用分ニ致候、三百拾表内外各小荷駄ェ桐野より渡付相成、我々ニハ直ニ我小荷駄ェ帰リ居候処、亦候桐野より呼ニ参

リ差越候処、富高新町(日向市)手負并各隊之兵粮手当無之候付参リ呉候様被達、用金五百円被渡、依て夫拾人給候様申入、直夫卒山下宗太郎召列早鹿籠ニて差越、富高新町酒屋ェ金百五拾円ツヽ、三ケ所ェ遣シ、焼出致候様相達、其酒屋三ケ所ェ各隊兵粮方ト高札相建、此所ェ三日滞陣、此所ェ追々参候人数椎原國幹・上村慶吉・野崎半兵衛・谷元六兵衛・帖佐彦八其外人夫卒共翌日門川(門川町)ェ差越、敷根壹藏ト門川寺ェ一宿、翌日ハ延岡之様益満吉次郎同道差越、本日雨降ニて候、延岡町小荷駄ェ五六日滞陣、熊田(北川町)之様兵粮仕送リ候、其内池之上より呼ニ参リ差越候処、騎兵之兵粮無之候故、万一此所相破候ハヽ、騎兵ェ仕送米無之候故、御方ニハ是非共敵之後ェ洩レ兵粮仕送都合致呉候様承知致、其考ニて夫卒嘉助召列残居候処、彼地相破レ後ェ洩ル事不相調、嘉助ト延岡町引揚之折ハ最早百間橋ェハ敵兵橋入口ェ弐人、中程ェ壱人、橋先ェ弐人番兵致居、様々橋(衝)を逃通、橋口より弐拾間計走行角を曲候処、跡より小銃打掛、八幡山よりモ四斤半打掛、様々逃延、川島(延岡市)之様差越、此所より山口千藏隊小荷駄松岡直左衛門ニて米并焼酎弐樽弐斗五升入仕送、此所ニて米弐百表内外買入候、此所之小荷駄帖佐彦八・黒木直左衛門其外罷居、此所ェ三四日滞陣、本営重久雄七・川久保十郎罷居、鹿兒島方面より相良郷左衛門抔引揚参リ、野村忍助(介)ニモ騎兵より参リ、相良ト野村、重久ト争論有之、相良ニハ涙負色ニて、重久ニハ明日ハ見事之軍致為見度との趣申入、重久召列候夫卒ェ形見ノ品共、母とのェ送リ遣シ、翌日豐後地騎兵之人数モ参リ、西郷氏ニモ被参、直ニ和田峠(延岡市北端)ェ出張、重久雄七ニハ本日戦死、野村忍助・伊東直二・神宮司助左衛門ニハ手負、西郷氏ニハ和田峠ヘ出張、我ニモ出張候処、西郷氏より我ェ、御方ニハ此所ヘ被居人ニてハ無之早ク人家行兵粮之手当致候様との趣申渡相成候処、村田(新八)・桐野(利秋)・池之上(四郎)罷居、村田より西郷氏ェ、先生ニハ此所ヘ被罷居候事大事ニ候間、早ク人家ェ被参候様被申、我ハ西郷氏ェ随ひ延岡之内長井村(北川町)ェ差越、此所ェ本営相居候処、追々諸方より桐野・村田・池之上・椎原・桂其外隊長之人数相集、諸方より追々敵軍相迫、榎ノ嶽峠(朱ニ「可愛」)より四斤半本営見掛打掛、此所ェ拾日間滞陣、爰ニて肥後龍口隊長中津大次(四)郎切腹、此所ニて諸帳面并書類惣て焼捨候様との事故皆焼捨候、我ニハ騎兵小荷駄ニ候処、本営より参リ候

様呼ニ参リ候処差越、村田新八より大本営小荷駄谷元六兵衛壱人故、我ト両人ニて致呉候様との趣故、黒木直左衛門・帖佐彦八ヱ形行申入、大本営付ニ相成事務取扱候、追々諸方より敵兵相迫候付、旧大鐘時分大本営より可参旨、呼ニ参リ差越候処、案内尋出シ候様との趣故、案内ハ居候故仕廻致居候様申入置、鮫島元吉・(都城ノ人)三木清雄・我三人人家ヱ差越、(朱)「可愛」榎ノ嶽ヨリ堀川(祝子川、北川町)迄之道案内致候様申付候処、案内致候ハヽ、官軍より被切候様との趣ニて相断候故、無拠両人相搦、跡家内ヱハ金百円宛遺し置、両人召列大本営ヱ差越、邊見十郎太隊相請取、夜旧五ツ時比より出、榎ノ嶽番兵下抜通、道筋ヱハ惣て紙シヘ相付、翌未明(朱)「可愛」榎ノ嶽之後ヱ廻リ、野(第一旅団長野津鎮雄)津七左衛門隊ヱ小銃打掛候処、敵兵ハ諸方ヱ逃去敵兵皆様々助リ、小荷駄ハめし焼居有之候を分捕皆給、仝夜ハ山中ヱ滞陣、翌日未明谷を下、朝飯昼飯一緒ニ里芋・夏大ツ(豆)買入給、堀川ヱ着、彼所ニてハ米無之、一小隊ニ米壱表半宛有之、皆粥致給、夫より牛三匹買入壱疋三拾円ツヽ、夫を殺シ一切壱斤半計ツヽ、塩煮ニ致、壱人弐切レツヽ相渡、其夜ハ堀川ヱ宿陣、翌朝堀川出立、此所ニて大本営小荷駄ニ種子島城助ト交代之旨申入候処、其辺ニて宜との事ニて我ニハ騎兵ヱ帰陣致候、本夜ハ獅(唐川、日之影町)々野ヱ着、敵之本営并小荷駄有之、是を破リ米其外分捕仝所ヱ一宿、此所ニて牛六疋買入、米三表ツヽ、荷米無之相成候折ハ牛モ殺給、弐夜泊、米并牛モ(山田直之丞ニ面会)給尽し候、夫より坂元ヱ壱宿、明日ハ三田井(高千穂町)之賦ニて本営并小荷駄破ル之賦候故、飯焼出し被呉候様戸長ヱ相頼焼出し貰、各隊ヱ相渡、仝夜先鋒隊三田井本営小荷駄打破リ、米ハ返米致、翌日未明坂元出立三田井ヱ差越候処、先鋒隊過分之分捕品有之、我・帖佐(彦八)・黒木(直左衛門)ニハ跡残少故、三田井より米送越、夫を焼出貰候戸長方ヱ返弁致、三田井ハ掛通山路ヱ乗掛、少シ坂を登候央、後より小銃打掛、我竹笠ヱ壱ツ、杖ヱ壱ツ、袖ヱ壱ツ、すそヱ壱ツ参リ候得共、身体ニハ不当候故様々其所逃延候て七ツ山(諸塚村)ヱ掛リ、帖佐彦八ト我先鋒隊ニて夜中此山中ヱ米弐表、其外ふし・牛肉官(缶)詰・シャンハン捨有之候故、帖佐彦八ト談合之上我跡ニ立帰リ、馬三疋相雇本行荷持を我本営河野主一郎方ヱ遣候処、我隊之用分ニ致候、是ハ跡以承候処邊見十郎太隊分捕品之由承候、夫より我ニハ先鋒隊故手籠買入、夫ニ緒を付夫ニ乗、夜通し七ツ山を過、此所ニおひて椎原國幹

氏巡査兵より生捕(誤報なり)ニ相成候由、夫卒迯帰リ承候、御門(ミカト)(南郷村)通行夜入過キきしの(鬼神野、南郷村)エ差越候処、本営小荷駄打破、爰ニ種子島城助罷居、我ニハ米并ふし(麩節)・味そ漬・牛肉官(缶)詰・シャンハン・米拾弐表分捕、馬七疋相雇、壱疋賃銭米拾表内外遣し、米弐表荷、壱疋ハ雑物を付、高鍋之内道川ト言ふ所へ、翌日大鐘時分比差越候処、桐野(利秋)本営エ邊見(十郎太)・岩元(平八)其外そふめん給居、邊見我ニ向過言被言、其上切殺抔トの過言故、我ニモ腹立甚敷故、御方ニモ口のはたきり〳〵と致、我ニ向過言、我ニハ甚不承知、切ヤルナラ切ヤレ、御方壱刀切やるならハ我ニハ弐三刀切賦ト言争、邊見エ詰掛候処、桐野・岩元両名ニて邊見エ、御方過言ハ例ニハ候得共、宇宿氏ニモ三昼夜不寝ニ爰許迄被参候故、御方過言ハあまりニてハ無之哉ト両人ニて被言候処、先日之荷物ハ我之品ニ候ト被言候故、あの品ハ七ツ山(諸塚村)山中エ捨有之候故帖佐彦八・我両名跡エ帰リ馬相雇持越候品ニて、跡捨置候てモ何の用ニモ不相立物故、御方之言ふ様ハ我ニハ極々不服ト申入、其事御方腹立ハあまり宜無之旨申入候処、邊見打替相笑、そふめん給候様申候故、御方不被言共給賦、我ニハ夕部飯給候迄ニテ本日ハ何モ不給候旨申入、直ニ冷そふめん給、夫より打立馬七疋才領米良之内白見(シトミ)ト言ふ所へ一宿之賦ニて差越、此所エ三小隊并前軍中軍後(銀鏡、西都市)本営・大本営各小荷駄銘々宿陣、我カ隊ハ河野主一郎軍ト隊名ヨロ隊ニて此所エ一宿、米四表焼出し隊エ相渡シ、壱疋ニ付金壱円ツヽ賃銭相払、本夜ハ大風雨ニて翌日昼過白見出立、本夜ハ米良本城下エ一宿、本夜モ大雨、此所ニて米四表焼出し馬弐疋暇遣シ賃銭弐円ツヽ相払、翌朝ハ晴上、城下出立、其日ハ夜入前米良之内人家無之処エ滞陣、須木(須木村)境此所ニて米四表焼出し、赤豆三斗・牛壱疋買入、牛を殺、塩煮ニテ隊エ相渡シ、爰許馬暇遣し候、壱疋賃銭三円ツヽ相払、翌日ハ川を渡ニて橋無之候付、橋を掛未明出立、山中通行壱ツ川を五拾弐度位渡リ須木エ出、此所エ昼過着、此所ニて雑荷請取、馬壱疋暇遣し賃銭五円相払、夫より小林エ着壱宿、翌日未明出立、吉松エ一宿、此所エ人吉破之折宮原壮一立合吟味、四石余春出置、酒屋故万一之事有之候ハヽ自物之旨届出候様達シ置候故其儘有之、夫を諸隊エ配分、我か隊ハ弐斗入六丁持越、翌日吉松出立、野村忍(介)助・伊東直二・神宮司助左衛門手負故、彼所より同列ニ付、本日横川エ差越候処、敵兵相守戦候て通行不相

調、左エ切、踊之内(牧園町)萬膳エ一宿、翌日溝邊石原町より六丁計下を踏切、此所ニて戦致、戦死壱名山田英之助、夫より志ら良(衍)山田(給良町)麓エ出、此所ニて昼飯、蒲生之様差越、麓(始羅)并町エ宿陣候処、夜旧四ツ時分大本営より呼ニ参リ候付、帖佐彦八・我両名本営エ差越候処、明日ハ鹿兒島エ突出直ニ引帰す賦故、未明蒲生之城見分致置候様承、本営ニてそふめん共給小荷駄エ帰リ、

此所(後記、貼紙)ニて巡査兵壱名生捕、邊見十郎太隊ニて川畑エ列越打殺賦候処、我見掛差越、夫無多事故夫卒ニ相働給度申入候処、命を助給候ハヾ、何様共致候趣故、邊見隊より我貫請、城之山迄列越候、城之山落城之後巡査ニて新上橋へ番兵、我行逢、我エ貴公以御蔭命助かり亦々此様之形行ニ候旨被申候、

翌未明帖佐同道蒲生城エ登候処、なかなか籠城之見込無之、蒲生之城を下候処、敵兵相廻居候得共様々のか(薪)れ、吉田之様差越、吉田之内弐本松(吉田町)エ野村忍助(介)跡押之為被居、彼エ形行届出置、鹿兒島之様差越賦ニて、仝所宮之浦(吉田町)戸長役場エ参リ候処、川上方面エ差越賦ニ候処、吉野村役場近辺ニて戦相始、我共ニハ西エ向皆房村エ差越、荷物ハ惣て宮之浦役所エ頼置、大かね時分より皆房戸長役所戸長東郷宗次郎此所ニてめし焼給打立、帖佐(彦八)・谷元(六兵衛)・野崎(半兵衛)・我其外夫卒皆野(花)海(他)道より石井手エ出、野崎近所ニて暫相休、夜五ツ時分鹿兒島之様差越、鹿兒島エ残リ候者共西田橋之口エ屯シ夫エ行逢、我宅エ壱刻走寄候処、皆共不罷居、夫より県庁下ハ大合戦ニて大手口より上り、城之山大手口兒玉氏エ一刻相休、翌朝上町之様差越候処、我小荷駄ハ千地蔵下瀬戸山何かし蔵エ宿陣、翌日夕方城之山岩崎大本営より呼ニ参リ候付差越候処、桐野・村田より犬迫村米蔵之米在家エ運ひ有之候ニ付、城之山エ本夜中持越候様并夫百人計遣候様との趣承、誰欤引合壱人同道致旨申出候処、西郷氏より引合ニハ不及、壱人ニて宜候故可被参との趣故請合引取候処、桐野呼返し、誰ニてモ御方見込を以同道被致度旨承、直ニ城か瀬戸を越、馬場清蔵方エ差越引合致候処、折柄留主(守)ニて我壱人出、玉江橋を越、小野、犬迫瀬戸より犬迫エ差越、戸長内山清四郎エ引合、前件之趣ニ依リ米百表・夫百人遣候旨内山エ申入、内山直両様共差遣候旨承届、夜不明内城之山エ帰賦ニて犬迫瀬戸通行之処、母様坂中エ出被待居、御方先刻通行之由承待居候、夫ニ付母様被申ニハ、五

男尚五郎病気ニて迚モ快気無覚束候故、一目見置候様
との趣故立寄、病人見届候処、無間モ酒并鶏汁共有之候
故給候処、三日計ねた共ねらす共不知事故、臥居起上
候処日出過故、飯共給城之山エ引帰る賦ニて仕度共致、
母様エ相別、城之山エ差越掛椎原孝助殿方エ立寄、孝助
殿兄ハ如何候哉ト被尋候付、(椎原国幹弟)国幹與右衛門様ニハ七ツ山ニ
テ無之相成候事ト存命ハ六ケ敷申入、吉之助ハト被尋、(隆盛)隆盛
西郷氏ニハ岩崎エ参リ被居候旨相答置、直ニ椎原氏より
帰リ小野村之内岩崎之はなへ差越候処、敵兵罷居夫
より椎原氏迄帰リ、刀大小・着物頼置、百姓着物を借入、
竹皮笠をかむり、鎌を持、北紙屋谷・玉里より下田近
辺エ差越候処、迚モ城之山エ入事不相叶、夫より引帰
し、水上坂・武・田上・郡元浜迄差越候得共、惣て引
廻し居通行不相調故亦引帰し、犬迫を通小山田を通行
伊集院下神殿エ行、松元畝一方(栄之丞弟)行輔罷居候付差越、夫
より尚五郎ニモ此所エ取寄候様行輔エ申入置、夫より
夫卒壱人召列麓を(麓)辺、日置・吉利・永吉を辺伊作麓エ
差越、田布施・新川エ行米百表買入馬相雇、谷山山田
村迄荷下候得共、城之山エ入事不相叶、亦々伊作之様
引帰し、米ハ伊作戸長山之内宗右衛門エ預置、此所ニ
て中嶋伊右衛門エ行逢同道ニて候処、巡査兵我々共を
相尋候様との報知有之、伊作之内田尻村エ差越居候処、
亦々尋候報知ニて、最早明朝ハ其許エ差越との趣報知
ニて、此所ニて中嶋ト相別レ、我ニハ鍋壱ツ・米三升・
塩少々買入貫、本行三品風呂敷ニ包、我持山中エ入、
伊集院之方エ向ケ野を越山を越道無之処を三昼夜行、
伊集院五本松エ出、夫より下神殿エ差越候処、家内皆
共参居候、尚五郎ニハ(九月卅日、実は九月廿四日)旧八月廿七日朝(十月三日)死亡、城之山旧
八月廿四日落城、西郷氏・桂氏腹を被切候由達シ有之、
最早道明候由ニて廿七日之晩尚五郎葬式、鹿兒島大徳
寺エ埋葬致候、我ニハ伊集院下神殿滞在候処、椎原孝
助殿・大野新八郎より是非〳〵帰順致候様申来リ、與
右衛門ニモ罷帰リ帰順致候処、前件之通申来、夫より
伊集院出立、旧日置屋敷内エ警察并裁判所相建居、彼
所エ届出候処、一先放免相成、帰宿致居候処、亦候五日
計相過亦々呼出し相成出頭候処、拾日計被留置、長崎
エ遣シ相成候旨被達、出帆迄磯製鉄所跡エ被遣、亦此
所エ七日間計被召置、上之濱より出帆之蒸気船エ乗付
長崎エ着、此所エ三日滞在、長崎裁判所ニおひて除族
之上弐ケ年懲役ニ被達、長崎出帆致、横濱エ弐昼夜目

ニ着、横濱より蒸気車ニて新橋迄、夫より佃田嶋監獄所エ壱夜止宿、翌日東京市ケ谷監獄所エ被遣、弐ケ年彼所エ被召置、満弐ケ年満期ニて明治拾弐年十二月拾三日放免相成、東京エ拾三日間滞在、夫より新橋蒸車(気脱カ)ニて横濱より廣嶋丸ニて神戸迄、神戸より豐瑞丸ニて明治十三年辰一月二日前之濱エ着、

明治十年日記

二月六日

朝写物致候処、出兵之咄色々有之彼是承、兼て是非トモ罷越度段大橋七郎左衛門迄申入候、未返答相分リ不申、頃日旅人歩行不致様石原渡左衛門ヨリ委細咄ニ相成、皆々ヨリモ気付、右之段申サレ候間、引籠居申候ニ付、残念ト存居折柄、兼テ咄致候本馬乗馬場千田七右衛門ト申人会社ニ出潟ニ相成、色々咄等有之候間、兼テ噂致置候人故存意申置候処、尤トカ被申、士ノ手ヲ下ケ頼ニ相成候上ハ、引請可申段答ニ相成候間、夫ヨリ竹崎忠之丞ヘ右之段相談ニ及候所、是以尤成次第ト被申、ズボン一ツ進上スト有之候間、夫ヨリ夜ニ入千田七右衛門方ヘ参リ候処、弟秋彦出潟ニ相成焼酒呑有之候也、七右衛門殿ヘハ留守ニ付、咄ハ明日ニ致可申直ニ寝ル、

二月七日

朝七右衛門私学エ名元差出ニ相成候所、筑前之人ハ別儀ニ付取調早可申トノ儀ニ候由返事有之、是ハ尤成事ニ御座候間、未相分リ不申候也、終日大雨ニ御座候也、

仝八日

終日大雨、如何之都合ニ候哉相考居申候、七之丞牛求メ秋彦出潟ニ相成、夫ヨリ焼酒呑申候也、七右衛門只今呼出シ申来候間、直ニ出方ニ相成候処、給養役ニ被仰付候也、

然ルニ拙者儀ハタマ〳〵鹿兒島ヨリ出兵致候ニ、外県ヨリ兵士ニ取候テハ残念之次第トカ被申候段承リ、甚残念之次第ニ御座候、然ルニ別儀ヲ以テ取計之道モ可有之、七右衛門殿色々心配被致候処、千田氏田原篤實方ヘ咄置候間、定テ同役申合可致様トノ儀ニ付、少シハ安心仕候也、

仝九日

朝田原氏迄同道罷越候所、西田橋ニテ出合申候間、則頼置申候所、椎原與右衛門殿方迄七右衛門ヨリ同道申候様咄合置候間、明朝可被参様トノ事ニ御座候間、直ニ罷帰ル、

仝十日

朝千田氏ヘ罷申候得共、今日早出ニ付、今朝迄ハ椎原氏出潟出来不申候也、後刻嘉兵衛・秋彦出潟ニ相成、両人共此節出張出来不申候間、夫卒ニテモ宜敷旨願ニ相成候得共、出来不申、両人共力ヲ落焼酒呑被申候也、

仝十一日

朝又々田原氏迄参リ居申候ヘ共、未相分リ不申罷帰リ、七右衛門殿同道椎原氏ヘ参リ申候処、昨日田原氏ヨリ咄承リ申候、召連可申トノ儀ニ付、大ニ安心仕候、今日七右衛門殿ニハ三番大隊三番小隊給養役ニ加ラレ候様トノ儀ニ御座候也、又々秋彦・嘉兵衛出潟ニ相成、焼酒呑申候、

仝十二日　少シ雪

七之丞・秋彦又々牛求メ焼酒呑申候、右相済昼寝致候、七右衛門殿ニハ楽(学)校出方有之候也、少々雪フリ申候、

仝十三日　正月元日

朝何レモ規式相仕廻申候、夜前ヨリ大雪ニテ凡壱尺モ可有之雪ニテ御座候也、鹿兒島ニテハ弐拾来(年脱カ)ノ雪ニテ有之候由、夕飯後軍艦壱艘入申候間、皆々出方有之候也、其舟ハ直ニ出帆致シ申候、夫ヨリ番兵相初リ申候、鹿兒島ヨリ東京官員之内ヨリ弐百名余カン者ニ入込候由ニテ、只今程百名許リハ召取リニ相申候ナリ、専ラ只今詮議中ニ御座候也、求物ニ参リ神宮司平左衛門方ニ参リ酒呑帰リ申候、夜ニ竹崎小忠太方ヘ参リ見立有之候事、

仝十四日　仝二日

七右衞門明日出立宿割之由ニ御座内見立有之、宇都宮伊之介母同道参リ、東京ヘ手紙言伝申度旨ニテ参リ申候間、七右衞門殿承リニ相成候間、大ニヨロコヒ申夜半迄焼酒呑有之、

仝十五日　仝三日

又々大雪ニテ御座候、朝六時出立ニ相成申候、秋彦・某両人ニテ色々心配致シ申候、夕飯後又々明朝七之丞出立ニ相成候間、求物ニ参リ候ヘ共、大雪ニテ何モ無之、七之丞母大ニコマリ入リ、秋彦殿申合色々心配致シ申候也、夜ニ入内見立ニ御座候て田原氏母ヲモ泊リニ出潟有之候也、トンタク一面七拾五銭ニテ御座候、是ハ大雪故何モ無之事也、

仝十六日　仝四日

朝六時出立、秋彦殿ヨリ餞別トシテ金弐拾銭遣シニ相成候間、申請候也、夫ヨリ田原氏方ヨリ参リ島ブタ持参ナリ候テ料理致候、夜ニ入嘉兵衞・秋彦出潟ニ相成、大酒宴ニ相成申候、料理人ヲヨシ一切請持世話致シ申候也、

仝十七日　仝五日

朝四時起、直ニ湯ニ入、吉之丞殿都合三名出立、陳(鎮)兵場揃、拙者共ヘハ直ニ私学校ヘ参リ弾薬掛ヘ参リ候テ、弾薬四拾七駄付出シ直ニ出立、今日雪トケニテ道場悪ク御座候、市來港泊リノ由、伊集院昼ニ候、鹿兒島内ハ昼・泊リ共鶏ニテ御座候也、市來港泊ナリ、

仝十八日　仝六日

朝六時出立、皆々雪トケニテ大ニ難渋足痛多ク有之、千代(川内)向田町昼後阿久根泊リ之由ニ候得共、弾薬馬夫無之、無拠西方小林ニ泊リ申候、兵隊ハ阿久根泊リニ御座候也、

仝十九日　仝七日

朝西方出立、馬ヨリ参ル、又々大雪ニテ大ニ寒キ事ニ御座候、阿久根十一時頃着致ス、アマリ寒キ候間酒呑、馬方ヘ酒代弐拾銭遣シ申候、右ハ源助ヨリ出シ替申候、夫ヨリ同人同道弥道中悪ク相成大ニ難渋、夜ニ入和泉(田水)着、同所泊リニ御座候也、

仝二十日　仝八日

朝六時出立、米ノ津ヨリ舟ニ乗候様トノ儀ニ付、荷ヲ積シハラク相待申候、午後ノ三時頃出船、夜ニ入八時佐敷着舟、直ニ揚陸イタシ田原氏ハ先舟ニテ着ニ相成候間、右ニ付宿詮議致シ、又々舟ニカヘリ凡道壱里余有之、椎原先生・中原先生同道宿ヘ参リ一泊致、同夕三番大隊ヘ

ハ、タイマツニテ佐敷太郎ト申ス名高キ坂ヲ越被申候也、

仝廿一日　仝九日

朝兵隊ハ舟ヨリ松橋迄出船ニ相成リ、残リ宿陣之賄宿料等払午後一時頃出船、本舟ニソフ・小船ニソフ、我々ハ小舟ヨリ参リ、夜半ニ松橋着船ス、直ニ揚陸同所等ヘ宇宿氏宿陣ニ相成候間、直ニ弾薬等揚、我々ヘハ宇土迄参リ呉候様ニ付、直ニ米ヲ持セ参リ候所、宇土ヘハ壱人モ無御座候間、又々松橋ヘ帰リ申候処、七之丞殿ヘ面談致ス、夜明ニ相成申候也、

仝廿二日　仝十日

松橋ヘ参リ、又々米ツケ宇土ヘ参リ、直ニ焼出シ呉候様トノ儀ニ候間参リ候所、今朝七時ヨリ熊本戦初リ居申候也、右ニ付宇土酒屋ヘ参リ親族共ヘ頼米拾俵焼出シ致サセ事(事カ)ニツケ直ニ熊本ヘ持参リ、安政橋ノ下ニテ兵隊ヘ合五ノ二番・壱番等ヘ相渡シ直ニ帰リ申候処、道中ニテ七右衛門殿ヘ合申候、今日大砲無之候ニ付、皆々力ヲ落シ申候由、城方ヘハ極々手強ク候間、手負即死多ク御座候、川尻迄引取候処、同所ヘ皆々出潟ニ相成候由ニ付、宿ヘ参リ一泊ス、田原(氏脱カ)ヘハ熊本ノ様宿取ニ両三名引連出潟ニ相成候也、

仝廿三日　仝十一日

朝五時頃起、飯・漬物等車ニ乗リ候テ、中原・椎原両先生同道外ニ壽三、右人数ニテ熊本安政橋ノ下ニ参リ兵隊ニ相渡シ帰リ申候処、玉雨之如ク参ル、椎原氏ニアタラントス、夫ヨリ皆々田原氏ノ宿陣之様詮議被致、壽三外三名ハ川尻被帰候、拙者ヘハ田原氏宿陣詮議致シ候処、春竹中村松岡何某ヘ宿陣ス、追々中原先生皆々出潟ニ相成申候、椎原先生ヘハ夜ニ入候テ出潟ニ相成、八時頃手負壱人参ル、右ニ付座敷ヘ寝ル也、

仝廿四日　仝十二日

五番大隊半隊植木ニ参リ候間、愈植木ノ様参リ可申段本営ヨリ申参ル、則直ニ田原・宇宿両名出張ス、拙者ヘモ参ル、植木油屋ト申酒屋酒蔵ノ中ヘ一泊ス、夜半ニ敵近村ヘ参リ候段申来リ、大ニ相働(騒動カ)ス、今日同宿ヘ出潟候、道ニテ植木向坂ノ戦ニテ大将壱人・乗馬一疋・小荷駄馬弐疋・籏壱本・鉄砲分取ニ相成候、右ハ手引之者深キミゾヲ通リ切込ニ相成候間、敵方ハイ(敗走)ソフヲ致ス由、右ニ付戦ハ手引次第成ト皆々被申候也、

仝廿五日　仝十三日

朝蔵ヨリ出町ヘ宿陣之致シ、彼是ト致シ候内、又々敵近

村へ参リ候由申候間、植木ヨリ七合計ノ処前原村善三郎方へ立退キ申候也、右ハ加治木隊大ニハイソフヲ致シ候間、左様申候由也、手負等多ク右戦場所ハ植木ヨリ一里余出原ト申所也、即死モ多ク候間、皆々同宿之内薩摩へ埋葬ス、

仝廿六日　仝十四日

朝前原村ヨリ出又々植木町へ参リ、米分取ヲ改夫賃ニ遣シ賄ノ手当等致ス折柄、又々近村へ敵参リ候由ニ付、皆々ハ前原村善三郎所へ立退キニ相成、我々ヘハ蔵ヨリ米出シ候間、夫ヲ入鍵等ヲ預リ宿陣所へ帰リ申候処、兼テ在郷へ預ケ置候分取米付出シ候様申付置候間、白米三拾俵計付出シ候テ、追々馬参リ候間、植木裏ニ小村候付、由井何某方へ右米預ケ置、又々前原村へ参リ一泊ス、夜ニ入目籠取リニ参リ候処、ケツト二ツ飯焚夫取候由ニ御座候、同夕清田何某ヲ召連焚出シヲ頼、壱人召取能々詮議致候ヘ共、内通之者相分リ不申、終夜戦有之候也、

仝廿七日　仝十五日

朝又々植木町へ参リ、蔵ヨリ米ヲ出シ夫賃ニ遣シ、米ヲ山鹿へ付遣シ十一時頃山鹿へ出張ス、午後四時頃山鹿中町緒方新蔵宅へ宿陣ス、当山鹿駅ヘハヲンセン多ク候間、直ニ湯ニ入、町内ハ見事成事ニ候得共、一人モ無之、居カ(ヵ)迄ハヅシ立退キ候也、同町ヨリ鍋田(山鹿市)原ト申所七合計之所ニテ戦争有之候也、

仝廿八日　仝十六日

朝起直ニ湯入、帰リ米・味噌等隊中へ相渡シ、終日味噌・薪・漬物等買入世話致ス、

今日ハ戦ハ休日也、

二月一日水泉寺(水前寺)村へ引越植木ノ者

森永市太郎
仝　勝太
植木之者
久三郎
仝　安平
仝　藤八
川尻町病院十六番
千田七之丞
川尻泉屋
七兵衛
右ハ緒形壮吉知人、

菊地西間村平山嘉吉悴眞太郎方持込荷改ル、
戦場覚
木留　吉次越　伊倉　田原　木葉
植木向坂　山鹿鍋田原
植木住主
廣田　尚
鎮台手引致由　宇野半右衛門
同人兄
宇野　喜平
宇土士族
江藤　信俊
延岡高千代都呂久金鉛有、（徳）（土）
隈府藪ノ内
高橋屋正助
四ノ九中隊長
伊藤　直二
山鹿関口
早川五郎次
仝九日町
右ハ熊入傳左衛門悴内同居中原甚藏、
山鹿下町
大林　政八
右ハ岩野ヨリ付遣シ候由、辨天丁黒川定太郎米弐百三拾八俵也、是ハ山野中津川鐵次ヨリ頼ニ相成候由ニ付、同人へ申付分取米ニ致ス、
別事
橋田村春田龜宗・小島政利家内上
高橋村中川榮右衛門同道相良村へ
着致ス由手紙参ル、大久保了言
入道村ハ鉄砲小路之先七合計也、士族有也ベツビン、
尻無シ文次郎ト申ェタ也、山番戸島村へ協同隊中津大（龍口隊カ）
四郎宿陣、
永峯村ニ鹿ノ子木本営転陣、
木島清（貴）　中島健彦
錦ノ村・岩坂村・中島三ケ村へ、
鳥ノ栖村本営転陣、
桑弓野日向国第十五大区三小区戸長
椎葉山桑弓野宿陣、　尾崎勝太郎
十一大区八小区加世ムレ村
二鶴村　佐藤又五郎　亀太

右ハ桑弓野迄鉄砲二挺持参リ候間、預リ置、右ハ胡摩山ヨリ、
有馬用藏・弓削才助此両人ハ病人ニ付、二日程芋ノ八重ヨリ同道致ス、鉄砲壱挺遣ス、

惣会計掛リ

谷元延清　　岩滿傳太郎
田原篤實　　〃　森　與　市

江代五里　大川内村四里　渡川村三里　神門村　　中村之者
坪谷村三里　小カケ村三里　新町五里　延岡　　高野　善次

上ノ町裏山木正助紙場宿　　田中　傳

一　五拾銭　春竹ヨリ鳥栖村迄車代
一　壱円ハ　甚助渡シ
一　仝　萬太郎渡シ
一　五拾銭ハ　出町両度行車代
一　五拾銭ハ　隈府両度分雑用

本城ニ鉛有之由、千斤計見込之由ニ御座候也、
一。水銀弐百目　一。ロクハン　　〃
。コヲシユルポツトラス　一ドヲハン　一　弐円ハ　エタ渡シ
一鉛　一。ショフサン　一ショウセキ白エンショヲ之事　一　壱円ハ　エタ渡シ
一イヲフ　一　五拾銭ハ　坂梨渡シ
一　五拾銭ハ　雑用致ス
一　五拾銭ハ　着類借用貸（賃カ）

宮崎川原ニテ　　〃

中村嘉右衛門　　延岡　重岡　佐伯
都城之人
岩滿吉次郎

延岡　古部　市振　宮ノ浦　小戸津
八田浦　カマヘ五里佐伯裏手

高鍋（三里美々津三里半）津野（都農）三リ半美々津富高ヨリ三里
富高　細島壱里
　　鹽見　角川（カト）　平岩
　　延岡五里　小末戸々呂

四月一日　二月十八日
今日迄出張ニ相成不申候ハヽ、本営ヨリ掛合差遣シ可申トノ儀ニ付、熊本ヘ一人差遣シ申候テ、自然ハ村内ニ入込ニ相成可申哉モ難計、詮議仕居申候、夜ニ入隈府ヨリ弾薬請取ニ出潟ニ相成申候、
仝二日　仝十九日
本営ヨリ掛合ヲ持鹿子木之方出張ヘ夫卒二名同道詮議致候処、御馬下ト申所ヘ宿陣之由ニ付、則同方ヘ参リ申候也、是レハ未家内等モ居宜敷宿ニ御座候也、牛肉ヲ隊中ヘ渡シニ相成申候也、
仝三日　仝二十日
今日ハ戦木留之様有之候也、網打ニ参リ候得共、魚ハ居リ不申、終日彼是致居申候、宇宿氏熊本ヨリ帰リニ相成申候也、四ノ二給養伊藤祐徳今日大小荷駄云付ニ相成候由ニ御座候也、
仝四日　仝廿一日
朝西梶尾村ヘ転宿可致旨ニテ皆々荷物等相仕廻、拙者ヘハ山鹿之様探索ニ出潟呉候様、鹿子木本営ヨリ頼之趣梶原氏ヨリ被申候間、直ニ出立可申仕廻致シ御馬下ニテ着類等替候テ西梶尾村ヘ差越、夫ヨリ直ニ出立、鳥ノ栖本営ヨリ隈府之様参ル道ニ高江ノ橋ヲ渡リ候処、敵兵向ヘ参リ申候間、川中ヘ五ノ七番小隊臥ニ相成申候、夫ヨリ案内ヲ取参可申トノ儀ニ付、住吉迄案内ヲ取、夜ニ入十時頃隈府着、五ノ二小隊給養西郷彦二・薬丸猪兵衛面談致シ山鹿探索之儀ヲ咄致ス、五ノ二小隊長ヘ道ノ有様ヲ物語呉様ニ付、則宿陣所ヘ参リ物語致シ、五ノ二給養方ヘ一泊ス、
仝五日　仝廿二日
朝隊長之処ヘ申入、志々枝村士族坂梨市平ヲ山鹿探索ヘ借用致度旨申入候処、追テ申合致シ可申トノ儀ニ御座候、其後高橋屋正助方ヘマイリ色々咄承リ申候、帰リ坂梨氏談合致シ候トコロ極々廻リ候ハヽ、余程日カズヲ重候間、

金子余分ニ入可申段申候間、右之段西郷氏ヘ咄イタシ、夫ヨリ三官之ウチヘ右之段申入、又々藪之内ヘ参リイロ〳〵道之段承リ候也、夜ニイリ坂梨氏同道ニテ酒呑ニ参、ソレヨリ直ニ探索ニマヘル、夜明ニカヘリ番兵先ヘ参リ候テ台場ヲ築セ、夫ヨリ乙野村ヘ参リ目障リノ藪切払候様申付帰ル、

仝六日　仝廿三日

朝飯仕廻ニ脇方ヘ参リ、坂梨同道絵ス(図)両人ニテ認メ帰リ、夫ヨリ五ノ二給養役一名同道鳥ノ栖ヨリ西梶尾ヘ夜ニ入着致ス、右探索之段咄致シ申候也、

仝七日　仝廿四日

朝本営ヘ椎原氏同道ニテ罷越、探索之通絵ス面ヲ以咄致ス、シバラク咄帰リ申候所、シキリニ砲声ハケシク候間、拙者ヘ参リシカト改参候様トノ儀ニ付、則罷趣候処、道ニテ熊本ヨリノ帰リノ者ヘ出合申候所、川尻ノ戦ニテ御座候由ニ付、夫ヨリ三ノ三給養千田七右衛門宿陣参リ候処、同人ヘハ熊本行ノ留守ニ付、溝口氏ヨリ酒出シニ相成申候也、大ニ酔帰リ打臥申候也、

仝八日　仝廿五日

朝ヨリ城方ハゲシク戦有之候処、別持口ヲ小大ニ戦有之、打死・手負等多ク有之候、然ル所城方春竹之方迄打出候趣九品寺ヘモ打入候由ニ御座候、安政橋ヨリ三舟(御船)ノ様参リ候由承ル、シリヲ立切候事故此兵ハ直ニ打死申候ト相考居申候、此分ニテハ定テ明日モ強ク掛リ可申ト存居候也、

仝九日　仝廿六日

朝迄雨フリ道アシク、昨日ニ違今日ハ大ニヲダヤカ成事ニテ、木留計リハケシク事ニ御座候也、弐人熊本ヘ遣シ候得共、弾薬送リ不参候間、大ニ当惑之仕合ニ御座候間、暮々宇宿氏帰宿ニ相成申候間、相尋申候処、昨日ハ安政橋ヨリ打出所々ニ火ヲ掛ケ、九品寺ヨリ米ヲ持参ル由、安政橋ニテ水車ヲ焼今日水泉之処ニテ敵三名ヘ千田七右衛門出合、弐人相臥候所、後弐拾名計参リ候由ニ付、明宿ヘ入夫ヨリ人力引同道ニテ元ノ宿陣ヘ帰リニ相成申候由、同人出潟咄被致候事、夜ニ入鳥ノ栖ノ方ヘ当リ出火、熊本之方同様ニ御座候モ木留ハ終夜大ニ砲発候也、

仝十日　仝廿七日

朝六時過宇宿氏萬太郎同道ニテ人吉之方迄出潟ニ相成申候、右ハ弾薬道迄参リ候由ニ付、各大小荷駄ヨリ一名二名出潟ニ相成申候、今日ハ雨ニテ戦ハ少シニテ御座候、

熊本壯太郎弾薬并ニ諸品入用ニテ罷越申候トコロ、春竹ヨリ先世安村木村半平宅ヘ転陣ニ相成申候、田原氏ヘハ人吉迄出潟之由ニ御座候ナリ、今日ハ戦無之ト存居候処、鳥ノ栖之方ヘ砲声イタシ、木留ハ終日砲声相キコヘ申候、夜ニ入鳥ノ栖ノホウ出火有之、一マツハキヘ申又々出火有之、夜アケ前ヘ砲声強ク御座候也、

仝十一日　仝廿八日

朝少シ天気能相成候様子ニ御座候、今日ハ砲声少ク相聞ヘ申候、昼後隊長方鹿ノ子木本営ヨリ製作所迄出潟ニ相成申候、其後三ノ三ヨリ空俵百俵受取ニ参リ候間、其用意致サセ申候、夜無事、

仝十二日　仝廿九日

朝砲声強ク聞ヘ申候、鹿ノ子木・植木・木留・鳥栖之方ヘ相聞ヘ申候、熊本之方ヘ三舟之方ニ強ク相聞ヘ申候、太次郎同道ニテ鳥栖辨天山迄参リ居申候処、是迄之台場ニテ御座候、大砲強ク打申候、然ルニ一昨日隈府之方引揚高場ニ宿陣之由ニ御座候也、是ハ甚残念之次第ニ御座候也、夜中極々無事、

仝十三日　仝三十日

天気能熊本ヨリ壱人帰リ申候処、去ル六日二時ニ八代落城致シ、昨十二日三舟ニテ大戦有之候也、右ハ落兵共之由ニ御座候也、今日鳥ノ栖口之方計ヲ以切入ニ相成、六拾名余討取ニ相成候趣ニ御座候也、高場之方火手相見ヘ申、扇廻之方同出火、夜ニ入カヽリ火所々ヘ敵ノ方ヨリ焼ナリ、是迄ト違シ至ルヨタヤカ成事ニテ砲声等少ク御座候也、

仝十四日　三月朔日

朝曇リ、今日朝ハ至テヨタヤカナル事ニテ御座候也、鹿兒島ヨリ申来ル、大久保店ニ川路縞、三條弐尺ニヤ永シ、弐丈八尺ニ切テシマヘト申事候也、是ハ面白キ事ニ御座候也、昼後村之下谷ヲ廻リ可申、椎原先生同道参リ申候処、本営ヨリ椎原氏迄手紙参リ申、山鹿之辺砲声相聞ヘ候間、鎮ト聞届申ヘキムネ達ニ相ナリ候間、タヽチニ金弐拾円ウケトリ出立ス、鳥ノ栖本営ヘマワリ相尋、夫ヨリ小池村ムレ山辺ニ山番由ウケタマワリ同方ヘ参リ、夜ニ入一泊ス、内両三人寄合サヽヤキ候間、夜半ニ出立、山ノ本ニテ夜明シ申候也、

仝十五日　三月二日

昨夜出火候ヘ共相分リ不申候処、大津鉄砲小路凡三拾軒許焼申候也、同所之方朝霞ニマキレ高場之方ヘ参リ居申

候間、又々山ノ手ヘ引揚凡五卒モ参リ、又々村ヘ入込候処村キハヘ参リ候処、台場有之候間、鹿兒島成ルカ相尋申候処、鹿兒島ニテハ無之旨申候間、如何成所ト相尋申候処、上ノ庄ト申候間、直ニ山ヘカケ込凡半道計モ参リ村ニ入込相尋申候処、鹿兒島之者村内ニ入込ニ相成候間、早々申出旨達ニ相成候間、早々立ノキ可申旨ニ付、早々御立可被成ト申候間、直ニ村ヲ出案内ヲ取直ニ鉄砲小路ニ参リ、入道村ニテ士族之内ニ参リ家内ヨリ茶等出シ、シハラク咄シ致シ、夫ヨリ大津ヘ出隊長ヘ取合申候ヘ共、相分リ不申候間、同所ニテシハラク休足、同所ヘ一泊致ス、同夕ハ同所人力引色々世話致シ申候也、

全十六日　全三日

朝七時ヨリ敵兵大津町之裏ノ畠ヨリ掛ル、右ニ付鳥栖村ヨリ参リ候兵二小隊計後ニ廻リ候間、直ニ敵引揚申候、内凡七名程打取ニ相成、拙者罷越候テ壱人打取申候、又々敵後ヨリ打掛リ申候間、拙者ヘハ引取申候、壱人ニテ参リ候間、村々ノ者フシン存シ色々申立、西梶尾ノ様帰リ申候処、又々敵出申候間、直ニ引返シ白川ヲ渡リ岡ニ揚ニ凡壱里計リ候所、鹿兒嶋ヨリ海辺ヘカタメシ人引揚ニ相成候兵隊ニ出合咄承リ候所、川尻ヤフレ申候間、城兵皆々出候間、惣引揚ニ相成旨咄ニ相成候間、夫ヨリ木山之様尋参リ申候処、道ニテ戸嶋村ヘ宿陣之由ニ付、同村ヘ参リ相尋申候得共、相分リ不申、夫ヨリ協同隊(龍口隊カ)中津太四郎(大)宿陣ヘ一泊致シ申候所、大雨ニテ御座候也、

全十七日　全日雨(四脱カ)

朝起鳥ノ栖口之ノ病院掛リ人同道、夫ヨリ永峯村ヘマヘリ、鹿ノ子木口之本営ヘマヘリ、右之段相届ケヲキ候トコロ、大イニ迷惑之段申サレ同所ニテ相尋申候処、木山町ヘヒキアゲニ相成候ムネニ付、夫レヨリ木山之様参ヘリ候トコロ、相ワカリ不申候間、道ヨリ案内夫一名タノミ木山町龍林山専壽寺宿陣ノヨシニ付、同所ヘマヘリ右ノダン椎原氏・伊藤氏ヘハナシイタシ、八ノ大小荷駄サトワラノ人二名一所ニアイナリ申候アイタ、ゴク〳〵(瓶々)ニキワシク相成申候也、

全十八日　全五日

朝夫之儀ニ付二三合モ有之処ヨリ参リ、夫四拾名召連帰リ用心夫ニ付、草鞋ナト作ラセ申候也、

全十九日　全六日

五番松本氏ヘハ三番ト合兵ニ付、何カ不都合ニ有之候間、是迄之通ニ一所ニ相成度旨本営ヘ伺ニ相成申候得共、出

来不申、然ルニ五番丈ケ脇方転陣之由ニテ宿詮議ニ源介同道ニテ詮議致シ申、町並ニ一軒見付出シ転陣ノ仕廻致シ申候、同夕ヨリ松本氏ノ方加世(加勢)ニ参ル、

仝廿日　仝七日

朝武宮(健軍)之方ヘ当リ砲声相聞ヘ申候、今日ハ定テ戦数ケ所ニ有之可申相見込申候処、午後二時頃町之向川先ニテ戦有之、寺宿陣之椎原・伊藤ヘハ立退ニ相成申候、我々ヘハ終夜焼出シ為致候様本営ヨリ達ニ候間、夫五名召連来、終日焼出シ為致候事、同日武宮ヘハ大ニショフリ(勝利)ノ由ニ御座候也、

仝二十一日　仝八日

朝迄焼出シ為致候処、弥炮声相聞ヘ申候処、武宮之方ヤフレ候由ニ付、大ニ働ヨフ(動揺カ)致シ申候、午後三時頃町之上ニ敵参リ強ク砲声相聞ヘ申候間、町之隊大ニ働ヨフ致シ我先ニトニゲノキニ相成候間、我々共ヘハ荷物彼是心配致シアトニ相成大ニ雨アラレノ如ク丸参リ、我々ヘハ土手ノ下川ヲ渡リ要々(漸々)ニ山ニ引揚、凡壱里八合計参リ申候処、田島ヨリ川原ニ参リ可申存居申候所、川原ニハ戦有之由承リ候間、夫ヨリ又々矢部ノ様道尋申候テ参リ掛リ候処、松本氏ヘ出合申候間、同道致シ凡四里計成所ヘ参リ一泊ス、

仝二十二日　仝九日

朝起、米求ニ遣シ候所、敵参ル由ニテ夫方ニ出候間、米求候儀出来不申由申来リ候間、夫ヨリ直ニ出立致シ、凡壱里計参リ飯仕廻申候也、其後ソロ〳〵参リ矢部ヘ着、五番大小荷駄ヘ着ス、同夕隊名替ル、

一振武隊田原口　中島健彦
一正義隊武宮　河野主一郎
一行進隊木留　相良五左衛門
一干城隊御舟　阿多壮五郎
一奇兵隊大津　野村忍介

右之通今日隊号相改条申来ル、

右ニ付、大小荷駄ハ田原口ハ一番ヨリ、武宮ハ二番ヨリ、木留ハ三番ヨリ、御舟ハ四番、大津ハ五番、

仝二十三日　仝十日

終日無事ニテ御座候、米求等ノ会儀有之候也、夫ヨリ色々心配ニ相成候ヘ共、出来不申、亭主ニ相頼申候ヘ共、出来不申、隊ニ給養役ニ申付候様会儀有之候也、

仝廿四日　仝十一日

朝米買ニ平兵衛参ル、外六七名ハ草鞋求メニ参ル、彼是

致ス内用心夫ハ夫差所々遣シ置所、壱人モ参リ不申大ニ心配致ス折柄、本営引揚ノ様子相聞候間、夫ヲ取候ヘ共、少々参リ候間、大ニ心配致ス内皆々隊中引揚ニ相成候趣ニ付、奇兵大小荷駄之分人馬相揃候分出立ニ相成、我々ヘハ用心金弐拾円丈ケ受取皆々ノ帰リ相待候ヘ共、大ニ延引ニ付、又々向(迎)ヘ出シ申候所、本営ヨリ弾薬八箱参リ候間、土工夫八名請取ニ参リ則引付相待候所、一時頃帰リニ相成候間、出立致ス道チャウチン無之大ニ難渋致シ、彼是二里計参求メ居申候也、三里余之所ニテ夜明ケニ相成申候也、

全廿五日　全十二日

朝七時頃馬見原着、米手当致シ弁当仕廻、其後椎原氏出潟ニ相成、米拾俵求候様ニ付、則代金壱円四拾銭ニ求メ車ニ遣シ、人馬手当致シ同所ヨリ壱里半芋ノ八重ト申所ヘ参リ、兼テ椎原氏ノ泊リニ相成候所ニ一泊致シ候得共、人馬無之大ニ心配致シ申候也、夜中大雨、

全廿六日　全十三日

朝夫ヨリ手当致シ候ヘ共、出来不申、四名出来致シ候間、大工夫ニ弾薬持セ椎原氏出立ニ相成候、平兵衛・壮太郎・我々三名残リ初メテユルリト酒呑申候、大雨ニテ大ニ難渋致ス、是ハ鹿児島山(田カ)立後メツラシキ事ニテ御座候也、今日大雨ニテ夫方寄不申彼是心配、夜ニ入拾参人程参リ居申候也、今夕午後四時出立之筈ニテ打臥居申候也、

全廿七日　全十四日

大雨道悪ク皆々難渋致申候、本屋敷(五ケ瀬町)椎原先生止宿由掛合有之候間、早々出立申候也、午後三時頃胡摩山ニ着、大雨大風道ハツフシニ立申候、道中ハ三尺計誠ニキヽシニ増タル五ケ山ニテ御座候也、胡摩山泊リ、

全廿八日　全十五日

朝天気能相成候間、出立致ス、昼飯上椎葉ニテ相仕廻申候、同所ニテ馬三疋払申候代金六円五拾銭受取、夫ヨリ桑弓野(椎葉村)ヘ参ル前拾丁計成所ニ駒(約)橋有、川中三拾間計川深キ凡一丈余モ可有之、水流レ早キ事無限、誠ニ聞シニ増タル事共ナリ、道ニ凡拾間余ノ滝見事成事ニ御座候、夜ニ入前江代(水上村)ヨリ大小荷駄之手紙参ル、并ニ相成候所、又々馬見原之様繰出シニ相成候旨ニ付、村々ヘ大小荷駄給養滞陣之由申参リ候間、一泊致ス、又同所駄橋作事之儀ハ当所戸長ニ連頼有之候様候掛(衍カ)合参リ候間、桑弓野止宿致ス、同夕敵胡摩山迄参リ候様申候間、戸長ヨリタンサクニ参ル、

仝廿九日　仝十六日

今日江代ヨリ各隊出兵之由、天気能事ニ御座候、隣家へ転陣致ス、天気能事ニ御座候、江代へ二名掛合持ヲ遣ス、鹿遊(椎葉村)ヨリ病人送リ来ル、途中ニテ死去之由届ケ来候間、請取リ同断へ仮埋メ致シ置候也、同日髪結致ス、

桑弓野椎葉民造才(カカ)宿陣、

仝三十日　仝十七日

天気能、午前十時頃二中隊当所着陣ニ相成、直ニ探索出シニ相成、敵兵馬見原迄参リ候由承リ申候、午後一時頃三中隊繰込ニ相成申候、奇兵隊拾六番・行進隊一番中隊ニ御座候、然ルニ江代中原氏ヨリ一先江代迄繰揚ケ候様掛合有之候間、出立之用意致シ候へ共、大雨ニ共(ママ)候ハヽ滞陣之存意ニ御座候也、

五月一日　大雨　旧三月十八日

夜半ヨリ大雨ニ御座候、行進隊へハ胡摩山ノ様繰込ニ相成申候、午後三時頃天気ニ相成申候、明朝立ノ要(用)意致ス、夜ニ入戸長ヨリ鹿児島ニ軍艦拾弐艘入由、日向細島ニ弐艘入由、長岡ヨリ申来候、書面遣シニ相成申候也、草鞋代拾五円預ケ置申候、然ルニ色々心配候ニ付、酒料トシテ壱円遣シニ相成申候所、上酒少々返礼ニ参ル、宿エモ壱円五拾銭遣シニ相成申候、

仝二日　仝十九日

桑弓野出立、天気能御座候、道中坂計ニ御座候、午後四時頃江代着致シ候処、三大小荷駄合兵ニ付、人計ニ御座候、本営へ参弾薬相渡牛等出シニ相成候間、彼是咄致ス、人吉ヨリ御用候由申来ト申事ニ付、二階堂行和引合候様トノ儀ニ御座候間、シハラク待申候、則引合候処、人吉之様参リ候様達ニ相成申候、

仝三日　仝二十日

朝午前十時頃同所出立致、末打ト申所ニテ宇宿氏宿陣ニテ昼飯仕廻申候、中原・椎原ヘハ同方ニ泊リニ相成申候、拙者ヘハ右前日御用候間、是非共人吉之様発足致ス、午後六時比同所着、釜鳴屋ヘ参リ候ヘ共、干城隊宿ニ付一軒隣ニ一泊ス、

仝四日　仝廿一日

夜半ヨリ大雨ニテ中々手強クフリ申候、右ニ付大ニ難渋致シ申候、朝田原氏引合夫ヨリ二階堂氏引合ニ参ル候処、田原氏ヨリ宮崎之様参リ呉候様トノ儀ニ付、直ニ相仕廻椎原氏宿手当等致シ置、直ニ出立致シ申候、午後二時ニ御座候、田町へ参金弐円貸渡シ元手ニ致シ度由ニ付、ミソ

等仕込候様申付焼酒呑直ニ出立、大古場(大畑)ニテ籠ニ乗五十七銭払、山ニ入角藤(加久藤)越致ス内山中ニテ大雨大風稲妻雷ニテ火キヘ候間、夫共ニ安外致シ山中ニ立夜明シ、月ノ出ヨリ六町計下リ川渡リ人家ニ入夜明シ角藤ヘ出申候也、

仝五日　仝廿二日大雨終日

角藤ニ午前第七時着ス、夫ヨリ飯仕廻寝申候テ後刻午後一時比起宿籠手当致シ出立ス、小林ヘ午後第四時頃着、園田二兵衛所ニ一宿ス、今日水出テ川ハ大ニ出申候也、道ハ誠ニツフシニ入申候、皆々夫者大ニ難渋致シ申候、

仝六日　曇リ

朝六時出立午後二時頃高岡着、製作所引合夫ヨリ西郷彦二・坂梨市平ヘ出合申、八郎左衛門方ヘ参リ夫ヨリ通運会社引合直ニ宿籠ニテ酒呑出立ス、中村サツマヤエ着、鉄砲買揚ニ出潟之由、鹿兒島高野重太郎ト申ス人ヘ出合承リ候、鹿兒島ニテ戦争四日夕ニ鹿兒島町ヘ火ヲ掛大戦争有之候趣承リ申、定ショフリノ由ニ御座候旨承リ申候、同人ヘハ今夕高岡ノ様参リ申候ニ付、拙者ヘ町上三雲徳七宅ニ一泊致ス、

仝七日　曇リ少シ小雨

朝城ケ崎ヘ人遣ス申処、南村利平参リ候間、酒等出シ色々咄致シ申候所、大ニヨロコヒ申候、金弐円トイヒ金ハサミ弁当等持セ遣シ申候、夫ヨリ田中氏引合申候処、県庁出方之由ニ付、引合申置上ノ町ヘ宿取、直ニ河原町ヘ滿木清雄出張之由ニ付罷越、仝人引合申候テ昼飯等仕廻、田中氏引合可申ニ付、引取居申候、今日承リ申候所、鹿兒島県火ヲ掛ケ直ニ打入申候、佐々木藤平方宿陣致シ申候也、夫ヨリ田中傳引合候処、明日金相渡可申旨ニ付則引取、又々滿木氏宿陣ヘ参リウナキナトニテ酒呑、帰リニ房印ニ合申候テ帰リ申候也、

品物送リ所宮崎河原町

中村嘉右衛門

仝八日

朝中村ヘ参リ談合之末咄致シ、又々城ケ崎ヘ人遣シ申候也、後刻参リ可申トノ通事参ル、夫ヨリ上野町佐々木藤平方ヘ参リ求メ物等コシロヘ候処、支庁所ヨリ参リ候様申参リ候間、直ニ出方致シ候所、金三拾円ヲ請取直ニ出立之存意申直(置カ)候、其後中村正吉出潟候間、酒等出シ色々申付、直ニ出立之様ニテ田丸屋清藏方ヘマイル、正吉申分ニハ高鍋町ニテハ泉屋利助方ヘ泊リ候様トノ儀ニ御座候、米屋伊太郎ヘハ中村正吉一族之由ニ被申候也、

仝九日

朝馬ヨリ出立、小雨ニ御座候也、午後一時コロ廣瀬ニ着、同所ニテ鹿兒島ヨリ製作合薬等作リニ相成趣ニテ、通運会社ニテ咄イタス、新納十藏・小山田休次郎両人出潟ノヨシウケタマワリ候、鹿兒島之最様(模カ)承リ大ニチカラヲ得申候、午後七時コロ高鍋ニ着致シ申候、泉屋利助カタヘ着イタシ申候トコロ、都城ノ者ノ由ニテ延岡迄参リ、右ノシナ相渡可申トノ約定致シ酒出シ候也、

仝十日

朝七時出立、金丸金四郎同道、大雨ノ所津野(都農)ニテ馬ヲ替、美々津江藤筆三方ヘ参リ少々薬求メ直ニ出立、細島迄参リ舟着候由ニ付、参リ探索致シ候得共、間違之由ニ御座候、酒呑寝一泊ス、

仝十一日

朝七日薬屋ヘ参リ探索致シ候得共無之、夫ヨリ奇兵大小荷駄方ヘ参リ金弐百円請取、右ニ付請取書ヲ以申請、右之内銅銭百円有之ニ付、馬二疋ニ八拾円駄付参ル間、暮ニ延岡着、病院宿陣ニ未出潟無之ニ付一泊ス、

仝十二日

朝本営ヘ参リ、夫ヨリ薬之儀申入置罷帰リ申候、同日皆々延岡之様繰込ニ付、堤榮藏方ヘ宿替致ス、彼是之内奇兵十三番給養土持氏出潟ニ相成候間、米之咄等致肴求メ遣ス、同方ヘ参リ酒申候也、帰リ又々呑申候也、

仝十三日

本営ヘ参リ薬請取ニ参リ候得共、後刻相渡可申トノ儀ニ付、又々後方参リ薬請取帰リ荷作リ致ス、直ニ富高(日向市)新町ヘ送リ置申候、色々外ニ求メ物致シ申候也、

仝十四日　終日雨

先陣竹田城ヘ着致シ候由ニ御座候、色々求メ物等致シ、彼是致シ申候内日暮ニ相成、夜ニ入別品参リ申候テ酒呑申候也、

五番大隊大小荷駄方名元

椎原與右衛門		中原　萬二
田原　篤實		宇宿榮之丞
税所彌藤次	附属緒方	壯吉
伊藤　祐德		
田原　源助		山下宗太郎
小橋　甚助		松本萬太郎
富山太次郎		村岡喜兵衛

岩下仙太郎　柳田藤次郎
柳元平兵衛　松下　幸助（泉住人）
永井　壽三　原田　次郎
桐野藤太郎　吉村善四郎
前田　仲藏　山崎　幸吉
竹下　甚助　廻　仁次郎
。吉村市次郎（病気ニテ帰県致ス）　内村幸次郎
。坂本　虎吉（大津口本営ニ参ル）　。田中　四郎（病院之方ニ参ル）
。奥　熊吉（病院之方ヘ参ル）　高江金次郎
伊藤　勇助
。佐藤吉之助（隊ニ参ル）
有川三四郎　福地　熊助
。山野市郎左衛門（病人ニ付帰県致ス）　川崎孫兵衛
吉野甚太郎　遠矢幸之助
堀ノ内忠次郎　米松儀右衛門
松崎　嘉助

五番大隊大小荷駄奉行助役
松本藤左衛門
松崎休兵衛

協同隊　淵上　幾ヨリ引付
鳥栖村
九十　又藏
三月廿四日朝齊藤十郎ヘ引渡ス
九品寺協同隊
中津（大）太四郎
有馬　源内
緒形　重吉
渡邊　紀
木村渡太郎
（ヒヘ片中町袋屋鎮台手引申候由）
出畠向ヘ町
今坂　小平
薩摩中島屋
今村者
木下助太郎
西　鐵太郎
小場村
高橋五郎兵衛
区長
高濱圓右衛門

寺町
去渡　末吉
正勘寺町
藤　吉一郎
大古場仁三
中瀬村
間　中
ヲフイ村
新　次
三津木村ニモ有由
山鹿志々枝村
坂梨　市平
鹿子木本営
中島　健彦
山鹿寺
長　源　寺
仝
光　専　寺
仝光ケン寺後ロ
桶職李右衛門

隈府提灯屋嘉作方仝居
奥村　源平
矢谷
淵上　順平
上黒村
リョフシ　甚兵衛
隈府竹尾小路
新　十
仝堂園小屋
板江原　峠
枝内　七又里
程野　尾竹

川原廣川是ヨリ日田道ヲ尋ル、

今般陸軍大将西郷隆盛外二名上京ノ次第ハ兼テ御届申上候通リニテ、既ニ去ル十五日当地発程致候、尤通行ニ付テハ曩ニ各府県令・鎮台エ通知致置候、熊本ニ於テハ未前ニ庁下焼払、剰へ通筋川尻マテ押出、砲撃ニ及ヒ候旨追々報知有之、実ニ意外之次第ニ立至リ候、然処彼地へも去ル十九日当県征討之命被仰出候哉ニ相聞得、何共恐

入候、併西郷大将儀ハ先般辞表差上以来県下ニ於テ学校ヲ開キ、忠孝厳粛ニ致謹慎候、且数万ノ士族自費ヲ以テ学校ヲ開キ、忠孝ヲ重シ諸生ヲ教導シ、第一方向ヲ誤ラサル様勤テ説諭シ、已ニ佐賀ノ暴動、曳続キ熊本・山口同断之節、県内安静終ニ一毛ヲ増セサルハ全国ニ明瞭ナルコトニ候処、何等ノ嫌疑アツテ、大久保利通・川路利良ヨリ私怨ヲ以テスルカ、容易ナラサル国憲ヲ犯シ、暗殺ノ内諭ヲ下シ候儀実ニ海外ニ対シ、乍恐政府上　御失体ト奉存候、尤随行ノ者共銃器・帯刀ヲ以テ、途中保護ノ儀ハ暗殺ヲ命セラル、程ノ者、無異儀上京不相遂ハ勿論ノコトニテ、不得止於下官モ聞届置候、就テハ愈当県征討被仰出候上ハ県官且士民ニ至ル迄御征討御趣意ニ被為在候哉、夫々無名ノ恥ヲ蒙ラセテハ鹿児人民ト雖モ皆王民ニシテ政府ノ命令ヲ不奉者一夫モ無之候得共、何分士民挙テ動揺ニ立至リ候間、至急御勅諭被成下度、尤西郷大将ノ趣意致貫徹候様、御処分被下度、此段愚誠ヲ以テ奉願候也、

明治十年三月三日　　鹿児島県令大山綱良

征討惣督有栖川殿下

追テ去ル廿八日付ヲ以、太政大臣殿ヘ同案ヲ以テ願出候、

三月八日写ス、

一今午前四時比、拙者亭主実兄町人松野次右衛門帰着ニテ、帰掛旅宿ヘ立寄直噺承リ、夫ヨリ次右衛門儀ハ五分署并ニ戸長役所ヘ出頭いたし候、

一当郷士族樺山氏・半成（春）氏両名も同時頃帰着之由にて、決て役所ヘ委儀も相分り候半と相考、今朝未明出頭候処、此両名ハ次右衛門ヨリ後立ニて当郷出立、熊本戦争場ヘハ可程滞留之由ニて次右衛門丈ケハ委儀不相分、次右衛門儀も戦争場始終周旋いたし、殊ニ大小荷駄方四役場方病院等も追々通行ニて大小荷駄方又ハ四役場方実説聞届、又ハ現実之届次第承リ、左ニ記ス、

熊本城内并城下市中辺焼失之由、去ル旧七日ヨリ燃出し十日迄燃通し、依て十日暁ヨリ加治木組一隊・一番大隊繰出相成候得共、何分焼中にて方角不相知ニ付、此方ヨリサクリ銃発候処、直様鎮台ヨリ砲発いたし、夫ヨリ表口ヘ進撃、戦争相成候処、敵方大砲、味方小銃にて極難戦、味方手負・即死等有之、彼是混雑にして暫時少々退引、遠間を以、及砲発候処、五番大隊川

尻ヨリ上陸にて直ニ駈付、三大隊ヲ以攻撃、夫ヨリ追々分隊の儀も駈付相成、当分城エ囲相成、城後の方八幡山・紅葉山といふ両山あり、此両山台場等築立大砲相成、小銃発ハ稀成候、

一肥後兵追々増兵いたし大勢相成、当分凡一万といひ十二三の童子ニ到る迄のよし、

一肥後兵の内五百名余、豪雄の士従前刀術に秀たる壮士一組、鑓ハ不携、刀ニテ二手に分れ、弐百五拾人位も切入度、先鋒願出候得共西郷氏許下(可)無之由、乍然此城落城無疑ひ候間、兵相損候てハ不相済事と先生指令の由也、

一植木(筑後境の由也)エ有栖川宮小倉鎮台引率ニテ襲来、此方ヨリ出張及戦争候処、此方勝利の由、未手負・即死等ハ不相分候得共相応成戦争ニ候得共、終に敵方散引の由也、

一高橋口ニても戦争相成候処、是も勝利ニて敵方五百余名戦死・手負等為有之由也、

一山鹿ニテも同断、是も勝利也、

一肥後ヨリ兵粮之儀相続候由ニて一統町人・百姓ニ至迄、私学校ヒイキとの咄也、町中其外鎮台ヨリ焼払候故一統鎮台を皆殺にする志あるとなり、

一肥後旧知事公ヨリ、大砲三挺并米壱万俵程被差出候由也、

即死　久保田藤右衛門
深手　野添居住　野間口源太郎
浅手　平佐　田邊彌右衛門
浅手　脇元　松木直太郎
浅手　大河内　北原善助
浅手　大河内　野崎平右衛門

右出水手負・戦死名前

右人数手負・即死の由也、加治木・國分一段手負・死人多く候由也、

右之一条治右衛門咄又ハ戸長所ニおゐて承候次第ニて、小荷駄辺エ税所何某とやら、又ハ伊東十郎左衛門方ヨリ聞届、実説之由ニて、一先御報知申進候、猶近日落城次第、相分候ハヽ一々御報知可申進候、当分ニてハ味方勝利ニて候、恐惶謹言、

新二月廿六日

宮之城正副戸長御中

三月四日

一貴島清千三百人を引率し、宮之城の様ニ出兵のよし、

川路の兵相迫候風説も有之候得共虚説也、豊後路を経て小倉辺ヱ出候半との風聞也、

三月六日　旧正月廿二日

一今朝春日艦入津候得共、直ニ出帆いたし候、

但右松乗込候処、乗頭は後迫之伊東次右衛門ニて、集成館の機械を取に差越候由、夕方集成館ヱ四五人参リ、集成館の人数は惣て相はつし、要具は格講(護)いたし、門を〆切置候処、垣を越内ニ入、門を明ケ、要具二品位取候て又門を閉チ本の垣ヨリ出候よし、

三月七日

一夫卒二百人余肥後ヱ差越候、肥後ニて雇候得ハ賃銭殊之外高料なりシよし、夫卒共少も不承(不精)からす、挙て差越候よし、其後も余多差越候、在夫ハ壱人ニ付弐千貫文又ハ三千貫文位も取リて差越候、此節出兵ハ殊之外進ミ立、銭を出候事も戦地に趣事も嫌宜なく勇ミ立候由、

一今日蒸気船弐艘入津、十字比春日艦と共に出帆いたし、人々疑惑を生し候処、午後二字比八艘類舟ニて蒸気船乗入、其内壱艘ハ白塗ニて磯の前へスット乗込候、其外ハ蒸気を立、そろ〳〵乗込居、夕方惣て碇泊、

但拙者も直ニ大門口竹迫所ヱ差越候て見物いたし候得共、異変無之候、市中其外騒動、諸道具を近在諸所ヱ運送、大騒キ云々、

一奈良原幸五郎上陸いたし、外ニ佐土原侯も被乗居候由、

三月九日　旧正月廿五日

一今日承候得ハ　勅使ニテ柳原前光といふ人ニて候由、

但右松五助舟ニ差越候処、柳原にハ不逢、二官の花房何某殿へ対談、此節ハ薩摩の父子ヱ御用向有之、全ク県庁の用向ニてハ無之、併暴動之儀無之様此方ヨリ台場之大砲等へ釘を可打候間、左様相心得候様、尚追々依頼之儀共可有之、宜相頼との趣も有之候由、五助ヨリ挨拶ハ委細承知仕候、尚又此方巡査抔へ申付取締可申付旨為被申由、

但戸長にも分署ヨリ帯刀の一条依頼相成候事、

一知事公夕方御壱人　勅使の舟へ御出、直様二丸へ御出候由、

三月十日　旧正月廿六日

一今日十字ニ勅使柳原前光其外護衛の巡査弐千人余上陸、勅使ハ長崎武八郎所、本営ハ重久佐次所、其外兵卒等

ハ黒木跡学校所、旧客屋廣口女学校ニて候、諸所番兵嚴重ニ相堅め候、

但二丸公ェ舟ェ御出可被成旨御達相成候処、足之痛ニて難能出段御答相成候付、勅使上陸之由也、

一昨九日の晩角の倉、其外銃薬等惣て取出、諸所ェ格護相成候、

一県庁へ四五人参リ、令(県令)へ取逢暫時すると警察課へ差越、直ニ牢を開、拇印の輩廿一人相請取、兵隊警衛直ニ舟ェ乗せ付候由、

但東京の巡査兵器を携へ諸所を堅め、勿論県庁内をも相堅め、其外諸所多人数巡邏いたし候、

一今日九字十二分ニ勅使柳原二丸へ被参、兵隊門を堅め候、

勅書ノ写

鹿兒島県下逆徒熊本県ニ乱入、　朝憲ヲ蔑如シ、官兵ヲ抗シ悖乱ノ挙動ニ及フ、朕既ニ征討ノ令ヲ布キ、二品親王有栖川熾仁ヲ以テ征討総督ト為シ、進発ヲ令セリ、汝久光実ニ国ノ元抗、朕カ素ヨリ信重スル所、今特ニ議官柳原前光ヲ遣シ朕カ旨ヲ諭サシム、其レ爾誠意ヲ致セヨ、

依テ二丸公勅書ノ御受書

今般御勅書ヲ以テ被仰渡趣奉畏候也との御文面にて候由、

一御嘶の序に勅使柳原、二丸公ェ此節(暗)闇殺の一条ハ全ク空ら言ニて侍ル、糺明稠敷其責に堪へかたき所ヨリ無余儀為申由被申候処、黒田了介傍ニありて実ニ左様に御座ります、殊之外拮問甚しき故に為申由ニて寔ニ其通りと申スやいなや、公之を御聞なされ膝御立直し、為ニ黒田左ニ之はあるまし、野村には百円の旅費をも貰ひ自訴したるは責の稠しき故かと其御声の烈しき、其勢ひ阮に拍にかゝらん程の勢ひに恐れ、黒田めは頭を畳に付、左様に御座ります、甚た恐入ますと一言も無之、柳原も不覚頭を下ケ、実に其通ニて御座候との挨拶ニテ候由、黒田には最初ハ御言葉も宜候処、其時ヨリ臣下同前の御言葉ニて候よし、

但跡にて御笑被成孫の様なる者共ヨリなにたまさるゝものかと被仰候由、御気象実におもひやられ候、

一其当日、竪山八郎ェ中ノ馬場ニて逢、此人の咄ニ黒田了介・折田平内も随行ニて此席ニあり、何もうつらぬ体ニて何事ニて騒々敷事やらぬ、両人の首さへ差出候ハゝ是程日本ハ動揺いたすましき筈也と申けれは、八郎返答に、夫は甚た心得違ひならぬ、日本の大将とい

ふ者ハ私怨を以、暗殺抔といふハ実に世界に対して日本の恥辱ならぬ、左様の事ならは双方明らかに断判し理非を可被決処也、暗殺抔といふハ実にあるましき事也といひけれは其事は確と返答無之、諸藩に勅令有之候処、凡十七八大隊も九州エかかり候由、大久保か手を問ひけれは大久保は西京に、川路はといへは川路は大坂にと為申由、

一先般布達ニ及ヒ置候中原尚雄等口供之趣ハ上申ニ及ヒ決議ヲ相待候処、其際ニ当リ、西郷隆盛以下之者共上京ノ途中既ニ征討被仰上候、然トモ中原尚雄等口供之趣ハ尚其筋ニ於テ糺弾ヲ経、至当之御処分有之ヘキ為メ、今般勅使護衛ノ巡査ヲ以テ上国ニ護送セラレ候条、管下人民深ク此意ヲ了知シ流言浮説ニ惑ハス、各々安堵可致、此旨相達候事、

明治十年三月十二日　　鹿児島県令大山綱良

三月十一日　旧正月廿六日(七)

一県庁内の牢舎残り之捕縛人も惣て舟へ乗付、諸人惟然(恰カ)為申、

但川上直助・鮫島八郎・頴娃の某ハ本営ニ預りし由、

三月十二日　旧正月廿八日

一今日午後三字ニ勅使柳原出帆、類舟一艘、都合弐艘の由也、

但令も一緒に上京のよし、ウルイースも同断のよし、捕縛人長崎にて裁判ニかゝり申分無相違よし、夫より西京へ差越評判有之候得共、いまた慥成報知無之、皆々いかゝと申事にて候、四月二日の評判也、尤長崎にての裁判人は和田八之進にて候、八之進ハ兼て建白等もいたし、中々大丈夫の男と聞候処、月給には心を動かす人心量りかたきもの也と藤井某の咄也、此事閏四月十日聞、

一奈良原幸五郎抔も此舟ヨリ差越候由、

但二ノ丸公、幸五郎ニハ此節ハ不遣と被仰候得共、逃ケ隠れいたし差越候と風説有之候、当分評判甚た不宜由にも可有之候半と申事ニて候、

是より諸人の書状并風説等記ス、前従不束也、

小笠原嘉左衛門、今廿六日帰県、彦七直ニ承候(二月廿六日)、十年二月廿二日肥後川尻駅ニ於て双方斥候出会、鎮台方の兵は方角を取失ひ候欤狼狽、敵味方不分切捨、壱人ハ逃去ヲ捕縛イタシ候処伍長ノ由、鎮台方の手配等糺方の

上絵図迄も為認候上切捨ニ相成候由、其形勢熊本ニ押寄
城郭を取巻、未大砲不相打内、此方ヨリ小銃ヲ城中ェ打
込ミ、城内ニハ破烈等打出戦争ニ相成、此方破烈ニて手
負七拾人位、内即死両三名之由、名前不相分、手負之由
ニ三白村医ニ承候処、死命ニハ拘る程之儀ハ無之との見
留候由、
一廿四日正午時分迄双方砲発イタシ、昼過ヨリ城内応砲
を止メ、此方ヨリ小高き地形の処ヨリ、小歌気前ニて
城内へ打込様ニて由、
但其内城内へ火起リ、定て物議生るとの風説、
一市中焼払ハ三日前ヨリ大砲三発放火ノ相図イタシ、夫
ヨリ火矢を打込ミ川ヨリ本町ノ方都テ焼失ス、風不相
立漸々両日燃る、
一鎮台内天守ニ粮米放火ニて都テ焼失ス、
但鎮台兵物議の所ヨリ出火欤、此内ヨリ番兵逃去ニ
付、当分の処矢来柵木ニテ逃去者を止ス、
コノ一条不相分
一用意の粮米為有之処、市村共人家相放、一統聞円メ、
内外ニて無拠相成候由、
一海軍ハ天草の地へ五六艘碇泊イタシ、一艘熊本地方ェ
乗入、端舟ニて上陸ノ処、肥後兵案内ニて此方ヨリ不
残打取、再ひ同断之処、是又同断ニて端舟迄も取揚タ
ル由、
一廣島鎮台ヨリ二大隊応援ノ形相聞得、村田三介相応シ
候賦ニて、斥候植木迄差出、宿手当ノ処、彼方ヨリも
同断ニテ互ニ引取、隊中ニ相告ク、直ニ進撃相成、双
方行逢、則砲戦彼方ヨリも操出之手数迄もイタシタル
処、終ニ此方ヨリ切入散々ニ切崩シ、敵ハ山鹿迄逃退
クヲ追掛切付タル由ニて候半、敵方ヨリ相助ケ引取之
由、敵ハ二大隊、味方は一小隊ニテ潔キ美事ノ大勝利
ニテ銃器等分捕、
一肥後兵隊ノ儀も大方浅黄紋付羽織・裁付・脚半・鉢巻
ニて銃器無之、長刀・鑓等ニて間々城涯へ声を掛操寄
る形勢也、
一只今ニ相成、久留米・阿蘇ェ肥前其外追々人数繰出候
由聞得、薩州勢ひハ勢ひ如破竹、
又二月廿八日
前文略ス、然ハ小生共今十九日午後五時当駅ェ着、止宿
仕候処、同九時欤福島善之助外壱人参、兵御地去ル十六
日出発、熊本某への一封持届候命を達し、本田該地へ罷

越候処、正午比ヨリ台営并士族屋舗ニ三部一位鎮台ヨリ放火ニ及ヒ、某宅ヘモ焼失、市中大騒動ニて何方エ尋参る手段も無之、殊ニ台営〇〇ヲ初め市中諸所相堅め、其上大政大丞ヨリ之電報ニて、鹿兒島士砲剣を帯通行暴動ニ付、征討被仰出たるの掲示有之、徘徊ニてハ捕縛ニ逢外無之形勢ニ付不得止引返候旨申聞候、小生共小川出立、途中ヨリ大放火ハ見聞いたし、当駅迄罷越、探偵方夫々手配も致候内、熊本士族平井直信・水俣行信と申ス両人旅宿ヘ尋来、熊本景況逐一接出ニテ名義ノ有所ニ決死致度志にて罷越候旨致承知、鎮台兵討戦用意之次第も善之助其咄ニ相違無之候間、善之助御用之義も今更急にも運ひ難ク、当駅ヨリ直ニ帰県之段承届、実ニ無余義次第ニ御座候間、其後不取敢申上候不知承可然御申出右之趣致度奉存候、此段早々以上、

二月十九日夜午時認

長野　釼　折田常護

福島　嚴　上村行實

追伸、別府晋助隊今夜小荷駄ニて、明日当駅到着之筈、同隊小荷駄方河野四郎左衛門〇〇〇加治木八九名追々当地ヘ当着之由、手当候処、当駅ハ勿論、宇土市村共鎮台ヨリ放火との風説ニて候、荷物迄も不残相運ひ不一方騒動、明家の如く相成、一軒の宿さえも容易ニ難行次第ニて、兵隊・兵粮等都合甚以心配之至ニ御座候、就てハ我々共ニおゐてハ、右時機ニ際し不及なから何廉尽、大略具伸仕候て、当景況善之助共ヨリ御聞取可有之候、三伸、平井共儀ニ同士四百名程有之、鹿兒島兵隊の挙動ニ依リ進退相究、〇〇相心得候趣ニ付、景況報知旁別府宿陣迄ハ差越申候、又巷説にハ福岡士族起リ上下事、又警視庁巡査弐百名計不日熊本ヘ参着之筈、廣島鎮台兵ハ小倉ヘ、大坂台兵ハ廣島ヘ繰入相成、城内にハ地雷を埋め、万一の用意ニ備候由、鎮台におゐてハ、谷少将ハ必死決戦ニ候得共、士官・兵士之内半は異論ニテ候由、尤横山は別に見込ありて県士を募るとの風聞あり、県庁は本妙寺ヘ、裁判所は近村ヘ退散之由、

横山彌兵衛今朝帰県之一左右二月廿八日

一此方の兵遣事無限、

一日々彼の兵共ハ千人位も捕縛、

一当方番兵ヘ紛れ居候者有之、しらへ候処、彼官員ニて、密ニ兵粮買入方ニ出候儀ニて金千円差出ニて、直ニ捕縛、城内日々差迫候由、

一有栖川宮九州の南之關迄被差越候、
一山鹿迄ハ此方進撃相成候処、銃砲弐拾挺入拾八俵・米蔵四ツ分捕候由、
一廿八日山鹿ならぬ戦争ニ野津七次を生捕候由、
右人々の噺を聞ク、
一二月廿六日(旧正月十四日)後迫の矢野某帰県、本田某の区内にて届出、拙者ニハ諸生ニて出京いたし居候処、先比巡査被仰付、去ル十日出立ニて佐賀県へ六百名差越候処、同所へ薩討の命令相下、諸県へ渡をいたし候様ニとの段を承り、薩州ニ於テハ御鴻恩を忘るへきに非すと考、手帳ニ帰県を記し打捨、間道を経、天草へ出、漸く罷帰候旨申出候付、直様二分署并ニ県庁へ申出、本田と藤井周旋いたし、令直(県令)ニ聞届、則矢野を肥後エ被遣候得共、肥後ニてハ兵隊ニ不合由ニて則帰県相成候由、
一二月廿五日肥後ヨリ追々報知到来、寺田宗之丞ニも帰県之由、廿二日三日四日戦争、鎮台兵終ニ城中へ追込取迫候得共、鎮台兵は大砲を打出、夫故百余人手負、戦死等も有之、此方ヨリハ小銃掛ニて届兼、先手ハ石垣の下へ詰掛、もはや切入計と相成居候由、地兵は惣て此方へ相付候得共、何分銃砲所持不致候付、切込場ニ相成候ハヽ、いつれ先手可被仰付旨相願候由、既ニ藝州鎮台ヨリ応援を相待候機会相知、一小隊防禦の為遣候処、植木の宿ニて出会、敵は二大隊なれとも打散しいたし候由、右通注進有之、廿五日晩県庁附近ニて銃薬・兵粮等繰出有之候由、
一廿九日晩中島源との被参居、八字時分県庁ヨリ問合申来、則出県相成候処、当晩直ニ横川表辺人馬差引ニ被遣候よし、
但其晩の噺ニ、最早出兵ニて大口表へ人馬差引ニ差越候、現夫賃銭払取調ニ明日差越候との咄も有之候、

此人飛脚ならぬ
山本仲右衛門

十年二月廿二日午前七時熊本県内川尻へ当県出兵行軍の処、先手斥候隊へ熊本県士ヨリ内密通知の趣、鎮台行路諸所エ地雷火設置有之候間、行軍之際深々注意有之候旨報知ニ及ヒタル末、前記川尻ニおひて鎮台より番兵繰出居候処、行軍ニ相抗し砲撃ニ及ヒ候付、直ニ薩兵相応し進撃候処、一時ニ相破リ鎮台兵ハ狼狽散々、兵卒を捕縛、一々明白ニ申出たる由、

三月廿六日左之通聞、

一十九日迄薩兵戦死弐百八拾八名、手負千百拾七名計、敵戦死壱万弐千三百名、手負数不知、

一植木・山鹿の戦、敵大将討小銃三百十分捕、錦旗・馬六疋、川尻戦、米六万石・油三百斤・七部(分)板壱万二千間、

一南ノ關本営三月十四日十五日十六日戦、乗取金六万円、同所病院手負皆焼殺ス、

一城内米壱万石、肥後旧藩ヨリ焼テ少々残米有之候と云、

一一ノ天守・二ノ天守焼ル、三ノ天守残ル、

一子年中上納金并税金等薩州本営へ相納候事、

一水俣沖エ舟六艘掛リ佐敷エ上ル、

一(日奈久)ヒナク宮ノ石山小川東兵相来候処、廿日ノ日四千百人薩兵肥後ヨリ来リ、都テ切崩ス、

一八代東兵本営

右之通戸長役所ニて聞、

一十二日三月山鹿の内城村敵ヨリ進軍、味方は我隊并四番・十五番ノ二外ニ一小隊ニて戦争勝利、針打銃等余多分捕、敵方死傷・味方死傷拾八名、其内戦死三人、傷数不知、

一十三日向坂と云所エ敵ヨリ惣掛、大砲交リニて味方ハ台場ニ引受交戦大勝利、死傷不知、味方ハ弐拾九人之内五人戦死、味方砲台死傷なし、

右両日の戦ニて敵は南の關迄敗走の風聞、

右本田彦兵衛戦場ヨリ三月十八日報知、

一日奈久辺エ巡査兵上陸候処、同所番兵人数寡少故、難応小川迄引取、敵ハ跡ヨリ追掛来る折、味方応援隊来会し、直様進撃候処、悉逃去敵方相応死傷為有之由、味方ハ長追ハ伏兵の恐も難計迚、夫成八代ニ相囲居候、其節飫肥の住人通掛実場の報知と申事也、

但此巡査の兵鹿兒島退艦の巡査ならぬ、

一肥後協同隊の内ヨリ間道を越来ツテ報知せしとの咄、

一十四日夜ヨリ十五日迄田原坂辺戦争、味方惣追軍ニて相掛、敵の大砲を横打ニ仕掛シヲ予メ見取置、味方敵の後に迫り交戦に及ヒシニ三ケ所の台場乗取、大砲八門、或ハ六門トモ分捕大勝利ヲ得、味方死傷纔か百余名ニ及フ、敵死傷引揚る分四百余名アリ、貴島隊も其日出ルと云、

但分捕の大砲ハ即日植木に運送せし由、此日の戦争ハ味方の兵五千程といふ、連日戦争絶スト云へ共

此日の大挙ハ実に大合戦ナリト、追々報知少なからす、三月廿日写ス、

一三月廿一日八代の内鏡といふ所へ蒸気船九艘ヨリ卸タル敵兵三千人と評判ニ候得共、現弐千人位も上陸ノ処、味方二小隊ハ鏡の藏元と云所ニて出会、則切込、直ニ敵兵四百名位打取、味方ノ兵則(即)死拾六名、手負三十人位にて、夫ヨリ敵ハ宮ノ原へ引揚、味方の勢も少人数ニて松葉瀬迄引揚ル、其節隊長堀何某の由ニて、則川尻本営へ掛合五小隊を以宮ノ原へ進撃、昼夜砲声無絶間、手負・死人不相分、敵兵山手の天神と云所ェ又引揚、味方追掛昼夜戦ひ、敵の方火の手揚り、其内天草小船ヨリ帰りと云、

右出水士族池田保助・大井彌一郎・前田助太郎報知之由ニて、三月廿四日罷帰、報知の由とあり、

三月廿六日写ス、

三月十一日西郷氏肥後ヨリの書状

追田隆藏外ニ一名御遣被下、来船の次第致承知候、自然事柄分兼候得共、彼方策も尽果候間、調和の論に落る欤、畢竟敵方におひて熊本落城不相成候てハ当県蜂起可致候間、全力を熊本ニ相尽、於此方破れ候ハ、、もふは致方なく夫切に策相立候儀、慥ニ聞得候間、則彼の策中に陥り此籠城をハ死場にいたし、四方の寄手を相決し可申、地形と云、人気と云、実に其所を得候故、我兵も一向此所に申越尽候処、既に戦も峠をやり過六七分所に打付申候、今や孟発有共再ひ戦い勢を守返し候期有之間敷候、余程敵の兵気挫け候ニ付、油断為致候てハ又一策を廻候ハ、目算にハ相違無御座候間、決て狸にたまされさる処肝要の事に御座候、征討総督の令書先日差上置候、全ク暗殺を打消候趣ニて戦を幸ニいたし候向ニ相見得、可悪の巧ニ御座候、然る上ハ何分曲直分明ならされハ鎮撫もへちまも無之、断然条理に不戻候処、御尽力可被下候、最初ヨリ我々共ニおひて勝敗ハ論候儀ニてハ無之、条理斃れハ思ひ込事候間、能々其辺ハ御汲取被下候様偏ニ念望いたし候也、

三月十一日　　西郷吉之助

大山綱良様

追啓上、別紙当県の兵隊、協同隊ヨリ探偵差出候処、探得候形行申出候付、差上申候、太(大)概御方探偵と同様御座候、久留米・柳川・肥前辺ヨリ追々報知有之候、高瀬・南關口の惣軍凡壱万千人、其内近衛兵弐千を三好少将之

を卒(率)ス、高瀬口に激戦、凡十分の六ハ死傷アリト云、

一巡査五百名計兵隊配賦セリ、

一山鹿ヨリ久留米エ間道松越と申所に千五百計出張、要所にハ地雷を設ケある由、三好ハ高瀬の戦ニ手を傷タリト云、福岡県ヘハ新潟鎮台千人も出張セシノ処、両三日前少ツヽ繰出、凡弐百名計佐賀鎮台の為出張巡査百余名も南關へ趣(赴)きタル由、

一七日比の咄ニ全軍の死傷六千に及候由、畢竟鎮台兵戦を畏れ戦死(地)に趣く由、各自ら傷つき戦を免るの策をなすもの多き故、左手を傷ツきタル者莫大なりと云、

一本病院ハ久留米にあり、其外高瀬・南關仮病院アリ、

一高瀬ハ負傷ハ都て舟ヨリ運送スル、

一九日高瀬川口ヨリ筑後へ廻シタル舟五艘、一艘ニ四五十名乗リタルト云、

一彼の軍勢も日々萎靡し、南關の本営抔ハ近日に至り警備を厳ニする模様、道路の風説にハ最早五六日を経ハ、東軍敗走疑なしと云、両筑あたりの人民ハ一統南關の勝利を祈らさるものなし、

一東軍ハ頻りに偽説をなし、鹿兒島の兵ハ三四千の烏合ノミ、西郷大将と国の勢焔を談せさる者は路人といへとも縛せるよし、

一野津ハ南關ニテ馬上ニテ足に傷を受けタりと云風説アリ、

右ハ高岡の人高木新二郎なるもの久留米地方へ遣候て今朝罷帰、探偵之趣ニ御座候、

三月十一日　協同隊

三月卅一日官兵之間者八代ヨリ水俣へ来り同人ヨリ聞取の話シ

一官兵軍艦ヨリ隊長江口榮二郎(湯ノ浦平バ、産)四百五拾名を率シ、佐敷エ上陸、其内弐百五拾名繰出、ツゲ(告)(球磨道)ニ陣取候処、岡之上に薩兵三四十名顕れ、間もなく八九名進ミ来る模様ニテ敵対難致との事ニて、俄ニ喇叭ヲ吹立、日奈久・佐敷両道より落去る、佐敷ヨリも八代本営へ落集リ候由、此兵ハ皆帯刀之由、

鹿兒島県

其県士族陸軍大将正三位西郷隆盛・陸軍少将正五位桐野利秋・陸軍少将正五位篠原國幹徒党ヲ集合シ、悖乱ノ挙動ニ及ヒ候ニ付、官位被褫候条、此旨相達候事、

明治十年二月廿五日　太政大臣三條實美

行在所達第六号

各官庁

鹿兒島県令従五位大山綱良儀官位被褫候条、為心得此旨相達候事、

明治十年三月十七日　　太政大臣三條實美

一城の山、藤田・濱島・兒玉カ地面本営ヨリ借地相成候由、移方ニ付夫賃等甚た込入候段申出候処、県へ申せと言捨、其段県へ申出候処、廿円ツヽ相下候由、

一右松　松元　今藤　蓑田　三浦

右昨日舟ェ差越候処、如何様差留候也、于今不帰候由、

一東兵大口筋の様二小隊位、宮崎之様三小隊位差越候やニ評判、

一兵卒七八千人、夫卒共壱万四五千と申事候得共、兵夫共々七八千位ならんと申事也、

一旧御春屋辺へ屯集の兵隊の所へ昨夜不思議なる事あり、兵隊計見へ候テ外ニ不見得、夫故小銃三四発打チ候テ、大騒キいたし、隊長ヨリ気を付〳〵と声かけ候処、町家の者共は火をかけよと聞誤りて又騒き立、後ニハ大物笑ひニ相成候由、しかれとも兵隊の目には奇妙なる事に見へしハ何とも不思議也と専ら風説之由、新集院の伊左衛門カ咄也、

一八代落城相成、其後又一戦有之候へとも、是も打散しニ相成候由、竹迫實か咄也、

鷲尾子ノ上書

維新ヨリ身ヲ国家ニ委シ、大勲ヲ奏セシ臣多シト雖トモ、中就テ西郷隆盛等数輩ノ士在ル有テ、撥乱反正遂ニ維新ノ偉業ヲ翼賛シ、以テ戊辰以来過当ノ恩賞ヲ蒙リ、深ク感荷ニ堪ヘス、爰ニ前ニ鹿兒島県下ノ暴徒征討及ヒ西郷隆盛等位記褫奪ノ大令ヲ謹承スルヤ、実ニ隆盛暴徒ニ党スルヲ知ル、此何ノ深意ノ有テ然ルカ、蓋シ其源由ノ有ルナラン、臣素ヨリ之ヲ知ラス、然リ而シテ今ヤ党々タル官軍之ヲ一撃ニ扑機スルハ掌ヲ指スカ如シト雖トモ、倘シ曠々弥久敷旬ヲ経ルニ至レハ、彼我共ニ数千人ノ死傷アルモ又未タ計ルヘカラス、然レハ人民憂苦ハ論ヲ待タス、闔国ノ元気衰乏ヲ如何セン、暴徒ノ輩他日至当ノ処分アルモ、等シク是同胞兄弟（ケイ）ノ数人ヲ斃スノミ、誠ニ遺憾ナラスヤ、此ニ於テ隆聚庸愚不肖ナリト雖モ、身命ヲ国事ニ委シ、直チニ該地ニ赴キ、島津久光ニ協議シ、

西郷隆盛ニ面接シ、暴徒ニ党セシ源由ヲ尋問シ、其論スヘキハ之ヲ論シ、其匡スヘキハ之ヲ匡シ、其審決スル処ヲ具状シ、然ル後チ隆聚別ニ裁下(可)ヲ仰クモノ有ントス、是固ク不肖ノ企及フヘキ所ニ非ルカ如シト雖トモ、聊カ上ハ宸禁ヲ安ンシ、下ハ人民憂ヒヲ救ヒ、浩恩万分ノ一ヲ報セントスルノ微衷ニシテ、隆聚生涯ノ懇願ナリ、乃チ懇願ノ如ク允許アラハ、幸甚ニ自今焦眉ノ際至急何分ノ拝命ヲ待、誠恐謹言、

第五部華族

明治十年三月十日　　正四位鷲尾隆聚

宮内卿徳大寺實則代理

宮内大丞山岡鐵太郎殿

一今般勅使当県ヱ臨降、逆徒征討被仰出候ニ付テハ、右党類ノ者共潜カニ各道往来致候儀も難計候付、一層取締厳重申付候条、万一類似之者有之候ハヽ、取計之上拘引致シ、姓名・住所等細詳取調至急可届出、此旨相達候事、

十年三月十日　　大書記官田畑常秋

右ハ布告ニハ不相成、区長抔ヘ相渡候半、察ル所巡査を余多召入策ならぬ欤、

三月十六日

一大久保抔カ徒ヨリ、魯亜ニ過分ノ金ヲ出シ薩討ヲ託(托カ)シ候処、受合イタシ候風説有之候、

三月十八日　　旧二月四日　（衍カ）

三月十八日　　旧二月四日

一支那季(李)鴻章旗下ヘ申付、軍艦五十艘ヲ以テ我官(管)下琉球鎮台ヲ打破リ、夫より日本横濱・長崎両所ヲ指シテ出艦セリ、

舟主季貞昌ト云者ヨリ聞ケリ、

右外国人ヨリ為相知候由、右今日入港赤龍丸ヨリ相知候半、赤龍丸乗頭□ヨリ井上新右衛門直噺ニテ琉球鎮台ヲ打破リ、軍艦弐艘ハ長崎ヘカヽリ候由、

但琉球ヨリ操船弐艘ヲ以、山川迄差越居候由、今日詰所ニテ聞、実らしく相聞ヘ候処全くノ虚説なり、

一今般政府妄リニ暗殺ヲ謀リ、自ラ国憲ヲ犯スノ罪有之、尋問ノ為西郷陸軍大将外ニ二名衆ヲ帥ヒ此ニ至ル、然ルニ当県鎮台名義ヲ弁セス、誠ヲ防害ス、其罪甚シ、（城ヲ閉テ逆ヘ拒キ、人民ヲ妨害ス、）

我衆憤怒シ特ニ日ヲ刻テ城中鑿ニセントス、然レトモ曖昧脅徒輩其情憫ム可キニ在リ、諸口々前非ヲ悔ヒ、兵器ヲ捨テ来服スル者ハ必スシモ其罪ヲ問ス、且山鹿・高瀬諸道ノ東兵我悉ク之ヲ撃破ス、各県義兵ノ起ル蜂巣ヲ破ルカ如シ、然ルニ公等猶狐城ヲ守リ糧竭、援絶ヘ危キコト瞬息ニアリ、公等其レ速カニ向背ヲ決セヨ、

別冊口供書記

薩州陣中

城ノ後口通路ニ文字大ク書記高札掲示ス、

右三月十八日諸所ニテ書写ス、

一西郷・桐野両所へもはや軍は止候付、安心すへしと申来候由、殊ニ桐野所へは何某の医師態々呼へ来リ、祝ひの酒迄も呑候由、富山氏の噺也、

三月十九日　旧二月五日

一三月十四日・十五日両日大合戦ありしよし、しかれは前条西郷氏抔か書状とは齟齬いたし、又城は抑への兵を置、進軍相成候由、然は応援の東兵来りしならぬかいまた不相分候、い勢平右衛門肥後ヨリ帰県ニテ咄の由を聞けり、

三月廿一日　旧二月七日

一龍乗(驤)艦今日入津、筑波艦は廿二日ニ出帆、十五日位ニテ交代のよし、

一戦死遺髪廿日より今日迄戸長役所へ相届候、戦死名前に余り多故記さす候、

但三大区エ廿人余、一大区エ三拾弐人位、二大区ハ多く候由、凡百人余ならぬと云事也、三月廿二日記、

三月廿三日　旧二月十日(九)

一十四日・十五日ノ合戦ハいよ〳〵の事ニテ、瀬高の内ニテ三ケ所の敵を敗リ□□坂は纔か一小隊ニテ死骸不引揚、敵三百弐拾四名手負、死人九百何十人程ニテ候由、味方ハ戦死八人手負共ニ廿余人ニテ候よし、

一昨廿二日晩、上之原の郷田源右衛門所夜九字比ヨリ十二字比迄男女押入、家屋を打毀り、其烈さ中々脇ヨリ取抑る事も不相成程の勢ひ、忽ち打砕き門の脇の物置ハ、米拾俵位も有之候半、惣テ乱俵ニ相成道路ニ米踏ちらし、其外家の内の箪笥(笥)司・長持・鍋・釜等ニ至リ散々ニテ目も当てられぬ有様、言語同断ニテ巡査も跡に通リ掛リ、翌朝戸長の伊集院益秀も承り候テ直ニ見分ニ差越候由、近所の衆も直ニ取抑へに差越度候得共、

中々出る事も不相叶承候也、二分署よりも益秀へ御用談申来、成行承届、何分にも女天狗なれは外ニ仕様もなきと大物笑ひにテ候よし、

但郷田は火巧所掛ニテ先達テ塩硝積へ差越候舟の塩硝才領ニテ罷登リ筈候処あの様塩硝等乱妨ニ付、しか〳〵積入方も不相成散々の体ニテ、決テ登る事あるましと脇よりは相考居候処、出帆之節は乗入罷登候由、郷田源一郎は同家ならぬ馬鹿ものなりと申程の事也、然処於東京は上都合ニテ何欵勤方もいたし、此節右八艘之内ニ乗組宿許へも暫時罷帰リ、夫故上原中殊之外不評判ニテ右次第乱妨ニ逢候由ニ候、

一八艘類舟之内、兵卒日奈久ェ上陸いたし往来を妨け候半、別府晋助(介)抔肥後の様差越候節、日奈久辺ェ東兵多く相迫リ居、通融不相成候故再ひ此方へ帰リ、二大隊程引率し熊本出兵の兵と挾打をする策ニテ廿四日当地を繰出筈の由、別府と邊見十郎太隊長ニテ候由、

但大口には諸郷の兵多く出居、凡七八千位の兵へ相成、五日跡ヨリ銃器・弾薬等探索ニテ殊之外多く差出候よし、いつれも銃器・弾薬等惣テ無代銀ニテ差出候よし、

一去ル廿日殊之外もや相立、四方沁々と日の光りも隠るゝ様に有之候処、比志島・花尾辺は灰降り、木の葉も積程に有之、決テ何処の高山にても燃立候半欵と、手夫の半参り候テ噺也、廿三日戸長役所ニテ相噺候処、伊東鐵右衛門家内花尾参詣にて、右之咄も為有之由、

一中島源殿咄に先達テ八艘来艦の節は櫻島の上に八枚敷位の白旗の様に相見得真直ニ相立候よし、武村より後ろの者共は皆々見候テ不思議也と大に驚き候由、決テ吉瑞ならぬとの評判のよし、

一又の咄に河野玄中殿加治木ェ病人有之被差越帰りの日か、則廿日の日ニテ夕方ニテもやの内に、白天のあひ〳〵と月の如く光りもなく御なり被成、下ヨリ霞の様に自然と覆ひ込み上ケかくれ給ひしよし上からならは悪しく候得共下から右通ニテ吉瑞ならぬと評判のよし、

三月廿五日　旧二月十一日

一兵隊二大隊程

但今日ヨリ二小隊實方紙漉所へ明朝五字集会ニテ大口筋出兵、当分滞泊いたし居候舟ニはゞかり潜かに出張の筋ニ候、隊長別府晋助・邊見十郎太、

但中島源之丞も今日出兵、

右ニ付、昨日午前十字比四役場八拾人程戸長方へ人柄しらへ方申来候処、俄の事なれとも則相掛候よし、

一奈良原幸五郎東艦ヨリ兵卒ヲ引率シ、肥後にて一小隊位を引キ、馬上ヨリ説得のため差越候処、兼テ大久保へ随分の嫌忌有之、幸に乗し鉄砲を打かけ候処、馬ヨリ飛下るを捕へ棒にて打殺候へとて、汝説客の為来るか甚た言語同断なりと一言も不言たゝき殺候由風説、

但なら原は二丸の御方は廃官のやニ相聞得候へ共、いまた家令は持候よし、　公の仰に奈良原は此節は不遣と被仰付よし、しかれとも隠れ忍ひて差越候よし、果テしかり、　公の御見識甚感心せり、

一日奈久の東兵五百名程打取、此方は三四名戦死の由、其余は山ェ逃込、凡弐千位ニテ候よし、此事二丸へ相知候や、河野氏・貴島氏エ被参との噺のよし、

一今夜八字比ヨリ西田の川路か宅を打くやし方手に取様に聞得候、

但其外山下權八并黒江・村上何某、西田の中ノ馬場山下某家も打くやし、又常盤山王下の樋脇か宅も打くやし、今晩一緒ニテは無之、拙者にも諸所見分ニ差越候処、目も当られぬ有様なり、前書の村上は後家ニテいか成稼取にて候や、銃薬なとある所を文通して東兵の方へ為知候よし、女の探偵人ともいふへきもの也、

三月廿六日　旧二月十二日

一今日も大久保の家終日打くやし方有之、拙者にも新集院ニ差越候ニ付見候処、十二三才より已下の子供又は女等交リ散々の体ニテ目も当られぬ有様也、廿余りの女相働き目立候付、女の左様ニするものニテハ無之旨巡査相咎め候処、何をいはるゝ、大久保はいか成る者とおもふはれ候や、夫も戦死、弟も打死せし仇ニテ御座候と打放し、そこに大根のありしを短刀を差て居候や、大根の一ツを切はなし、竹の先に貫き、大久保か首を取たりと小躍せし有様、さなから樊噲か勢ひ狂人の如く見へしよし、実にさも可有之と大評判ニテ候、

一午後三字比肥田川原の樺山覺之進か家をも打くやし、夫より奈良原幸五郎か家を打くやし候よし、

三月廿八日　旧二月十四日

一巡査五百名程被召入筈ニテ、昨日ヨリ取調方始リ、追々申出相成、無勤ノ者は惣て巡査之筈ニ相心得候程の

勢ひなり、夫故六拾七八才の老人迄も申出候処、被仰付候よし、

一紙屋谷の鮫島小吉所外弐ケ所打くやし方為有之由、

但鮫島は実に六りなる事にてよし、子細は弟の財部何某川路か徒になりし故也とそ、小吉は大困窮者にて実に哀れなりしよし、其辺の者共の咄也、

一池の原の諏訪杢右衛門ニも同断、打くやされ候由、

一本山文平は休兵衛嫡家ニテ当分郡山辺の区長なりしか、此節勅使柳原へ随行の高島鞆之介は従弟族の者ニテ往々内通いたし候や、又徳永喜八も共に度々高島方へ差越、舟エも度々差越やの嫌惑を受候や、県庁内夷人館へ御用ニテ別府晋助(介)・邊見十郎太ヨリ稠敷及詰問候得共、不屈、終ニ倚子ヨリ引落し耳しらを履せ物て蹴られ、血流れ候由、終ニ事情寄れ(露カ)候半との説也、実に残念ニテ候事なりと専ら風説也、

但小河(大口市)内ニテ文平を打殺し、死体其儘ニテ候処、烏や犬抔喰寄りかゝり、余り見苦敷故埋め方いたし石を抑へ置候由、四月廿一日小久保子ヨリ聞候、

又帖佐・重留等ヨリも同断の者有之候、凡拾四人ニテ候よし、

又四月九日聞ニ、鞆之介肥後エ上陸いたし、既に大けさ(袈裟)ヨリかけて切られんとする時、咎負候實藏を切落し、鞆之助は漸く逃延候よし、其袋の中へ穏(隠)密の書余多有之、ヶ様の事も有之に陳する事なかれと差出被置候は、文平一言も無之、閉口いたし候由、

一樋ノ口の徳尾矢市郎長男・次男共ニ、外ニ有馬何某、上町ノ池田傳藏(伊集院仲兵衛か弟の由)是も捕縛いたし春山共々大口の様に送り付候よし、終に彼所ニテ殺害いたし候由、大口ニテ都合十二三人ニ相成候由、いまた其姓名を不聞、

一昨日ヨリ今日ニ掛、課々ヨリ年比五拾已下の者共大方警部ニ相成候由、諸所固めへ差越筈候由、

但諸郷々に差入十五才ヨリ五拾才迄五列ニテ、巡査組立相成筈のよし、

三月廿九日　旧二月十五日

一今日巡査余多被召入、転住人弐拾余名被召入、諸郷諸所へ被遣候、

一諸所打毀方、昨日制止布告出候、屹と相止候、

但天神馬場の野村其外有川・寺田、後迫ノ弐ケ所、

外ニも段々昨日打立方多人数中々立居候処、頓と相止、実に運の強き事也と人々申事云々、

三月卅日　旧二月十六日

一日出時分俄ニ掻曇リ、雷明雨あられにて十二字比ヨリ晴れ上候、

但田布施の金峯山三社之内一社、今日御焼失の由、決テ雷火にては有之間敷、当分参詣人余多ニテ通夜抔いたし焚残しの火ニテもあるへきと承候事、

四月一日　旧二月十八日

一重富・今和泉両家明日大有丸ヨリ御礼使として上京、内田仲之介其外両三名御供、長崎ニテ電信を打、其報知次第、登京の筈のよし、

一播州姫路の城落城の噂、市中ニテ専ら風説のよし、しかれとも其後不承候間決テ虚説ならぬ、

四月二日　旧二月十九日

一春山并徳尾抔大口ニテ殺害ニ逢風説頻リ也、

四月四日　旧二月廿一日

一肥後の城の堀廻りをせき留、城中エ水を流込、城中水溢れ候由専ら風説也、壱万俵明表ニテ堰き留候由、

一市中の説に捕縛人裁判にかゝり候処、惣テ申かへ、野村壱人凛乎として少も不屈、いつれ東京に不相廻テハ済ましく、大久保は上官の事にも有之、取扱別テ六ケ敷故軍艦に乗せ付相成候よしの説也、

一中原尚雄は伊集院町手前橋の脇の辺へ居住の者にて、当地諸所打くやし方有之時分、伊集院衆中列を立、相待居候得共、其事無之、彼の手ニテ打くやし其外一二ケ所打毀候由、前隣之寺田の下女は名はつる尚雄の妹ニテ直ニ暇を出候由、

四月五日　旧二月廿二日

一去ル卅一日限リニテ別府・邊見の兵大口ニテ相揃、一日二日の間ニモ肥後出兵の兵と双方挾打の手筈のよし申来候段、吉野戸長之咄也、

但諸郷ヨリ段々出兵ニテ、凡壱万余ニ相成候よし、

一田原坂の本営をやかれ候説、昨日方より有之候事、

一大帽子無之兵隊大ニ困り居候よし、

一昨夜より五夜程凡三四拾駄位仕送リ相成、惣テ吉田を経て加治木へ出、夫より人馬殊之外難儀いたし候よし、其後も毎夜程四五拾駄位も差越候よし、

各区正副戸長

警察費并民費課出之儀、兼テ御規則モ有之候処、是迄士

族中持高ニ応シ、草高壱石ニ付八升壱合ツヽ、差出、右ヲ以テ民費遣払来候処、方今ノ世態人民保護ヲ一層厳密取締ヲ着候為メ、巡査多人数相増候ニ付テハ、用途差支候間、県内一同課出申付候条戸毎無洩相達、人々志ヲ以テ差出候様致説諭取揃、銘々姓名并員数相記シ第六課エ、庁下ハ本月十五日限リ、諸郷ハ同廿八日限可差出、此旨相達候事、

鹿児島県令大山綱良代理
大書記官田畑常秋

右之通区内々エ布告相成候処、皆挙て献金相成候趣ニ候、

出水士族二ノ宮甚之丞手負ニテ　去月廿八日川尻出立　昨四日帰郷ニ付差越　直咄承候形行左之通リ

一三月廿三日夜、熊本城内ヨリ八代東軍本営ニ書翰之趣は明廿七日迄応援ナクンハ可致降伏との大意ニテ候由候処、翌廿七日午前六時比ヨリ五時迄砲声いたし、右ニ付城内ヨリ破出たる由なれとも、番兵之を打留、城内へ逃込候由、翌廿八日夜明時分ヨリ又破出候儀共同断ニテ又々城内へ逃籠、同廿九日は夜明四時分ヨリ城内の砲声途中ヨリ聞、其日十ニ八九は落城候半との咄ニテ候事、

一城内兵粮握リ飯昼夜ニ三ツヽ、宛行候由、城中より抜出候鎮台兵長州人の咄ニテ候よし、

右二ノ宮ヨリ承り候よし、

一塩硝三百斤位水俣辺へ有之由承候付、手を付置候処、湯の浦ニ有之段、今昼過当所エ川路正右衛門外ハ水俣人ヨリ内々申出候付、荷作出来次第求摩(球磨)城下の様可送越談合仕置候付、代金等之儀は跡以可差遣申付置候、

一佐敷辺の東兵五日跡ヨリ壱人も不罷居、日奈久・鳩山す口と申所エ引取候由、探索に差出候者ヨリ承候事、

一本月十五日六日の比大山彌介手負、道中久留米赤坂ニテ死ス、三好少将は腕ト足エ手傷シ、野津ハ無事、山縣ハ山田等の周旋ノ由、薩人加世田彌右衛門は深手、吉利壮之助戦死、

一廿一日久留米より巡査三百名南ノ關ニ入、同廿二日樋口ニ掛ル、

一木葉の近方ニは八百人戦死墳アリ、

一廿二日更ニ五百計、死骸ヲハブ里ノ寺ニ積置アリ、

一伊倉ニ千人以上ノ戦死墳アル由、

一高瀬・木葉・吉次方の戦、惣戦死凡三千計ト云、
一近衛兵三月三日四日ノ戦ヒ、吉次越ニテ一中隊は過半戦死、其後一中隊ハ同士打ニテ殆ント残リナク死傷アリト云、
一敵軍ハ惣数死傷二万ト云、
一当夜官吏遠近・横田・松村・県一名南ノ關御会所ヱ集リ、県庁ヲ設ケ種々周旋スル由、有栖川宮廿二日南ノ關ヱ入込、人力車七十二挺其外護兵少々アリ、
一曾我準(祐準)三旧里柳川へ報知シ、莊内守護ニ付、二ノ隊ヲ率シ出張スト、

右高木直次郎探偵、
三月廿四日　協同隊
右丑七月五日トアリ、

小臣等

斧鉞ノ誅ヲ冒シ、血涙号泣昧死、以テ我
天皇陛下ニ上言ス、小臣等員ニ司法官ノ後ニ備リ、今又鹿兒島裁判所ニ在リ、今般陸軍大将西郷隆盛上京スルヲ目撃ス、豈之ヲ黙スルニ忍ンヤ、抑此原因タルヤ旧警視庁警部中原尚雄等同人ヲ竊カニ暗殺セントスル陰謀発覚シ、其供出スル処別冊ノ如シ、実ニ驚愕為ス所ヲ知ラス、是西郷隆盛等我
政府へ伺問ノ意アリ、登京スル所以カ、然レハ則チ一朝暴動ヲ以テ目ス可カラス、宜ク源ニ溯リ其主謀ノ者ヲ処スル法律ヲ以テシ、以テ国憲ヲ正サヽル可カラス、然リ而シテ何事カ今日ノ齟齬ヲ生シ、六軍西ニ下リ、西郷隆盛等ノ行程ヲ遮リ、国民ノ如何ヲ顧ミス、此惨毒ヲ為スニ至リ、且当県令ノ使節ヲ抑留シ、其意ヲ中塞シ、大ニ疑フ所アルカ如シ、然リト雖トモ、今地方官ノ任ニ背カサルハ、小臣等ノ熟知スル所也、然ルニ勢已ニ斯ノ如シ、嗚乎今日ノ人民実ニ方向ノ帰スル所ヲ知ラス、小臣等痛嘆ノ至ニ堪ス、且夫該犯数十名ノ如キ、当県庁已ニ我裁庁ノ検事ニ附シ、検事之レヲ司法卿ニ具申ス、其犯罪ノ證アル、已ニ司法卿之レヲ、
陛下ニ奏問スル所アル可シ、仰願クハ、
陛下ノ至仁犬馬ノ言ヲ退ケス、我国民ノ塗炭ヲ憐察シ、速カニ非常ノ
宸断ヲ垂レ玉ハン事ヲ、小臣等恐懼ノ至ニ堪エス、謹テ言上ス、

鹿兒島裁判所在勤
吉木祐雄

小野道一
山本守時
八代　規
小河重任
郡司盛義
長島鐵太郎

小官等之ヲ司法官ニ受ケ、鹿兒島裁判所ニ奉シ、今般ノ形勢ヲ目擊シ憂国ノ至情黙スルニ忍ヒス、敢テ潛ニ越ノ罪ヲ犯シ、我カ
天皇陛下ニ奉呈スルニ別紙ヲ以テス、願クハ、
閣下小官等ノ微衷ヲ憐察シ、　至尊非常ノ
宸断ヲ翼贊シ、人民ノ塗炭ヲ救ヒ玉ハン事ヲ、小官等謹テ言ス、

鹿兒島裁判所在勤

明治十年三月三日　長島鐵太郎
郡司盛武
小河重任
八代　規
山本守時

小野道一
吉木祐雄

太政大臣三條實美殿下